

米に関するマンスリーレポート

(令和2年2月号)



「ここが分からない! マンレポ」掲載情報に関する読み解き方などを紹介しています
http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

目 次

今月の特集－令和元年産酒造好適米の生産量（推計値）

I 米の契約・販売

- 1 令和2年産備蓄米の政府買入 1
- 2 事前契約の取組状況 5
 - (1) 令和元年産における契約月別の事前契約数量の推移（速報） 6
 - (2) 事前契約数量と価格取決比率の推移 7
- 3 令和元年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年12月末現在）（速報） 9

II 米の在庫情報

- (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成25年7月末～令和2年6月末）（速報） . . . 12
- (2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比） 14
- (3) 平成30・令和元年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報） 15

III 米の価格情報

- 1 相対取引価格・数量
 - (1) 年産別の相対取引価格 23
 - (2) 相対取引価格・数量（令和元年産米、産地品種銘柄別、令和元年12月分）（速報） . . . 24
- 2 スポット価格の状況（日本コメ市場株式会社） 27
- 3 米の先物取引価格の推移 28
- 4 米取引関係者の判断（米穀機構による調査、令和2年1月分） 29

IV 主食用米以外（輸出を含む）

- 1 令和元年産米の作付状況
 - (1) 令和元年産米の用途別作付面積及び生産量 31
 - (2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率） 31
 - (3) 新規需要米の用途別認定状況 31
- 2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要
 - (1) 30米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計） 32
 - (2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移 33
- 3 酒造好適米の需給状況
 - (1) 日本酒の出荷状況 34
 - (2) 日本酒原料米の使用状況 34
 - (3) 酒造好適米の生産量 35
 - (4) 酒造好適米の需要量 35
- 4 飼料用米の需要量 36
- 5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について 38
- 6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について 39

V	支援事業等	
	(1) 水田活用の直接支払交付金	40
	(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	45
	(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）	48
	(4) 収入保険	50
	(5) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	52
	(6) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト	54
VI	消費動向	
	(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）	56
	(2) 購入数量の推移（家計調査）	57
	(3) 消費者物価指数の推移	58
	(4) 小売物価統計の推移	59
	(5) 米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向	60
	(6) 中食・外食事業者の米の仕入状況	61
	(7) 小売価格の推移（POSデータ）	62
VII	輸入米（MA米、CPTPP・国別枠）の動向	
	1 MA米（一般、SBS）	
	(1) MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	63
	(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成31年度・令和元年度）	64
	(3) SBS輸入米の見積合わせ結果（令和元年度）	65
	2 CPTPP・国別枠の見積合わせ結果（令和元年度）	66
VIII	その他	
	(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果	67
	(2) 令和元年産水稲の収穫量	68

今月の特集

【令和元年産酒造好適米の生産量（推計値）】

令和元年産酒造好適米の生産量を農産物検査結果から推計し、生産動向と需要動向の検証を行いました。

概要は以下のページで紹介しています。より詳細な情報は、下記URLよりご参照ください。

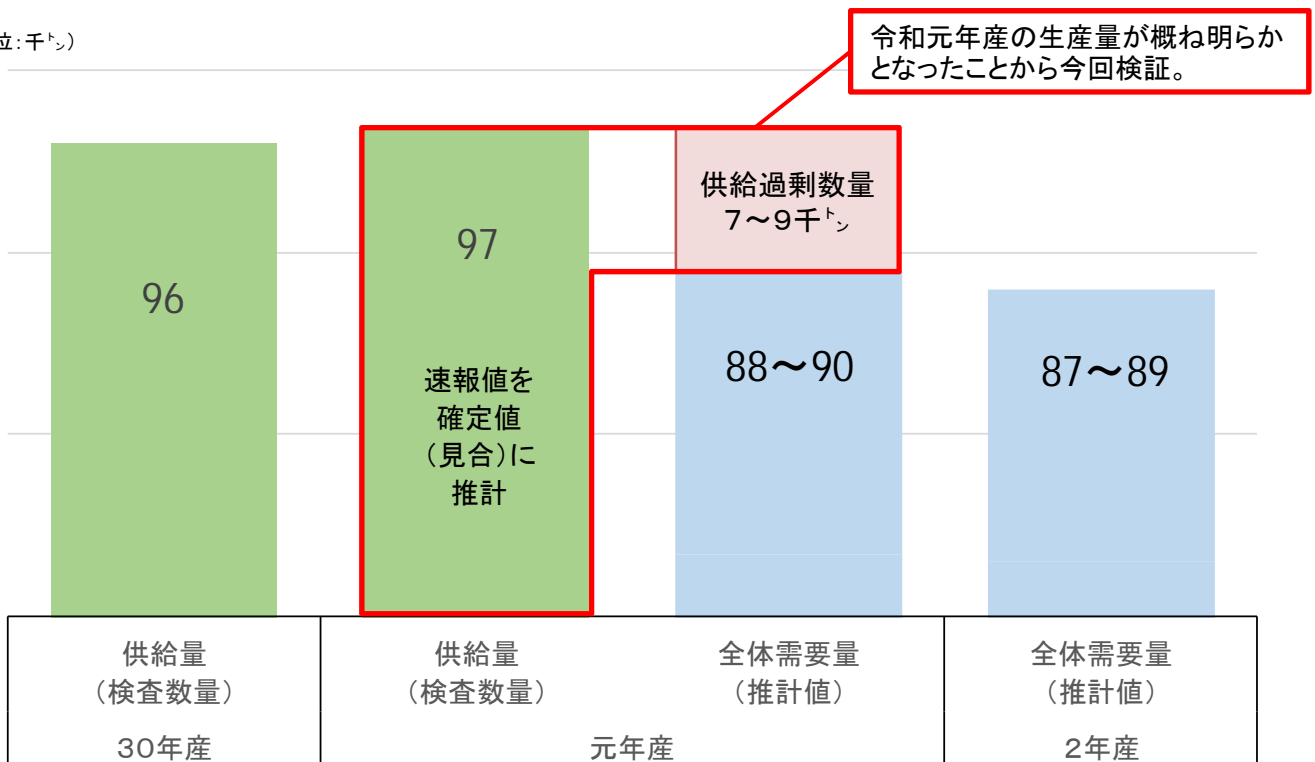
http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

【令和元年産酒造好適米の生産状況】

- 令和元年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、生産概況が明らかとなりました。これを元に令和元年産酒造好適米の生産量を推計したところ、97千ト程度と平成30年産と同程度の生産量が見込まれます。
- この結果、令和元年産酒造好適米の全体需給は、生産量が需要量を7～9千ト程度上回る状況と見込まれます。
- 令和2年産の作付けに当たっては、需要量調査結果や生産量等のデータを参考にしつつ、自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。また、将来にわたって酒造好適米の安定生産・安定調達が可能となる複数年契約に取り組むことも重要です。

酒造好適米の全体需給状況見通し（推計）

（単位：千ト）



注1：供給量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。

注2：令和元年産及び令和2年産の需要量は、令和元年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する可能性があることに留意する必要がある。

令和元年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- 令和元年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から97千トと推計され、平成30年産とほぼ同程度の生産量となる見込みです。
- 主要な品種では、昨年に比べて作柄の良かった山田錦及び美山錦は微増となる一方、五百万石は減少する見込みです。

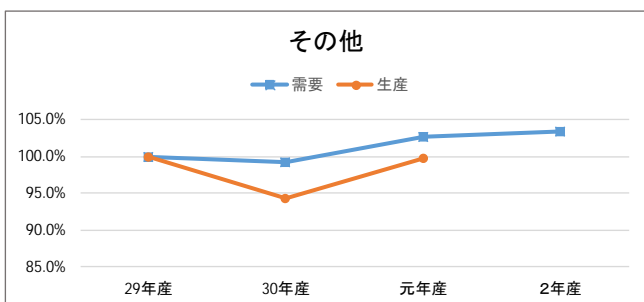
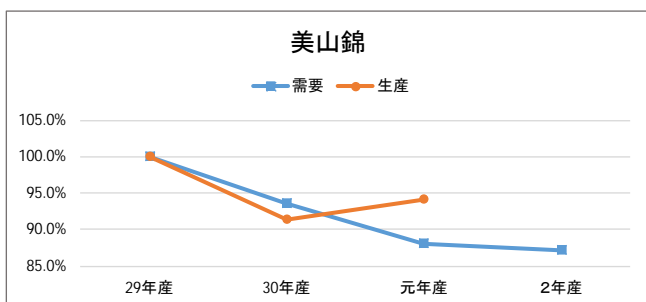
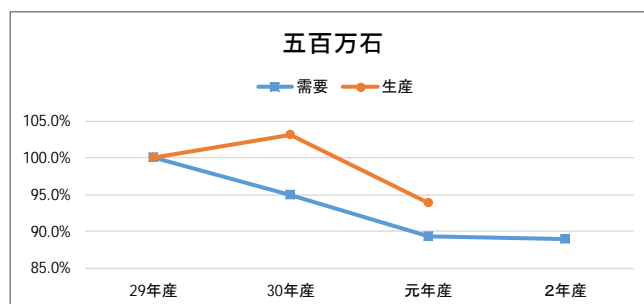
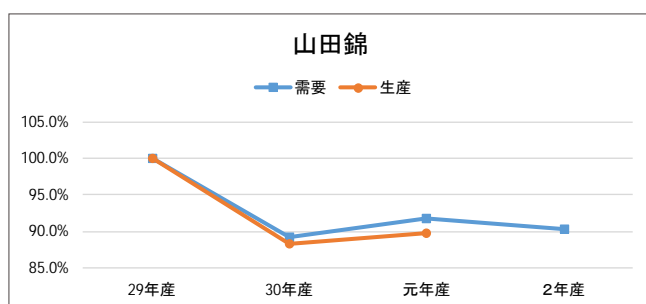
農産物検査数量（12月31日現在）及び令和元年産生産量の推計

（単位：トン、％）

品種	28年産		29年産			30年産			元年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	36,563	37,257	37,558	38,431	103.2%	33,071	33,916	88.3%	33,744	34,503	101.7%
五百万石	22,644	26,030	19,017	20,564	79.0%	18,935	21,203	103.1%	17,315	19,324	91.1%
美山錦	7,272	7,513	6,977	7,018	93.4%	6,239	6,408	91.3%	6,465	6,604	103.1%
その他	33,165	35,817	33,490	36,388	101.6%	32,153	34,330	94.3%	33,576	36,277	105.7%
総検査数量	99,644	106,618	97,042	102,400	96.0%	90,398	95,856	93.6%	91,099	96,708	100.9%

生産量と需要量の増減率の比較（平成29年産基準）

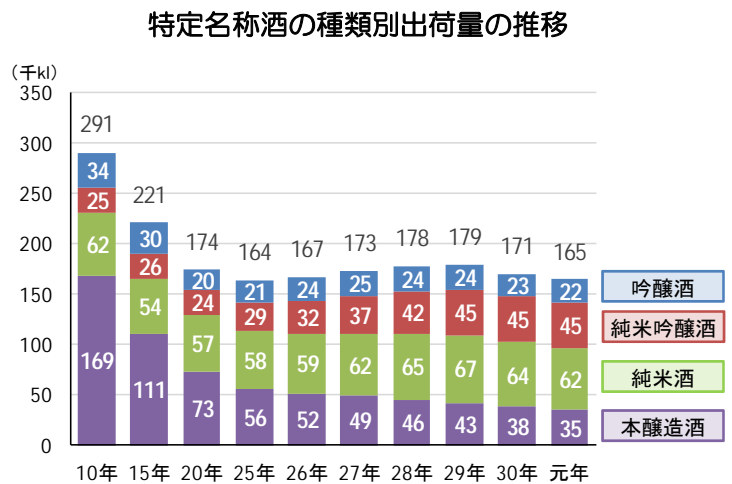
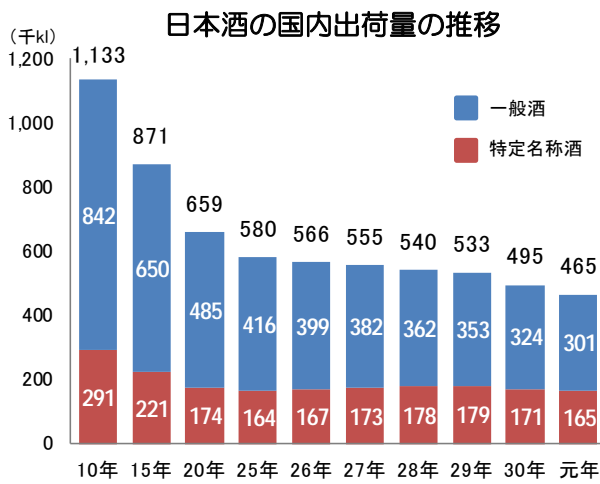
- 平成29年産を基準として酒造好適米の生産量（農産物検査数量）と需要量（需要量調査報告数量）の増減率を比較すると下図のとおりであり、全体的にはほぼ需要の増減の動きに応じた生産動向となっていることがうかがえます。
- 下図は需要動向に応じた生産動向となっているかを増減の動きで検証したものであり、定量的、地域的な需要の過不足を表しているものではないことに留意が必要です。したがって平成29年産において需要が均衡していたとするものではありません（平成29年産は酒造好適米全体で生産量が需要量を9%程度上回る状況）。
- 令和2年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、引き続き、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。



以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。
http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていましたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万kl程度まで減少しています。
- 一方、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、消費者の志向が量から質へと変化していることから、国内出荷量全体に占める特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の割合は増加傾向で推移しています。
- 平成30年は、日本酒の国内出荷量が前年比▲7%と大幅に減少し、特定名称酒についても、純米吟醸酒は堅調であったものの、本醸造酒等の減少により特定名称酒全体としては減少に転じました。令和元年においても、国内出荷量は前年比▲6%となっており、前年と同様の傾向が続いています。



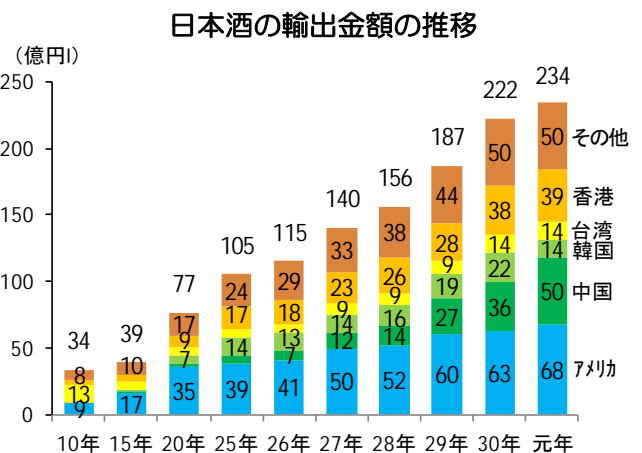
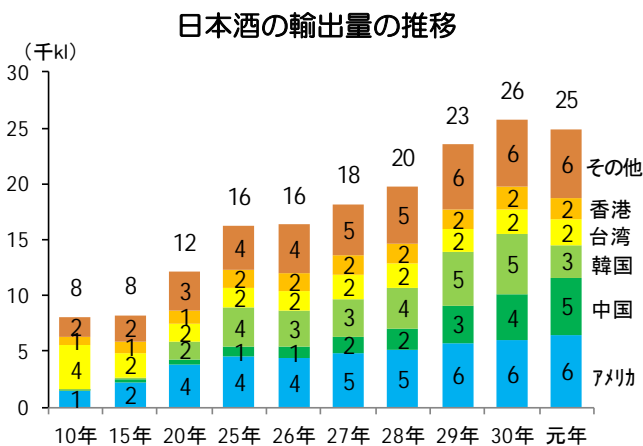
資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量で元年は概算値。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向にあります。また、日本酒の全出荷量に占める輸出量の割合は約5%にまで増加しています。ただし、元年の輸出量は減少に転じており、今後の動向に注視が必要です。
- 輸出先では、アメリカ、中国への輸出は増加している一方、韓国への輸出数量は減少しています。



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

I 米の契約・販売

1 令和2年産備蓄米の政府買入

～令和元年産で改善した運用は継続！更に追加で改善！～

備蓄米は、不作により供給が減少する事態等に備えて蓄えておく、国民にとって重要なお米です。

このため、以下のように、産地がより取り組みやすくなるよう元年産で改善した①～③の運用は2年産も継続して実施し、更に新たに④～⑥を追加で改善しています。

① 優先枠の維持（継続）

- ・ 産地は元年産の落札実績を2年産から4年産まで優先枠として維持（2年産入札では、原則として第1回～第3回入札まで優先枠を維持）。
- ・ これにより、他産地と競合することなく、継続的・安定的に備蓄米に取り組むことが可能。

※ 「優先枠」とは、都道府県別に入札枠を設け、他県と競合することなく優先的に入札できるようにする仕組み。

② 国への引渡開始時期（継続）

- ・ 収穫後、速やかな国への引き渡しが可能（令和2年9月1日から可能）。

③ 農業者別結び付け要件（農業者別引渡数量報告）の廃止（継続）

- ・ J A等の集荷業者(売渡人)から国に対する備蓄米の農業者別引渡数量の報告を廃止。

※ 地域農業再生協議会別の備蓄米の取組面積を把握する必要があることから、地域農業再生協議会別の備蓄米引渡予定数量については報告が必要。

④ 電子入札の実施（新規）

- ・ 令和2年産から電子入札を実施。これにより、入札書を提出する時間や費用をかけずに入札への参加が可能。ただし、これまでどおり紙による入札も可能。

⑤ 穀粒判別器により測定した米穀を買入対象に追加（新規）

- ・ 農産物検査規格の要件（品位等級3等以上）に加え、穀粒判別器を活用した新要件による試験的な買入れを500トン程度実施。

これにより、従来どおりの農産物検査証明を受けた米穀のほか、新要件（穀粒判別器の測定結果）による米穀の国への売り渡しが可能。

⑥ 備蓄米もナラシ対策の対象（新規）

- ・ 産地からの要望に応じ、令和2年産から主食用米と同様に備蓄米もナラシ対策の対象。

令和2年産国内産米穀の政府買入れは、農林水産省ホームページの次のURLからご覧いただけます。
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kaiire/0207.html>

問い合わせ先 農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班
代表：03-3502-8111（内線4975） 直通：03-6738-8973

令和2年産備蓄米の政府買入予定数量

備蓄米の政府買入予定数量	20万7千トン
うちCPTFP分	7千トン

(単位：トン)

都道府県別優先枠(第2回)	171,597
北海道	2,162
青森	20,934
岩手	3,078
宮城	11,344
秋田	20,660
山形	19,182
福島	25,820
茨城	879
栃木	6,090
群馬	555
埼玉	357
千葉	3,797
新潟	25,042
富山	12,174
石川	7,800
福井	4,076
長野	1,426
岐阜	425
静岡	20
愛知	846
三重	270
滋賀	1,314
鳥取	390
島根	120
岡山	789
広島	20
徳島	1,182
高知	10
福岡	264
佐賀	220
長崎	10
熊本	247
大分	94
一般枠(指定なし)	19,744
合計	191,341

令和2年産備蓄米の政府買入れの当面のスケジュール(予定)

入札日	契約締結時期	引渡開始時期
1月21日 (第1回)	令和2年4月末まで	令和2年9月1日
2月13日 (第2回)		

※1 入札公告現在の予定である。

※2 原則として第1回から第3回までの入札においては、都道府県別優先枠及び一般枠を設けることとする(ただし、当該回の入札で都道府県別優先枠が全て落札された場合はこの限りでない。)。当該回の入札において都道府県別優先枠の買入予定数量を超えて応札された数量については、一般枠への応札とみなす。

穀粒判別器を活用した備蓄米の政府買入れの試験的实施について

1 趣旨

- (1) 令和2年産備蓄米の政府買入れについては、現行の農産物検査規格の要件（品位等級区分：3等以上）に加え、令和2年産から新型の穀粒判別器が検査現場へ導入されることを踏まえて、測定機器の測定値を活用した独自の新要件による試験的な買入れを行うこととする。
- (2) なお、令和2年産における新要件の実施状況を踏まえて、翌年産に向けて見直すこととする。

2 政府買入数量等

- (1) 新要件による買入数量は、生産者等の売渡しのニーズを把握するための試験的な運用として、買入予定数量のうち500トン程度を上限として設定する。
- (2) なお、「新要件」と「農産物検査規格の要件」を区分せず入札を行うこととし、売渡申込資格者からの売渡申込みに応じて、「新要件」と「農産物検査規格の要件」のいずれかの選択が可能となるような措置を講ずる。

3 政府買入要件等

- (1) 新要件の内容については、令和2年産備蓄米の第1回政府買入入札公告において、周知することとする。
- (2) 新要件による買入れについては、備蓄米としての一定の品質（カビ発生リスクやとう精歩留まり）を確保するため、以下の項目に関して、売渡申込資格者に申告及び品位の測定を義務付けることとする。
なお、穀粒判別器の測定値等に応じた品質格差を設けることはしない。
 - ① 令和2年産水稻うるち玄米であること
 - ② 産地について、単一の都道府県名が伝達（表示）されたものであること
 - ③ 品種について、単一の品種名（入札公告で定める多収品種を除く。）が伝達（表示）されたものであること
 - ④ 一定のふるい目幅以上で選別されたものであること
 - ⑤ 電気水分計及び穀粒判別器の測定結果により、水分含有率並びに白未熟粒（死米を除いた成熟していない粒であって、乳白粒、心白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒及び背白粒の合計）及び被害粒等（死米（青死米及び白死米）、着色粒、胴割粒及び砕粒の合計）の混入割合について、一定の品位のものであること
 - ⑥ その他被害粒（病害粒、発芽粒その他の損傷を受けた粒）並びに異種穀粒及び異物の混入割合について、一定の品位のものであること
 - ⑦ その他必要な要件を設定
- (3) 新要件で使用する測定機器については、政策統括官が別に定めることとし、近日中に改正予定の「農産物検査に関する基本要領」（平成21年5月29日付け21総食第213号総合食料局長通知）で規定する仕様等を満たす電気水分計及び穀粒判別器とする。

政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果（令和2年産）

令和2年産

（単位：トン）

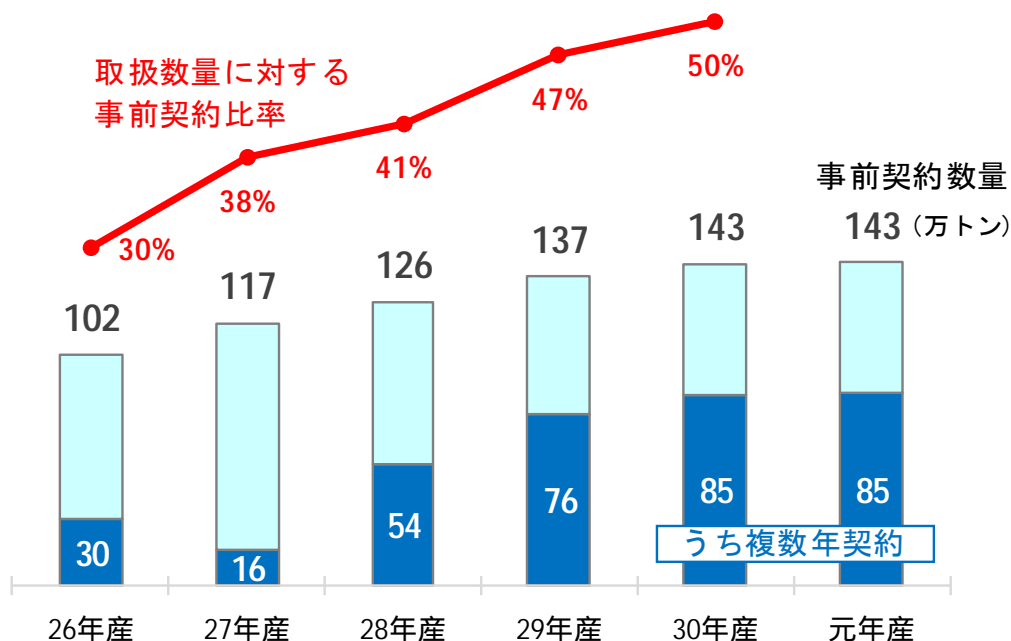
買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果	
		第1回 令和2年1月21日実施	落札合計数量
北海道	2,162	0	0
青森	27,259	6,325	6,325
岩手	3,488	410	410
宮城	11,600	256	256
秋田	21,572	912	912
山形	21,291	2,109	2,109
福島	27,050	1,230	1,230
茨城	1,103	224	224
栃木	7,602	1,512	1,512
群馬	555	0	0
埼玉	463	106	106
千葉	3,985	188	188
東京			
神奈川			
新潟	25,149	107	107
富山	12,197	23	23
石川	7,849	49	49
福井	4,076	0	0
山梨			
長野	1,446	20	20
岐阜	435	10	10
静岡	20	0	0
愛知	846	0	0
三重	270	0	0
滋賀	1,342	28	28
京都			
大阪			
兵庫			
奈良			
和歌山			
鳥取	400	10	10
島根	130	10	10
岡山	977	188	188
広島	20	0	0
山口			
徳島	1,182	0	0
香川			
愛媛			
高知	10	0	0
福岡	264	0	0
佐賀	220	0	0
長崎	10	0	0
熊本	247	0	0
大分	94	0	0
宮崎			
鹿児島			
沖縄			
都道府県別枠計	185,314	13,717	13,717
指定なし	21,686	1,942	1,942
合計	207,000	15,659	15,659
うちCPTPP分			7,000

	買入予定数量 ①	合計落札数量 ②	落札比率 ②/①	落札残 ①-②
備蓄米入札 落札結果	207,000	15,659	7.6%	191,341

2 事前契約の取組状況

- 近年、主食用米では事前契約（複数年契約）の取組が増加しており、30年産は143万トン、取扱数量に対する事前契約比率は50%となっている。
- 元年産は12月末時点で143万トンとなっており、30年産と横ばいの状況。

【近年の事前契約数量の推移】



【業態区分別 事前契約の取組状況（令和元年産、速報値）】

	(万トン)		
	事前契約	複数年契約	単年契約
元年産	143.3 (100%)	85.4 (100%)	57.9 (100%)
全国農業協同組合連合会 経済連及び県単一農協等 全集連・全集連系県集荷組合	134.9 (94%)	81.4 (95%)	53.5 (92%)
単位農協 全集連系業者	8.4 (6%)	3.9 (5%)	4.5 (8%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間取扱量5,000トン以上の出荷事業者。

2：「事前契約数量」は、収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量。

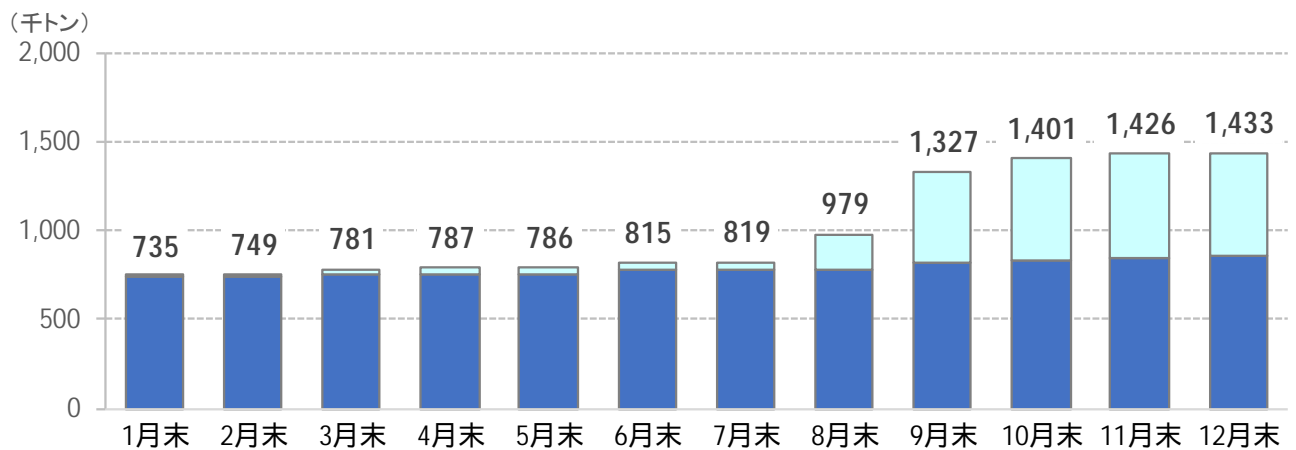
3：「複数年契約」の契約期間は3年間が大宗である。

4：「単年契約」とは、は種前・収穫前契約による数量。

5：30年産以前は確定値、元年産は元年12月末時点の速報値。

6：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(1) 令和元年産における契約月別の事前契約数量の推移（速報）



数量内訳

	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末
■ 単年契約	1	14	27	30	30	39	41	195	505	566	579	579
■ 複数年契約	734	735	754	757	756	776	778	784	822	835	847	854
単年契約／事前契約数量計						5%	5%	20%	38%	40%	41%	40%

【都道府県別の取組状況（6月末時点との比較）】

都道府県	6月末時点		12月末時点		都道府県	6月末時点		12月末時点	
	事前契約数量	うち単年契約	事前契約数量	うち単年契約		事前契約数量	うち単年契約	事前契約数量	うち単年契約
北海道	172.2	-	208.5	25.5	滋賀	7.7	-	34.9	18.8
青森	10.1	-	56.7	37.2	京都	-	-	6.8	6.8
岩手	82.1	-	88.8	-	大阪	-	-	-	-
宮城	125.9	13.2	126.9	13.2	兵庫	13.0	13.0	13.0	13.0
秋田	95.3	8.9	190.7	89.1	奈良	-	-	-	-
山形	21.0	-	79.6	50.2	和歌山	-	-	-	-
福島	43.2	-	45.5	1.1	鳥取	4.1	4.1	4.1	4.1
茨城	-	-	16.2	15.2	島根	2.4	-	34.0	30.8
栃木	69.6	-	74.0	4.5	岡山	-	-	-	-
群馬	-	-	0.2	0.2	広島	-	-	24.7	24.7
埼玉	0.6	-	7.8	6.9	山口	0.6	-	22.4	21.7
千葉	8.1	-	12.0	-	徳島	-	-	2.2	2.2
東京	-	-	-	-	香川	3.3	-	15.8	10.1
神奈川	-	-	-	-	愛媛	-	-	3.3	3.3
山梨	-	-	-	-	高知	-	-	2.1	2.1
長野	31.0	-	35.1	2.6	福岡	0.6	-	33.3	32.6
静岡	0.0	0.0	1.7	1.7	佐賀	-	-	-	-
新潟	110.7	-	171.0	63.2	長崎	-	-	-	-
富山	0.7	-	38.6	30.4	熊本	-	-	-	-
石川	1.5	-	21.7	20.2	大分	-	-	4.0	4.0
福井	9.3	-	9.1	-	宮崎	-	-	-	-
岐阜	-	-	15.0	12.4	鹿児島	-	-	-	-
愛知	1.5	-	13.0	11.3	沖縄	-	-	-	-
三重	-	-	20.0	20.0	全国	815	39	1,433	579

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間取扱量5,000トン以上の出荷事業者。

2：「事前契約数量」は、収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量。

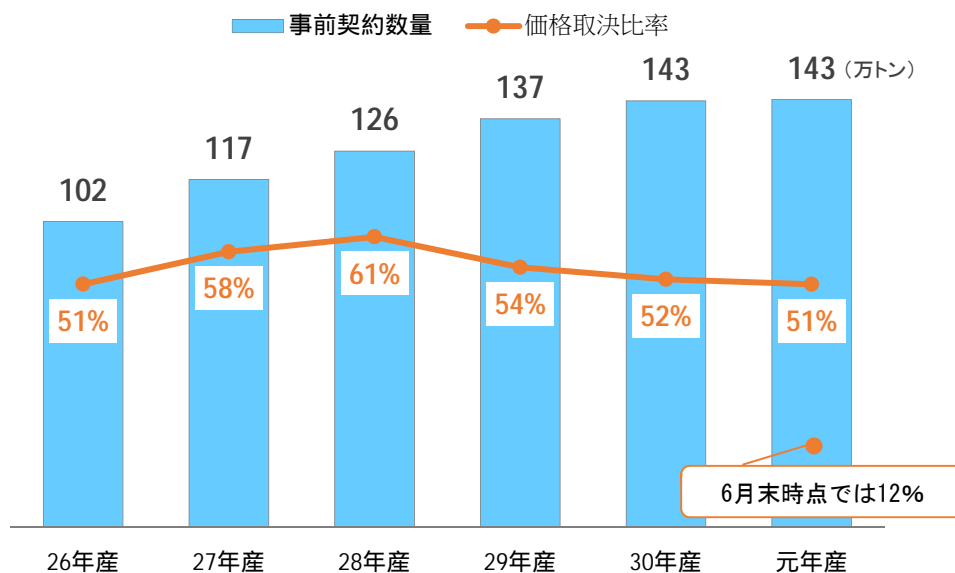
3：「複数年契約」の契約期間は3年間が大宗である。

4：「単年契約」とは、は種前・収穫前契約による数量。

5：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 事前契約数量と価格取決比率の推移

- 事前契約における価格取決数量について、元年産は12月末時点で契約数量の51%（対前年▲1%）、6月末時点では12%となっている。



注1:「価格取決数量」は、基準価格の±10%の範囲内の一定の幅を設けた価格取り決めを含む。

2:「価格取決比率」は、各年産の事前契約数量(30年産以前は確定値、元年産は速報値)を生産年の12月末時点の価格取決数量で除した値である。

【年産別 事前契約に占める価格取決比率】

(千トン、%)

都道府県	30年産		元年産		前年差	
	①	価格取決比率	②	価格取決比率	②-①	価格取決比率
北海道	174.6	53%	208.5	54%	+ 33.9	+ 2%
青森	52.4	27%	56.7	37%	+ 4.3	+ 10%
岩手	92.2	66%	88.8	100%	▲ 3.4	+ 34%
宮城	117.6	44%	126.9	46%	+ 9.3	+ 2%
秋田	182.4	31%	190.7	36%	+ 8.3	+ 5%
山形	70.8	56%	79.6	46%	+ 8.8	▲ 10%
福島	49.5	21%	45.5	33%	▲ 4.0	+ 12%
茨城	16.0	81%	16.2	44%	+ 0.2	▲ 37%
栃木	73.1	17%	74.0	42%	+ 0.9	+ 25%
群馬	0.1	100%	0.2	100%	+ 0.1	±0%
埼玉	9.2	50%	7.8	53%	▲ 1.4	+ 3%
千葉	10.3	94%	12.0	95%	+ 1.7	+ 1%
東京	-	-	-	-	-	-
神奈川	-	-	-	-	-	-
山梨	-	-	-	-	-	-
長野	32.5	81%	35.1	68%	+ 2.6	▲ 13%
静岡	1.9	84%	1.7	59%	▲ 0.2	▲ 25%
新潟	156.2	77%	171.0	49%	+ 14.8	▲ 28%
富山	48.9	66%	38.6	73%	▲ 10.3	+ 6%
石川	23.3	30%	21.7	40%	▲ 1.6	+ 10%
福井	8.3	31%	9.1	22%	+ 0.8	▲ 9%
岐阜	9.2	29%	15.0	33%	+ 5.8	+ 4%
愛知	15.1	100%	13.0	100%	▲ 2.1	±0%
三重	19.8	65%	20.0	31%	+ 0.2	▲ 34%
滋賀	40.0	51%	34.9	60%	▲ 5.1	+ 8%
京都	7.1	90%	6.8	69%	▲ 0.3	▲ 21%
大阪	-	-	-	-	-	-
兵庫	12.5	100%	13.0	100%	+ 0.5	±0%
奈良	-	-	-	-	-	-
和歌山	-	-	-	-	-	-
鳥取	5.7	58%	4.1	68%	▲ 1.6	+ 10%
島根	34.2	80%	34.0	63%	▲ 0.2	▲ 17%
岡山	0.5	0%	-	-	▲ 0.5	-
広島	18.8	47%	24.7	17%	+ 5.9	▲ 31%
山口	27.1	33%	22.4	36%	▲ 4.7	+ 3%
徳島	-	-	2.2	59%	+ 2.2	-
香川	16.4	78%	15.8	63%	▲ 0.6	▲ 15%
愛媛	4.2	29%	3.3	100%	▲ 0.9	+ 71%
高知	2.0	100%	2.1	100%	+ 0.1	±0%
福岡	33.0	31%	33.3	29%	+ 0.3	▲ 2%
佐賀	26.2	98%	-	-	▲ 26.2	-
長崎	7.0	34%	-	-	▲ 7.0	-
熊本	17.1	26%	-	-	▲ 17.1	-
大分	5.3	45%	4.0	33%	▲ 1.3	▲ 13%
宮崎	8.2	104%	-	-	▲ 8.2	-
鹿児島	-	-	-	-	-	-
沖縄	-	-	-	-	-	-
全国	1,429	52%	1,433	51%	+ 4.0	▲ 1%

注1:30年産の価格取決比率は、①30年産の事前契約数量(確定値)を30年12月末時点の価格取決数量で除した値である。12月末以降に契約変更等が生じた産地では、価格取決比率が100%を超える場合がある。

2:元年産の価格取決比率は、②元年産の事前契約数量(元年12月末時点)を元年12月末時点の価格取決数量で除した値である。

3:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

【平成30・令和元年産における事前契約の状況】

令和元年産米の事前契約比率（集荷数量に対する事前契約数量の比率）等については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

単位：千玄米トン

都道府県	平成30年産					令和元年産(速報値)	
	集荷数量 ④	事前契約数量 ⑤	事前契約比率 ⑤/④	うち複数年契約 ⑥	複数年契約比率 ⑥/④	集荷数量	事前契約数量
北海道	311.1	174.6	56%	173.3	56%	302.1	208.5
青森	149.7	52.4	35%	37.2	25%	148.3	56.7
岩手	129.6	92.2	71%	82.4	64%	133.3	88.8
宮城	171.2	117.6	69%	103.3	60%	139.7	126.9
秋田	251.6	182.4	73%	85.4	34%	265.5	190.7
山形	188.6	70.8	38%	21.2	11%	181.6	79.6
福島	159.0	49.5	31%	41.8	26%	155.6	45.5
茨城	71.8	16.0	22%	2.5	3%	61.4	16.2
栃木	136.4	73.1	54%	71.1	52%	125.6	74.0
群馬	25.0	0.1	0%	-	-	16.2	0.2
埼玉	18.4	9.2	50%	0.6	3%	16.6	7.8
千葉	79.6	10.3	13%	10.3	13%	59.1	12.0
東京	0.0	-	-	-	-	0.0	-
神奈川	2.3	-	-	-	-	1.8	-
山梨	6.0	-	-	-	-	5.8	-
長野	67.2	32.5	48%	31.8	47%	68.9	35.1
静岡	6.0	1.9	32%	-	-	8.7	1.7
新潟	260.5	156.2	60%	124.2	48%	281.8	171.0
富山	91.9	48.9	53%	8.2	9%	87.8	38.6
石川	27.2	23.3	86%	1.5	6%	24.6	21.7
福井	70.0	8.3	12%	8.3	12%	63.7	9.1
岐阜	20.3	9.2	45%	2.6	13%	19.8	15.0
愛知	31.9	15.1	47%	1.5	5%	28.8	13.0
三重	28.7	19.8	69%	-	-	24.6	20.0
滋賀	56.8	40.0	70%	36.5	64%	43.5	34.9
京都	9.4	7.1	76%	-	-	7.9	6.8
大阪	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	40.1	12.5	31%	-	-	40.2	13.0
奈良	7.9	-	-	-	-	8.4	-
和歌山	0.9	-	-	-	-	0.9	-
鳥取	22.5	5.7	25%	-	-	22.9	4.1
島根	38.1	34.2	90%	3.2	8%	32.8	34.0
岡山	22.7	0.5	2%	-	-	11.6	-
広島	32.5	18.8	58%	1.5	5%	28.3	24.7
山口	40.2	27.1	67%	0.8	2%	31.1	22.4
徳島	4.9	-	-	-	-	5.6	2.2
香川	21.8	16.4	75%	-	-	18.8	15.8
愛媛	10.1	4.2	41%	-	-	7.8	3.3
高知	8.4	2.0	23%	-	-	9.3	2.1
福岡	53.1	33.0	62%	0.6	1%	36.1	33.3
佐賀	42.0	26.2	62%	-	-	25.2	-
長崎	11.6	7.0	61%	-	-	8.0	-
熊本	38.1	17.1	45%	-	-	26.4	-
大分	12.0	5.3	44%	-	-	8.6	4.0
宮崎	14.8	8.2	55%	-	-	11.8	-
鹿児島	13.0	-	-	-	-	7.9	-
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.4	-
全国	2,863	1,429	50%	850	30%	2,650	1,433

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2：報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3：令和元年産は令和元年12月末時点の数量である。

4：集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5：事前契約分とは、注4の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6：全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、都道府県の合計と一致しない。

7：「-」は、集荷数量や事前契約に該当がないもの。

3 令和元年産米の産地別契約・販売状況

(累計、うるち米、令和元年12月末現在) (速報)

令和元年産米の「契約比率」及び「販売比率」(集荷数量に対する進捗状況)については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量(北海道から静岡まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (平成30年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)			
北海道	302.1	254.7	90.6	109%	114%	122%
ななつぼし	143.8	124.5	39.9	115%	109%	118%
ゆめびりか	75.9	63.0	23.5	105%	122%	177%
きらら397	36.3	26.5	5.4	114%	134%	151%
青森	148.3	90.9	21.7	134%	117%	102%
まっしぐら	105.5	59.0	13.4	141%	128%	113%
つがるロマン	33.4	23.8	4.4	122%	105%	89%
岩手	133.3	94.9	16.7	102%	96%	92%
ひとめぼれ	102.2	69.7	11.8	100%	95%	89%
あきたこまち	14.2	12.8	1.7	109%	101%	95%
銀河のしずく	6.9	5.5	1.6
宮城	139.7	142.2	24.4	109%	105%	76%
ひとめぼれ	105.4	115.1	16.2	104%	101%	67%
つや姫	11.5	10.2	2.3	113%	118%	84%
ササニシキ	7.8	6.8	1.8	108%	99%	84%
秋田	265.5	220.9	52.2	112%	103%	107%
あきたこまち	215.2	186.3	45.9	113%	102%	107%
めんこいな	13.3	9.7	1.7	91%	92%	105%
ひとめぼれ	21.0	15.4	2.2	114%	98%	106%
山形	181.6	109.8	34.2	133%	97%	95%
はえぬぎ	102.3	56.2	14.3	135%	90%	93%
つや姫	37.1	25.8	10.4	127%	103%	101%
ひとめぼれ	14.5	10.0	3.8	118%	104%	90%
福島	155.6	77.2	17.7	115%	110%	107%
コシヒカリ中通り	43.5	15.3	4.5	101%	131%	89%
コシヒカリ会津	40.2	29.3	3.0	124%	93%	88%
コシヒカリ浜通り	6.7	5.6	0.7	108%	128%	165%
ひとめぼれ	28.4	10.6	2.5	107%	87%	80%
天のつぶ	22.4	9.9	3.0	142%	228%	241%
茨城	61.4	39.4	18.4	96%	97%	92%
コシヒカリ	44.8	28.2	9.6	95%	97%	85%
あきたこまち	9.1	7.7	7.4	97%	103%	100%
あさひの夢	1.1	0.1	0.1
栃木	125.6	82.1	18.9	93%	96%	100%
コシヒカリ	93.3	67.6	14.0	88%	90%	93%
あさひの夢	8.8	3.9	0.9	93%	109%	74%
とちぎの星	13.2	5.5	2.1
群馬	16.2	2.0	1.0	73%	28%	96%
あさひの夢	11.0	0.9	0.4	73%	18%	423%
ゆめまつり	3.1	0.8	0.4	66%	76%	113%
埼玉	16.6	11.0	3.5	93%	82%	109%
彩のかがやき	7.5	5.4	1.3	88%	71%	78%
コシヒカリ	3.7	2.3	0.7	80%	62%	76%
彩のきずな	3.9	2.6	1.0	120%	187%	358%
千葉	59.1	54.3	35.4	81%	99%	105%
コシヒカリ	26.8	25.8	13.3	79%	105%	103%
ふさこがね	14.3	13.3	9.3	88%	112%	141%
ふさおとめ	14.3	11.9	10.4	82%	81%	93%
東京	0.0	0.0	0.0	50%	50%	50%
神奈川	1.8	0.6	0.6	78%	80%	80%
山梨	5.8	1.0	1.0	101%	77%	77%
コシヒカリ	5.1	0.9	0.9	102%	79%	79%
長野	68.9	41.3	11.5	105%	93%	91%
コシヒカリ	54.4	32.9	8.8	104%	93%	93%
あきたこまち	7.5	4.0	1.0	101%	87%	83%
静岡	8.7	2.8	2.1	103%	117%	103%
コシヒカリ	5.8	1.9	1.4	102%	122%	100%
きぬむすめ	1.2	0.3	0.3	107%	186%	186%
あいちのかおり	0.8	0.2	0.2	96%	66%	66%

注: 本表の注意点は次々頁の脚注を参照

(新潟から広島まで)

	集荷数量 (千玄米ト)	契約数量 (千玄米ト)	販売数量 (千玄米ト)	参考：前年同月比 (平成30年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
新潟	281.8	238.7	73.2	113%	110%	94%
コシヒカリ一般	132.7	118.9	34.8	110%	107%	85%
コシヒカリ魚沼	32.8	19.0	10.0	120%	110%	103%
コシヒカリ佐渡	14.4	11.6	4.1	121%	100%	96%
コシヒカリ岩船	12.6	9.5	3.0	122%	85%	95%
こしいぶき	47.0	42.6	10.7	105%	121%	114%
富山	87.8	51.0	23.7	100%	82%	91%
コシヒカリ	63.0	38.6	18.5	94%	80%	92%
てんたかく	9.3	5.8	2.7	113%	101%	82%
石川	24.6	23.0	5.7	92%	97%	116%
コシヒカリ	13.2	13.4	2.7	79%	87%	135%
ゆめみづほ	4.3	3.9	1.1	82%	93%	80%
福井	63.7	55.6	23.5	98%	106%	98%
コシヒカリ	25.7	19.4	8.0	90%	98%	91%
ハナエチゼン	18.8	18.1	10.9	98%	107%	109%
あきさかり	6.8	5.5	1.3
岐阜	19.8	17.8	5.0	114%	126%	87%
ハツシモ	9.5	8.1	1.4	145%	109%	80%
コシヒカリ	5.8	4.1	1.4	97%	131%	97%
あさひの夢	0.5	0.4	0.1
愛知	28.8	27.1	8.5	95%	89%	92%
あいちのかおり	15.4	15.9	3.4	96%	92%	90%
コシヒカリ	9.1	8.0	3.5	98%	88%	97%
大地の風	1.1	1.4	0.3	90%	105%	90%
三重	24.6	22.0	6.4	90%	99%	86%
コシヒカリ一般	12.8	13.0	3.0	86%	99%	73%
コシヒカリ伊賀	6.3	4.4	1.8	100%	95%	136%
キヌヒカリ	1.8	1.1	0.1	84%	99%	34%
滋賀	43.5	39.4	14.4	93%	72%	85%
コシヒカリ	15.6	16.0	5.7	89%	76%	79%
キヌヒカリ	7.2	6.7	2.3	87%	66%	83%
みずかがみ	9.0	7.3	3.2
京都	7.9	7.7	2.3	87%	79%	89%
コシヒカリ	4.7	4.7	1.5	89%	74%	93%
キヌヒカリ	1.6	1.8	0.4	75%	78%	55%
ヒノヒカリ	0.9	0.3	0.3	98%	37%	211%
大阪	-	-	-
兵庫	40.2	35.7	12.2	102%	124%	96%
コシヒカリ	10.6	11.0	3.5	97%	147%	106%
ヒノヒカリ	3.5	2.7	0.6	85%	105%	82%
キヌヒカリ	2.8	2.4	0.8	91%	144%	110%
奈良	8.4	1.4	1.4	107%	76%	76%
ヒノヒカリ	6.7	1.0	1.0	110%	78%	78%
和歌山	0.9	0.9	0.2	94%	94%	96%
鳥取	22.9	16.4	6.6	103%	101%	118%
きぬむすめ	8.2	6.1	1.9	98%	108%	128%
コシヒカリ	7.2	5.4	2.0	95%	93%	94%
ひとめぼれ	5.5	4.3	2.4	94%	94%	124%
島根	32.8	34.1	8.9	93%	96%	98%
コシヒカリ	13.0	14.5	4.1	85%	95%	93%
きぬむすめ	13.3	13.2	2.5	102%	101%	109%
つや姫	4.2	4.3	1.3	95%	95%	116%
岡山	11.6	12.3	4.2	103%	99%	91%
アケボノ	1.5	2.0	0.4	238%	135%	130%
あきたこまち	0.9	0.9	0.5	85%	80%	85%
ヒノヒカリ	1.3	1.4	0.2	77%	84%	60%
広島	28.3	34.0	7.5	88%	105%	77%
コシヒカリ	11.6	15.8	3.4	84%	115%	76%
あきさかり	6.2	7.1	1.0	107%	139%	77%
あきろまん	2.4	3.4	0.5	79%	115%	73%

注：本表の注意点は次頁の脚注を参照

(山口から沖縄まで、全国計)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (平成30年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)			
山口	31.1	24.5	6.9	103%	99%	127%
コシヒカリ	8.7	7.8	2.5	104%	103%	128%
ひとめぼれ	7.7	5.8	2.0	108%	102%	142%
ヒノヒカリ	6.5	4.7	1.0	114%	96%	128%
徳島	5.6	3.3	1.8	115%	134%	99%
コシヒカリ	2.6	2.1	1.1	112%	149%	90%
キヌヒカリ	0.8	0.3	0.2	60%	63%	60%
香川	18.8	15.8	4.2	92%	91%	90%
コシヒカリ	6.4	5.8	2.0	88%	84%	100%
ヒノヒカリ	5.7	4.9	0.9	90%	84%	70%
おいでまい	3.8	3.3	0.7	92%	95%	92%
愛媛	7.8	6.0	3.6	85%	79%	98%
コシヒカリ	3.2	3.1	1.6	85%	98%	102%
ヒノヒカリ	1.3	0.6	0.4	82%	75%	86%
あきたこまち	0.8	0.8	0.5	63%	98%	101%
高知	9.3	6.6	6.6	152%	108%	108%
コシヒカリ	6.3	4.9	4.9	131%	101%	101%
ヒノヒカリ	1.1	0.5	0.5	499%	222%	222%
福岡	36.1	39.7	11.1	84%	98%	88%
夢つくし	12.6	13.1	4.8	83%	101%	102%
ヒノヒカリ	9.7	10.7	2.1	88%	94%	55%
元氣つくし	10.8	14.4	3.8	78%	99%	103%
佐賀	25.2	7.5	6.1	69%	25%	67%
夢しずく	9.7	3.0	2.7	72%	29%	82%
さがびより	5.8	0.7	0.4	63%	7%	23%
ヒノヒカリ	6.0	1.1	1.0	68%	16%	66%
長崎	8.0	8.6	2.1	81%	114%	78%
にこまる	2.9	3.6	0.5	79%	115%	83%
ヒノヒカリ	2.2	2.2	0.5	70%	93%	80%
コシヒカリ	1.2	1.2	0.5	85%	113%	75%
熊本	26.4	7.8	7.8	91%	38%	88%
ヒノヒカリ	10.8	1.7	1.7	86%	27%	59%
森のくまさん	3.9	0.9	0.9	101%	17%	117%
コシヒカリ	5.8	3.6	3.6	103%	63%	115%
大分	8.6	7.3	1.9	75%	94%	85%
ヒノヒカリ	5.5	4.6	0.9	70%	91%	82%
ひとめぼれ	0.7	0.5	0.2	87%	132%	134%
つや姫	1.5	1.6	0.5	…	…	…
宮崎	11.8	11.8	8.1	85%	110%	78%
コシヒカリ	6.6	6.6	6.5	77%	77%	77%
ヒノヒカリ	4.5	4.5	1.1	99%	309%	79%
鹿児島	7.9	7.9	7.2	83%	83%	89%
ヒノヒカリ	2.0	2.0	1.4	61%	61%	75%
あきほなみ	0.5	0.5	0.3	64%	64%	53%
コシヒカリ	3.5	3.5	3.5	100%	100%	100%
沖縄	1.4	1.4	1.2	90%	90%	91%
全国①	2,650	2,016	649	105%	100%	97%
前年同月(平成30年産)②	2,525	2,017	669			
前年同月差(①-②)	+125	▲1	▲20			

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上)である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結(確認書等により数量のみが決定した契約を含む。)した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

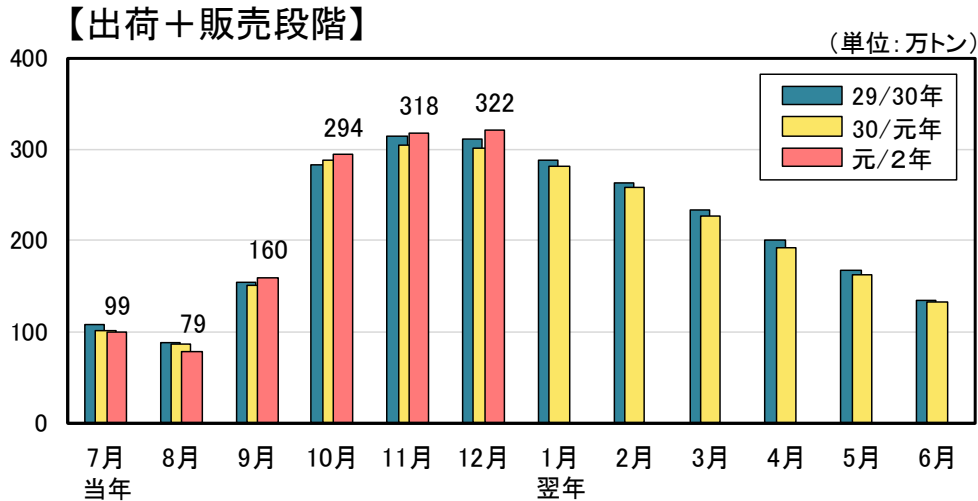
9 「参考：前年同月比」で、令和元年産又は平成30年産の同時期に数量がなかった場合は、「…」としている。

Ⅱ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 令和元年12月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月比+21万トンの322万トンとなっている。

※ 産地別の在庫量は、15頁以降を参照。



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	(注) 119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
29年産米	1	15	104	241	282	287	270	249	223	192	160	129
1年古米(28年産)	103	71	48	38	29	20	14	11	8	6	5	4
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2年	99	79	160	294	318	322						
対前年差	▲3	▲9	+9	+6	+13	+21						
元年産米	0	10	115	255	285	298						
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16						

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、元/2年であれば、元年7月～2年6月である。
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	257	240	218	186	158	130	103
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲19	▲20	▲18	▲14	▲13	▲12	▲9
29年産米	0	11	89	211	247	248	233	213	183	155	128	102
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9	6	4	3	2	2	1
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30年産米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/2年	74	55	128	238	260	265						
対前年差	▲2	▲8	+7	+3	+8	+17						
元年産米	0	7	100	223	249	258						
1年古米(30年産)	73	47	28	14	9	6						

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54	48	45	48	44	37	31
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	+1	+1	+3	±0	+1	+2	+2	+2
29年産米	0	4	15	30	35	39	37	36	40	37	32	28
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16	12	8	7	5	4	3	2
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	30
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	▲1
30年産米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1年古米(29年産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/2年	26	24	33	56	58	57						
対前年差	±0	▲1	+2	+3	+4	+4						
元年産米	0	3	16	32	37	40						
1年古米(30年産)	22	18	15	20	15	10						

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

令和元年産（令和元年12月末）

【出荷＋販売段階】

（単位：千トン）

産地	元年産 (R1.12末)	30年産 (H30.12末)	前年 同月比	産地	元年産 (R1.12末)	30年産 (H30.12末)	前年 同月比
北海道	301.8	291.6	103%	滋賀	58.3	66.1	88%
青森	187.2	117.6	159%	京都	10.7	10.8	99%
岩手	142.9	137.1	104%	大阪	1.8	1.9	94%
宮城	145.6	134.7	108%	兵庫	45.1	41.8	108%
秋田	268.0	243.1	110%	奈良	8.2	7.2	114%
山形	187.5	149.5	125%	和歌山	1.0	1.0	93%
福島	216.4	164.0	132%	鳥取	26.4	26.7	99%
茨城	110.0	108.7	101%	島根	26.2	28.8	91%
栃木	144.3	154.4	93%	岡山	43.2	37.4	116%
群馬	23.4	28.3	83%	広島	31.7	33.5	95%
埼玉	29.5	29.8	99%	山口	28.7	29.6	97%
千葉	77.7	88.0	88%	徳島	10.2	9.8	104%
東京	0.0	0.0	-	香川	15.4	16.4	94%
神奈川	1.5	1.7	93%	愛媛	9.9	11.3	88%
新潟	272.9	236.4	115%	高知	6.4	7.6	85%
富山	82.5	79.5	104%	福岡	46.7	55.3	84%
石川	50.1	54.5	92%	佐賀	21.9	31.2	70%
福井	63.4	60.9	104%	長崎	8.0	9.6	84%
山梨	5.3	5.1	104%	熊本	42.5	44.7	95%
長野	70.3	66.2	106%	大分	14.3	17.7	81%
岐阜	25.1	16.7	150%	宮崎	12.4	11.7	106%
静岡	18.0	15.4	117%	鹿児島	16.3	17.2	95%
愛知	30.5	32.0	95%	沖縄	0.3	0.2	124%
三重	39.9	38.7	103%	全国計	2,980	2,772	107%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

(3) 平成30・令和元年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）

（単位：千玄米トン）

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
北海道	出荷＋販売段階	108.9	75.3	110.8	266.2	311.3	323.3							
	元 年 産 米			64.9	229.5	282.8	301.8							
	1年古米(30年産)	102.5	70.0	41.9	33.9	26.2	19.8							
	出荷段階	78.7	48.8	79.0	191.7	237.8	250.7							
	元 年 産 米			52.5	178.3	228.2	242.9							
	1年古米(30年産)	77.8	48.1	25.9	13.0	9.3	7.7							
	販売段階	30.3	26.5	31.8	74.5	73.5	72.6							
	元 年 産 米			12.4	51.2	54.6	58.9							
	1年古米(30年産)	24.6	21.9	16.0	20.9	17.0	12.2							
	青森	出荷＋販売段階	59.5	43.1	68.6	139.2	161.1	198.5						
		元 年 産 米			39.2	118.5	145.5	187.2						
		1年古米(30年産)	58.4	42.3	28.9	20.3	15.2	11.1						
出荷段階		42.6	29.4	57.9	118.8	140.3	179.6							
元 年 産 米				38.0	107.4	132.2	173.3							
1年古米(30年産)		42.6	29.4	19.9	11.4	8.0	6.3							
販売段階		16.9	13.7	10.7	20.4	20.8	18.9							
元 年 産 米				1.2	11.1	13.3	13.9							
1年古米(30年産)		15.8	12.9	9.0	8.9	7.2	4.8							
岩手		出荷＋販売段階	43.8	29.3	27.5	119.4	138.6	151.8						
		元 年 産 米			8.3	102.0	126.6	142.9						
		1年古米(30年産)	42.5	28.3	18.5	16.9	11.9	8.9						
	出荷段階	35.7	22.4	20.2	103.2	121.1	134.2							
	元 年 産 米			7.6	95.3	116.2	130.6							
	1年古米(30年産)	35.1	21.9	12.2	7.6	4.9	3.5							
	販売段階	8.1	6.9	7.3	16.2	17.5	17.7							
	元 年 産 米			0.7	6.7	10.3	12.2							
	1年古米(30年産)	7.4	6.4	6.3	9.3	7.1	5.4							
	宮城	出荷＋販売段階	69.2	49.9	69.2	158.9	153.6	154.5						
		元 年 産 米		0.0	36.2	131.4	137.8	145.6						
		1年古米(30年産)	67.1	48.6	32.1	26.7	15.2	8.4						
出荷段階		54.8	36.7	56.4	132.1	129.9	132.1							
元 年 産 米				34.2	120.5	124.6	130.0							
1年古米(30年産)		54.2	36.7	22.2	11.6	5.3	2.1							
販売段階		14.5	13.2	12.8	26.8	23.7	22.3							
元 年 産 米			0.0	2.0	10.9	13.2	15.6							
1年古米(30年産)		12.9	12.0	9.8	15.1	9.9	6.3							
秋田		出荷＋販売段階	66.1	41.2	117.2	279.8	284.3	274.9						
		元 年 産 米			95.0	261.8	270.9	268.0						
		1年古米(30年産)	64.4	40.1	21.4	17.5	13.1	6.7						
	出荷段階	52.6	30.0	107.1	256.2	258.6	246.9							
	元 年 産 米			92.0	247.0	252.4	244.3							
	1年古米(30年産)	52.2	29.7	14.9	9.1	6.2	2.6							
	販売段階	13.4	11.2	10.1	23.6	25.7	28.1							
	元 年 産 米			3.0	14.8	18.6	23.7							
	1年古米(30年産)	12.2	10.4	6.5	8.4	6.9	4.1							

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	53.7	40.4	59.0	176.6	190.3	195.7						
	元 年 産 米		0.0	34.9	157.9	177.4	187.5						
	1年古米(30年産)	51.1	38.4	22.6	17.5	11.9	7.5						
	出荷段階	42.5	29.0	47.8	156.3	171.0	176.2						
	元 年 産 米			34.1	148.4	165.8	173.1						
	1年古米(30年産)	41.8	28.5	13.3	7.6	4.9	3.0						
	販売段階	11.2	11.4	11.2	20.3	19.3	19.5						
	元 年 産 米		0.0	0.8	9.5	11.6	14.4						
	1年古米(30年産)	9.3	9.9	9.3	9.9	7.0	4.5						
福島	出荷+販売段階	79.0	56.0	56.6	212.1	235.4	234.3						
	元 年 産 米		0.0	17.3	167.5	200.0	216.4						
	1年古米(30年産)	76.5	54.4	38.2	43.8	34.7	17.3						
	出荷段階	60.1	41.1	44.8	173.4	194.2	198.6						
	元 年 産 米		0.0	16.4	153.3	178.6	191.7						
	1年古米(30年産)	59.3	40.8	28.2	19.9	15.4	6.8						
	販売段階	18.9	14.8	11.8	38.7	41.3	35.7						
	元 年 産 米		0.0	0.9	14.1	21.4	24.7						
	1年古米(30年産)	17.3	13.6	10.0	23.9	19.3	10.5						
茨城	出荷+販売段階	29.8	33.6	107.8	127.3	121.0	115.3						
	元 年 産 米		14.6	94.5	117.2	113.9	110.0						
	1年古米(30年産)	28.2	17.7	12.3	9.2	6.4	4.7						
	出荷段階	16.5	19.0	73.3	88.0	84.4	81.3						
	元 年 産 米		9.4	68.4	85.0	82.6	80.1						
	1年古米(30年産)	16.3	9.4	4.8	2.9	1.7	1.1						
	販売段階	13.3	14.6	34.5	39.3	36.7	34.0						
	元 年 産 米		5.3	26.1	32.2	31.3	29.8						
	1年古米(30年産)	12.0	8.2	7.5	6.4	4.7	3.6						
栃木	出荷+販売段階	65.5	47.0	102.5	146.3	157.9	153.2						
	元 年 産 米		0.0	69.8	118.2	140.9	144.3						
	1年古米(30年産)	64.3	46.3	32.2	27.8	16.7	8.8						
	出荷段階	49.6	34.3	86.6	113.5	127.7	126.4						
	元 年 産 米		0.0	63.3	104.0	123.3	125.0						
	1年古米(30年産)	49.5	34.3	23.3	9.5	4.3	1.4						
	販売段階	15.9	12.7	15.8	32.9	30.2	26.8						
	元 年 産 米			6.5	14.2	17.6	19.3						
	1年古米(30年産)	14.8	12.0	8.9	18.3	12.4	7.4						
群馬	出荷+販売段階	10.9	7.9	5.5	7.4	16.5	24.9						
	元 年 産 米		0.0	0.4	4.4	14.4	23.4						
	1年古米(30年産)	10.7	7.8	5.1	3.0	2.1	1.5						
	出荷段階	8.6	5.6	3.7	4.5	13.4	22.0						
	元 年 産 米			0.3	4.1	13.3	22.0						
	1年古米(30年産)	8.6	5.6	3.4	0.3	0.2	0.0						
	販売段階	2.3	2.3	1.8	3.0	3.1	2.9						
	元 年 産 米		0.0	0.1	0.3	1.1	1.4						
	1年古米(30年産)	2.0	2.1	1.7	2.7	2.0	1.4						
埼玉	出荷+販売段階	10.3	7.8	15.2	24.0	30.0	30.9						
	元 年 産 米		0.6	9.3	20.2	27.6	29.5						
	1年古米(30年産)	9.8	6.8	5.7	3.7	2.3	1.3						
	出荷段階	7.3	4.8	9.4	16.5	22.3	23.8						
	元 年 産 米		0.3	7.2	15.2	21.6	23.3						
	1年古米(30年産)	7.2	4.5	2.3	1.3	0.8	0.5						
	販売段階	3.0	3.0	5.7	7.5	7.6	7.2						
	元 年 産 米		0.3	2.1	4.9	6.0	6.2						
	1年古米(30年産)	2.6	2.3	3.4	2.4	1.5	0.9						

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	19.3	46.0	97.2	96.7	89.2	84.3						
	元 年 産 米		33.6	86.8	87.9	81.7	77.7						
	1年古米(30年産)	19.0	12.2	10.3	8.7	7.4	6.6						
	出荷段階	9.5	35.4	79.5	78.6	72.2	64.7						
	元 年 産 米		29.3	73.7	72.9	66.8	59.5						
	1年古米(30年産)	9.5	6.1	5.7	5.7	5.4	5.2						
	販売段階	9.8	10.6	17.8	18.1	17.0	19.7						
	元 年 産 米		4.3	13.1	15.0	14.8	18.2						
	1年古米(30年産)	9.5	6.1	4.5	3.0	2.1	1.4						
東京	出荷+販売段階	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	元 年 産 米				0.0	0.0	0.0						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	出荷段階												
	元 年 産 米												
	1年古米(30年産)												
	販売段階	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	元 年 産 米				0.0	0.0	0.0						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
神奈川	出荷+販売段階	0.4	0.3	0.4	1.9	1.7	1.6						
	元 年 産 米			0.2	1.8	1.7	1.5						
	1年古米(30年産)	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0						
	出荷段階	0.4	0.3	0.4	1.9	1.6	1.5						
	元 年 産 米			0.2	1.8	1.6	1.5						
	1年古米(30年産)	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1						
	元 年 産 米			0.0	0.0	0.1	0.1						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
山梨	出荷+販売段階	1.9	1.4	1.9	4.3	4.7	5.6						
	元 年 産 米			1.0	3.6	4.1	5.3						
	1年古米(30年産)	1.8	1.3	0.9	0.7	0.6	0.3						
	出荷段階	1.6	1.1	1.6	3.9	4.2	5.0						
	元 年 産 米			1.0	3.5	3.8	4.9						
	1年古米(30年産)	1.5	1.1	0.7	0.4	0.4	0.1						
	販売段階	0.3	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6						
	元 年 産 米			0.0	0.1	0.3	0.4						
	1年古米(30年産)	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2						
長野	出荷+販売段階	22.4	16.6	26.4	61.1	76.1	74.7						
	元 年 産 米			15.7	51.9	69.4	70.3						
	1年古米(30年産)	21.9	16.2	10.4	9.0	6.5	4.3						
	出荷段階	18.4	13.0	23.0	52.9	67.8	66.6						
	元 年 産 米			15.0	48.8	64.8	64.6						
	1年古米(30年産)	18.3	12.9	7.9	4.1	2.9	2.0						
	販売段階	4.0	3.6	3.4	8.3	8.3	8.2						
	元 年 産 米			0.7	3.2	4.6	5.7						
	1年古米(30年産)	3.6	3.3	2.5	4.9	3.5	2.4						
静岡	出荷+販売段階	2.0	3.8	15.9	19.2	19.4	18.2						
	元 年 産 米		2.8	15.4	18.9	19.2	18.0						
	1年古米(30年産)	1.9	0.9	0.5	0.3	0.2	0.2						
	出荷段階	0.5	1.5	9.6	12.4	12.9	12.2						
	元 年 産 米		1.4	9.5	12.3	12.9	12.2						
	1年古米(30年産)	0.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	1.5	2.4	6.3	6.8	6.5	6.0						
	元 年 産 米		1.5	5.8	6.6	6.3	5.8						
	1年古米(30年産)	1.5	0.8	0.4	0.3	0.2	0.2						

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	58.9	35.1	214.1	309.4	306.2	281.1						
	元 年 産 米		0.5	194.1	293.3	294.1	272.9						
	1年古米(30年産)	57.9	33.7	19.4	15.8	11.8	8.0						
	出荷段階	45.2	23.3	194.0	276.1	273.0	244.7						
	元 年 産 米		0.4	180.5	268.8	268.8	242.3						
	1年古米(30年産)	44.9	22.6	13.3	7.2	4.1	2.4						
	販売段階	13.7	11.7	20.1	33.4	33.2	36.4						
	元 年 産 米		0.1	13.6	24.4	25.3	30.6						
	1年古米(30年産)	13.0	11.0	6.0	8.6	7.7	5.6						
富山	出荷+販売段階	21.7	14.6	65.4	91.3	90.8	84.6						
	元 年 産 米		1.0	56.6	86.3	87.5	82.5						
	1年古米(30年産)	21.4	13.4	8.8	4.9	3.2	2.1						
	出荷段階	15.8	9.2	57.2	80.1	81.1	74.7						
	元 年 産 米		0.5	52.3	79.9	80.9	74.6						
	1年古米(30年産)	15.8	8.7	4.8	0.2	0.1	0.1						
	販売段階	5.9	5.4	8.3	11.2	9.8	9.9						
	元 年 産 米		0.5	4.2	6.4	6.6	7.9						
	1年古米(30年産)	5.7	4.8	3.9	4.7	3.1	2.0						
石川	出荷+販売段階	17.1	13.5	53.8	63.7	58.2	52.3						
	元 年 産 米		2.2	45.8	57.5	54.6	50.1						
	1年古米(30年産)	16.6	10.9	7.7	5.9	3.4	2.0						
	出荷段階	12.5	9.1	34.2	41.2	37.1	33.0						
	元 年 産 米		0.7	27.9	37.4	34.8	31.8						
	1年古米(30年産)	12.3	8.2	6.1	3.7	2.2	1.2						
	販売段階	4.7	4.4	19.7	22.6	21.1	19.2						
	元 年 産 米		1.5	17.8	20.1	19.7	18.3						
	1年古米(30年産)	4.4	2.7	1.6	2.3	1.2	0.9						
福井	出荷+販売段階	19.0	14.8	51.1	75.9	61.9	66.4						
	元 年 産 米		2.5	42.9	71.0	58.0	63.4						
	1年古米(30年産)	18.8	12.2	8.2	4.8	3.9	3.0						
	出荷段階	14.3	9.8	39.2	59.3	46.8	48.0						
	元 年 産 米		1.1	33.6	58.4	46.3	47.5						
	1年古米(30年産)	14.3	8.8	5.7	0.9	0.5	0.4						
	販売段階	4.7	5.0	11.9	16.6	15.1	18.5						
	元 年 産 米		1.4	9.3	12.6	11.6	15.9						
	1年古米(30年産)	4.5	3.4	2.5	4.0	3.4	2.5						
岐阜	出荷+販売段階	8.7	8.2	9.9	14.7	23.1	28.2						
	元 年 産 米		1.1	3.8	10.0	19.1	25.1						
	1年古米(30年産)	8.1	6.6	5.8	4.5	3.7	3.0						
	出荷段階	5.1	3.9	5.0	7.8	15.6	21.3						
	元 年 産 米		0.8	2.7	7.4	15.4	21.1						
	1年古米(30年産)	5.0	3.1	2.3	0.5	0.2	0.2						
	販売段階	3.6	4.3	5.0	6.8	7.4	6.9						
	元 年 産 米		0.4	1.1	2.6	3.7	4.0						
	1年古米(30年産)	3.0	3.5	3.5	4.1	3.5	2.8						
愛知	出荷+販売段階	10.8	8.6	12.4	21.1	30.2	31.9						
	元 年 産 米		0.7	7.7	18.3	28.5	30.5						
	1年古米(30年産)	10.4	7.6	4.5	2.8	1.6	1.3						
	出荷段階	8.1	5.9	8.6	15.4	23.3	24.3						
	元 年 産 米		0.2	5.7	14.8	23.0	24.0						
	1年古米(30年産)	7.9	5.6	2.8	0.5	0.3	0.3						
	販売段階	2.8	2.7	3.7	5.7	6.9	7.6						
	元 年 産 米		0.5	1.9	3.5	5.5	6.6						
	1年古米(30年産)	2.4	2.0	1.7	2.3	1.3	1.0						

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	10.0	13.8	40.3	44.6	45.1	42.3						
	元 年 産 米		8.6	35.9	41.2	42.3	39.9						
	1年古米(30年産)	8.8	4.2	3.5	3.3	2.8	2.4						
	出荷段階	6.0	10.5	34.9	38.7	39.9	36.9						
	元 年 産 米		6.9	31.8	36.7	38.1	35.3						
	1年古米(30年産)	5.2	2.8	2.5	2.0	1.9	1.6						
	販売段階	4.0	3.3	5.4	5.9	5.2	5.5						
	元 年 産 米		1.7	4.1	4.5	4.2	4.6						
	1年古米(30年産)	3.7	1.4	1.1	1.3	1.0	0.8						
滋賀	出荷+販売段階	19.1	14.9	51.2	59.7	60.4	64.4						
	元 年 産 米		1.4	40.7	50.8	52.9	58.3						
	1年古米(30年産)	17.8	12.5	9.9	8.5	7.3	6.0						
	出荷段階	15.1	11.3	46.1	53.5	54.3	57.7						
	元 年 産 米		1.2	38.5	46.8	48.5	53.0						
	1年古米(30年産)	14.1	9.4	7.2	6.4	5.5	4.5						
	販売段階	4.0	3.6	5.2	6.2	6.1	6.7						
	元 年 産 米		0.2	2.2	3.9	4.3	5.2						
	1年古米(30年産)	3.7	3.1	2.8	2.1	1.7	1.5						
京都	出荷+販売段階	3.6	2.4	8.0	10.8	11.7	11.1						
	元 年 産 米		0.0	6.5	10.1	11.3	10.7						
	1年古米(30年産)	3.5	2.3	1.4	0.6	0.4	0.3						
	出荷段階	2.7	1.7	6.7	9.2	10.1	9.4						
	元 年 産 米		0.0	6.0	9.1	10.1	9.4						
	1年古米(30年産)	2.7	1.7	0.8	0.1	0.0	0.0						
	販売段階	0.9	0.7	1.2	1.6	1.6	1.7						
	元 年 産 米			0.6	1.1	1.2	1.3						
	1年古米(30年産)	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3						
大阪	出荷+販売段階	0.4	0.3	0.4	0.6	1.2	1.9						
	元 年 産 米			0.2	0.5	1.1	1.8						
	1年古米(30年産)	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0						
	出荷段階	0.3	0.2	0.3	0.5	1.1	1.6						
	元 年 産 米			0.2	0.5	1.1	1.6						
	1年古米(30年産)	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3						
	元 年 産 米				0.0	0.0	0.2						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
兵庫	出荷+販売段階	16.5	12.8	24.7	49.2	48.4	46.5						
	元 年 産 米		0.0	14.9	46.7	46.4	45.1						
	1年古米(30年産)	16.2	12.5	9.6	2.3	1.8	1.3						
	出荷段階	14.1	11.0	22.0	43.7	42.7	41.2						
	元 年 産 米		0.0	13.6	43.6	42.7	41.2						
	1年古米(30年産)	14.1	11.0	8.4	0.1	0.1	0.0						
	販売段階	2.4	1.8	2.7	5.5	5.6	5.3						
	元 年 産 米			1.3	3.1	3.8	3.9						
	1年古米(30年産)	2.1	1.6	1.2	2.2	1.7	1.3						
奈良	出荷+販売段階	2.4	1.7	2.0	6.0	9.2	8.7						
	元 年 産 米			1.0	5.5	8.7	8.2						
	1年古米(30年産)	2.3	1.5	0.9	0.5	0.4	0.4						
	出荷段階	1.5	0.9	1.0	4.5	7.3	7.1						
	元 年 産 米			0.9	4.4	7.3	7.0						
	1年古米(30年産)	1.4	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	1.0	0.7	0.9	1.5	1.9	1.6						
	元 年 産 米			0.1	1.0	1.4	1.2						
	1年古米(30年産)	0.8	0.6	0.8	0.5	0.4	0.4						

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.5	0.3	0.6	1.0	1.0	1.1						
	元 年 産 米			0.4	0.9	0.9	1.0						
	1年古米(30年産)	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1						
	出荷段階			0.4	0.7	0.7	0.6						
	元 年 産 米			0.4	0.7	0.7	0.6						
	1年古米(30年産)												
	販売段階	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4						
	元 年 産 米			0.1	0.2	0.2	0.3						
	1年古米(30年産)	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1						
鳥取	出荷+販売段階	8.3	5.7	9.3	21.6	23.5	28.1						
	元 年 産 米		0.0	5.8	19.2	21.4	26.4						
	1年古米(30年産)	8.1	5.6	3.5	2.4	2.1	1.7						
	出荷段階	5.9	3.8	7.6	19.0	20.6	25.1						
	元 年 産 米		0.0	5.3	18.0	19.6	24.2						
	1年古米(30年産)	5.9	3.8	2.3	1.1	1.0	0.9						
	販売段階	2.3	1.8	1.6	2.5	2.9	3.0						
	元 年 産 米			0.4	1.2	1.8	2.2						
	1年古米(30年産)	2.2	1.8	1.2	1.3	1.1	0.8						
島根	出荷+販売段階	8.9	6.7	16.8	25.3	25.2	27.2						
	元 年 産 米		0.3	13.6	23.3	23.8	26.2						
	1年古米(30年産)	8.8	6.2	3.1	1.8	1.3	0.9						
	出荷段階	6.8	4.7	14.3	21.5	21.4	24.1						
	元 年 産 米		0.3	12.5	21.0	21.1	23.9						
	1年古米(30年産)	6.8	4.5	1.9	0.5	0.3	0.2						
	販売段階	2.1	1.9	2.5	3.8	3.8	3.2						
	元 年 産 米		0.0	1.1	2.3	2.7	2.3						
	1年古米(30年産)	1.9	1.7	1.2	1.4	1.0	0.7						
岡山	出荷+販売段階	19.6	14.1	20.8	33.7	45.3	45.4						
	元 年 産 米			9.9	28.2	41.8	43.2						
	1年古米(30年産)	19.3	14.0	10.8	5.4	3.4	2.1						
	出荷段階	15.2	10.6	13.7	26.0	36.4	36.0						
	元 年 産 米			8.5	24.6	35.7	35.6						
	1年古米(30年産)	15.2	10.6	5.2	1.4	0.6	0.4						
	販売段階	4.4	3.6	7.1	7.8	8.9	9.3						
	元 年 産 米			1.4	3.6	6.1	7.6						
	1年古米(30年産)	4.1	3.4	5.6	4.1	2.7	1.7						
広島	出荷+販売段階	11.4	8.2	21.4	37.8	37.2	33.9						
	元 年 産 米		0.2	15.9	34.4	34.4	31.7						
	1年古米(30年産)	11.1	7.7	5.2	3.3	2.5	2.0						
	出荷段階	8.2	5.6	17.4	30.5	30.3	27.5						
	元 年 産 米		0.1	14.2	30.3	30.2	27.4						
	1年古米(30年産)	8.2	5.5	3.2	0.2	0.2	0.1						
	販売段階	3.2	2.6	3.9	7.4	6.8	6.4						
	元 年 産 米		0.0	1.7	4.1	4.2	4.4						
	1年古米(30年産)	2.9	2.3	2.0	3.1	2.4	1.9						
山口	出荷+販売段階	13.1	10.4	18.5	31.1	32.3	31.3						
	元 年 産 米		0.5	11.5	26.3	28.6	28.7						
	1年古米(30年産)	12.9	9.7	6.9	4.6	3.6	2.6						
	出荷段階	11.5	9.1	16.9	25.5	27.5	27.0						
	元 年 産 米		0.5	11.0	25.2	27.3	27.0						
	1年古米(30年産)	11.5	8.6	5.9	0.3	0.2	0.0						
	販売段階	1.6	1.3	1.7	5.6	4.7	4.3						
	元 年 産 米		0.0	0.5	1.2	1.3	1.7						
	1年古米(30年産)	1.4	1.2	1.0	4.3	3.4	2.5						

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.5	7.2	13.4	12.4	12.2	11.1						
	元 年 産 米		5.3	12.0	11.3	11.1	10.2						
	1年古米(30年産)	2.4	1.8	1.4	1.1	1.0	0.9						
	出荷段階	1.0	5.0	9.8	8.9	8.5	7.7						
	元 年 産 米		4.3	9.7	8.8	8.5	7.6						
	1年古米(30年産)	1.0	0.7	0.2	0.1	0.1	0.0						
	販売段階	1.6	2.2	3.6	3.6	3.6	3.5						
	元 年 産 米		1.0	2.3	2.5	2.7	2.6						
	1年古米(30年産)	1.5	1.1	1.3	1.1	0.9	0.9						
香川	出荷+販売段階	7.5	6.1	7.0	12.8	17.4	16.3						
	元 年 産 米		0.4	2.9	10.7	15.9	15.4						
	1年古米(30年産)	7.4	5.7	4.1	2.1	1.4	0.8						
	出荷段階	6.5	5.2	5.4	10.7	15.5	14.6						
	元 年 産 米		0.3	2.5	10.1	15.2	14.6						
	1年古米(30年産)	6.5	4.9	3.0	0.7	0.3	0.0						
	販売段階	1.0	0.9	1.6	2.1	1.9	1.7						
	元 年 産 米		0.1	0.4	0.6	0.7	0.8						
	1年古米(30年産)	0.9	0.8	1.1	1.4	1.1	0.8						
愛媛	出荷+販売段階	3.1	3.6	5.3	9.4	10.3	10.6						
	元 年 産 米		1.6	3.9	8.3	9.5	9.9						
	1年古米(30年産)	2.9	1.9	1.3	1.0	0.8	0.6						
	出荷段階	2.6	3.2	4.9	8.9	9.8	10.1						
	元 年 産 米		1.5	3.8	8.0	9.1	9.6						
	1年古米(30年産)	2.4	1.5	1.1	0.8	0.6	0.5						
	販売段階	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5						
	元 年 産 米		0.1	0.1	0.3	0.3	0.4						
	1年古米(30年産)	0.5	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1						
高知	出荷+販売段階	2.2	8.9	8.5	9.0	8.3	7.3						
	元 年 産 米	0.2	7.2	7.1	7.9	7.2	6.4						
	1年古米(30年産)	1.7	1.3	1.1	0.9	0.8	0.8						
	出荷段階	0.4	4.0	4.2	4.1	3.7	3.3						
	元 年 産 米	0.1	3.7	4.1	4.1	3.6	3.3						
	1年古米(30年産)	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	1.8	4.9	4.3	4.9	4.6	4.0						
	元 年 産 米	0.1	3.5	3.0	3.8	3.6	3.1						
	1年古米(30年産)	1.4	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7						
福岡	出荷+販売段階	18.9	13.5	20.6	33.0	40.0	49.4						
	元 年 産 米		0.5	12.7	27.3	36.0	46.7						
	1年古米(30年産)	18.5	12.8	7.7	5.6	3.9	2.6						
	出荷段階	14.9	9.5	13.9	23.0	31.1	41.5						
	元 年 産 米		0.2	8.6	20.9	29.8	40.7						
	1年古米(30年産)	14.9	9.2	5.3	2.1	1.3	0.9						
	販売段階	3.9	4.0	6.7	10.0	8.9	7.9						
	元 年 産 米		0.2	4.2	6.3	6.2	6.1						
	1年古米(30年産)	3.6	3.6	2.3	3.6	2.6	1.7						
佐賀	出荷+販売段階	12.2	9.8	8.3	16.2	22.7	23.6						
	元 年 産 米		0.9	2.5	13.6	20.4	21.9						
	1年古米(30年産)	12.1	8.8	5.7	2.6	2.3	1.6						
	出荷段階	10.8	8.6	7.3	12.9	19.2	20.4						
	元 年 産 米		0.8	2.3	12.9	19.1	20.4						
	1年古米(30年産)	10.8	7.8	5.0	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	1.4	1.2	1.1	3.3	3.6	3.2						
	元 年 産 米		0.1	0.3	0.7	1.2	1.5						
	1年古米(30年産)	1.3	1.0	0.7	2.5	2.3	1.6						

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.3	2.6	2.5	5.6	8.1	8.5						
	元 年 産 米		0.4	1.3	4.7	7.4	8.0						
	1年古米(30年産)	3.2	2.2	1.2	0.9	0.7	0.4						
	出荷段階	3.0	2.4	2.2	4.7	7.1	7.6						
	元 年 産 米		0.4	1.2	4.4	6.8	7.4						
	1年古米(30年産)	3.0	2.0	1.0	0.4	0.3	0.2						
	販売段階	0.3	0.3	0.3	0.9	1.1	0.8						
	元 年 産 米		0.0	0.1	0.3	0.6	0.6						
	1年古米(30年産)	0.2	0.2	0.1	0.5	0.4	0.2						
熊本	出荷+販売段階	21.5	18.2	15.7	33.9	40.2	46.3						
	元 年 産 米		2.5	5.5	27.9	35.6	42.5						
	1年古米(30年産)	20.9	15.3	9.9	5.8	4.5	3.7						
	出荷段階	15.0	12.2	8.9	21.8	27.9	34.5						
	元 年 産 米		1.6	3.1	19.6	26.6	34.0						
	1年古米(30年産)	15.0	10.6	5.8	2.2	1.4	0.4						
	販売段階	6.5	6.0	6.8	12.1	12.3	11.8						
	元 年 産 米		0.9	2.4	8.3	9.1	8.5						
	1年古米(30年産)	5.9	4.7	4.1	3.6	3.1	3.2						
大分	出荷+販売段階	7.2	5.9	6.0	11.4	15.9	16.4						
	元 年 産 米		0.4	2.3	8.0	13.2	14.3						
	1年古米(30年産)	7.0	5.4	3.7	3.4	2.7	2.1						
	出荷段階	5.0	4.0	4.0	6.6	10.1	10.3						
	元 年 産 米		0.2	1.7	5.2	9.0	9.5						
	1年古米(30年産)	5.0	3.8	2.4	1.4	1.1	0.8						
	販売段階	2.1	1.9	2.0	4.7	5.8	6.1						
	元 年 産 米		0.1	0.7	2.8	4.3	4.9						
	1年古米(30年産)	2.0	1.7	1.3	2.0	1.6	1.2						
宮崎	出荷+販売段階	6.0	7.4	3.9	10.7	12.0	12.8						
	元 年 産 米	3.5	5.6	3.0	10.0	11.4	12.4						
	1年古米(30年産)	2.4	1.8	0.9	0.6	0.5	0.4						
	出荷段階	3.9	4.2	0.5	7.8	9.2	10.3						
	元 年 産 米	2.2	3.0	0.2	7.7	9.2	10.3						
	1年古米(30年産)	1.6	1.2	0.3	0.1	0.0	0.0						
	販売段階	2.1	3.2	3.4	2.9	2.8	2.5						
	元 年 産 米	1.3	2.6	2.8	2.4	2.3	2.1						
	1年古米(30年産)	0.8	0.6	0.6	0.5	0.5	0.3						
鹿児島	出荷+販売段階	7.9	10.2	9.0	17.1	20.1	19.1						
	元 年 産 米	0.7	4.0	4.1	13.2	16.8	16.3						
	1年古米(30年産)	6.6	5.7	4.4	3.6	3.1	2.6						
	出荷段階	5.7	5.9	4.0	11.4	13.9	13.7						
	元 年 産 米	0.1	1.1	0.8	8.8	11.7	12.0						
	1年古米(30年産)	5.0	4.4	2.8	2.3	2.0	1.6						
	販売段階	2.2	4.3	5.0	5.8	6.2	5.4						
	元 年 産 米	0.6	3.0	3.3	4.4	5.1	4.4						
	1年古米(30年産)	1.6	1.3	1.6	1.3	1.1	1.0						
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3						
	元 年 産 米	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	出荷段階	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2						
	元 年 産 米	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2						
	1年古米(30年産)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	販売段階	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1						
	元 年 産 米	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1						
	1年古米(30年産)												

Ⅲ 米の価格情報

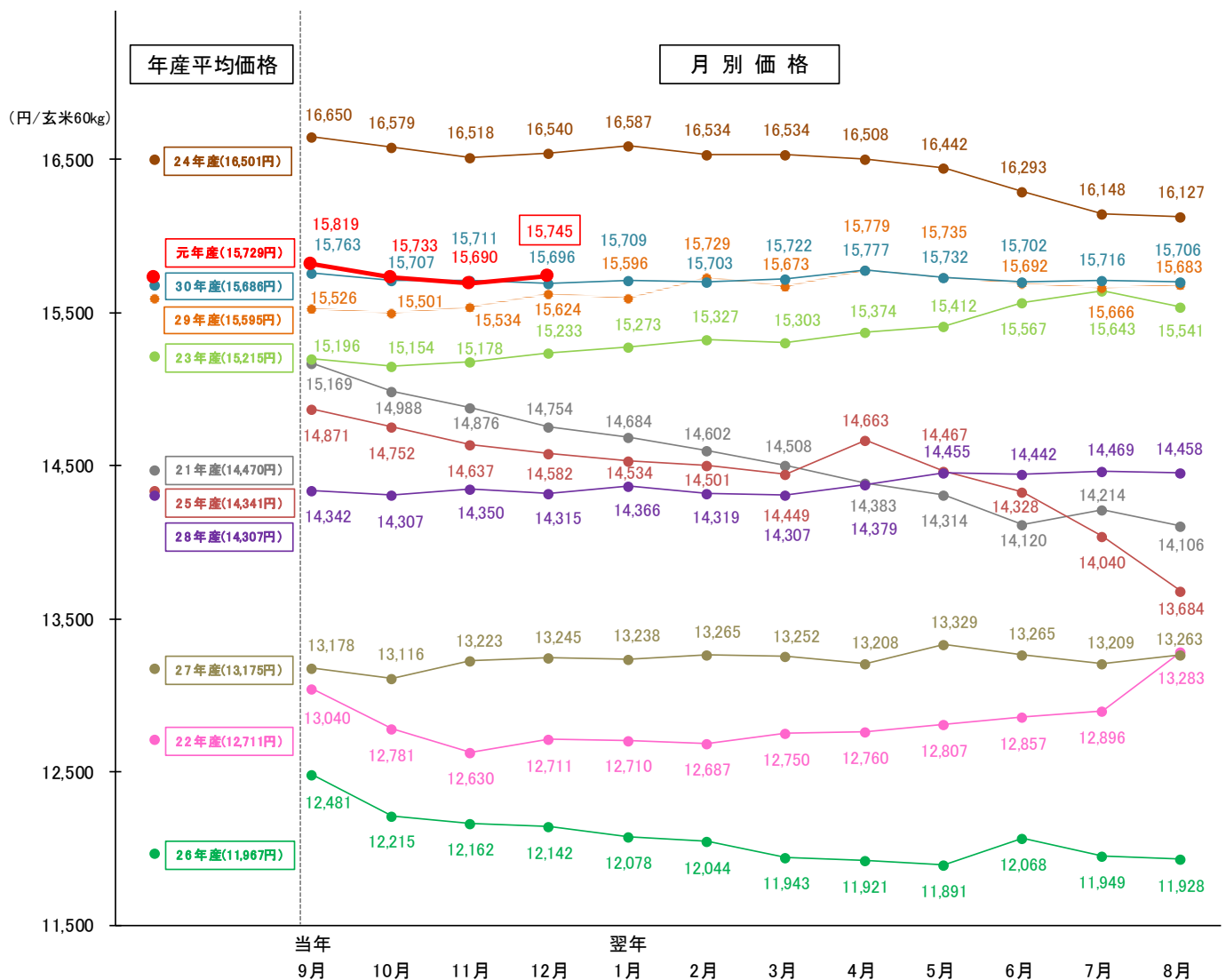
1 相対取引価格・数量

(1) 年産別の相対取引価格

- 令和元産米の令和元年12月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,745円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+43円の15,729円/60kg。

※ 産地銘柄ごとの価格は、次頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 価格には、運賃、包装代、消費税が含まれている。なお、消費税は、令和元年9月以前は8%、10月以降は軽減税率の対象である米穀の品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
- 3 グラフの左側は年産別の平均価格（注4）、グラフの右側は月別の価格である。
- 4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（30年産は令和元年8月、元年産は令和元年12月）までの通年平均価格（29年産以前は確定値、30年産及び元年産は速報値。確定値は月毎の速報値公表後の修正を反映させたものである）。

(2) 相対取引価格・数量（令和元年産米、産地品種銘柄別、令和元年12月分）（速報）

相対取引価格・数量（北海道から静岡まで）

（単位：円/玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格		数量		参考								年産平均価格					
		元年産米 (元年12月)	元年産米 (元年12月)	価格		数量		元年産米 (元年11月)		30年産米 (30年12月)		元年産米 (元年11月)	30年産米 (30年12月)	対前年比	対前年比	元年産米 (出回り～ 元年12月)	30年産米 (出回り～ 元年8月)	価格差	対前年比
				元年産米 (元年11月)	30年産米 (30年12月)	対前月比	対前年比	元年産米 (元年11月)	30年産米 (30年12月)	対前月比	対前年比								
		①	②	③	④	①/③	①/④	⑤	⑥	②/⑤	②/⑥	⑦	⑧	⑦-⑧	⑦/⑧				
北海道	ななつぼし	15,849	24,012	15,838	100%	16,103	98%	15,185	158%	14,767	163%	15,835	16,000	▲ 165	99%				
北海道	ゆめぴりか	16,901	11,695	16,826	100%	16,213	104%	7,495	156%	8,804	133%	16,973	16,263	+ 710	104%				
北海道	きらら397	15,495	4,204	15,340	101%	16,148	96%	3,591	117%	1,310	321%	15,416	15,540	▲ 124	99%				
青森	まっしぐら	14,701	18,356	14,747	100%	14,670	100%	10,034	183%	7,997	230%	14,670	14,762	▲ 92	99%				
青森	つがるロマン	15,151	3,713	15,097	100%	15,221	100%	3,211	116%	1,983	187%	15,060	15,069	▲ 9	100%				
岩手	ひとめぼれ	15,217	13,314	15,466	98%	15,338	99%	3,284	405%	4,412	302%	15,325	15,334	▲ 9	100%				
岩手	あきたこまち	15,312	960	15,205	101%	15,247	100%	500	192%	1,629	59%	15,251	15,251	± 0	100%				
岩手	銀河のしずく	16,381	253	16,382	100%	-	-	529	48%	-	-	16,286	-	-	-				
宮城	ひとめぼれ	15,513	35,298	15,610	99%	15,729	99%	4,425	798%	6,047	584%	15,544	15,532	+ 12	100%				
宮城	つや姫	15,968	1,366	15,908	100%	15,941	100%	339	403%	143	955%	15,901	15,845	+ 56	100%				
宮城	ササニシキ	15,871	876	15,825	100%	15,784	101%	423	207%	1,101	80%	15,801	15,761	+ 40	100%				
秋田	あきたこまち	15,855	21,088	15,832	100%	15,760	101%	20,141	105%	18,978	111%	15,842	15,840	+ 2	100%				
秋田	めんこいな	14,471	2,039	14,299	101%	14,056	103%	1,257	162%	986	207%	14,447	14,779	▲ 332	98%				
秋田	ひとめぼれ	15,211	1,112	15,133	101%	15,321	99%	819	136%	1,541	72%	15,160	15,437	▲ 277	98%				
山形	はえぬき	15,370	15,048	15,496	99%	15,391	100%	5,810	259%	20,050	75%	15,420	15,418	+ 2	100%				
山形	つや姫	18,631	2,925	18,555	100%	18,257	102%	3,541	83%	2,689	109%	18,571	18,346	+ 225	101%				
山形	ひとめぼれ	15,537	431	15,569	100%	15,463	100%	463	93%	1,448	30%	16,526	15,981	+ 545	103%				
福島	コシヒカリ（中通り）	15,417	3,089	15,082	102%	15,299	101%	6,934	45%	3,631	85%	15,181	15,460	▲ 279	98%				
福島	コシヒカリ（会津）	15,580	2,628	15,886	98%	15,840	98%	4,338	61%	1,679	157%	15,828	15,532	+ 296	102%				
福島	コシヒカリ（浜通り）	14,853	2,263	15,109	98%	-	-	985	230%	-	-	14,980	15,086	▲ 106	99%				
福島	ひとめぼれ	14,699	1,231	14,755	100%	15,179	97%	2,797	44%	1,823	68%	14,761	14,973	▲ 212	99%				
福島	天のつぶ	14,785	3,562	14,253	104%	14,519	102%	2,717	131%	625	570%	14,509	14,603	▲ 94	99%				
茨城	コシヒカリ	15,752	5,231	15,645	101%	15,535	101%	2,518	208%	8,727	60%	15,732	15,543	+ 189	101%				
茨城	あきたこまち	15,426	763	15,202	101%	15,046	103%	166	460%	1,089	70%	15,484	15,102	+ 382	103%				
茨城	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
栃木	コシヒカリ	15,649	19,443	15,649	100%	15,677	100%	4,174	466%	6,412	303%	15,634	15,599	+ 35	100%				
栃木	あさひの夢	14,687	331	14,836	99%	14,342	102%	787	42%	127	261%	14,715	14,790	▲ 75	99%				
栃木	とちぎの星	15,110	2,585	14,833	102%	-	-	1,503	172%	-	-	14,954	-	-	-				
群馬	あさひの夢	-	-	15,197	-	15,516	-	367	-	3,919	-	14,583	15,166	▲ 583	96%				
群馬	ゆめまつり	14,855	237	-	-	15,250	97%	-	-	845	28%	14,873	14,926	▲ 53	100%				
埼玉	彩のかがやき	14,877	966	15,033	99%	15,049	99%	206	469%	2,171	44%	14,912	15,165	▲ 253	98%				
埼玉	コシヒカリ	15,285	198	15,184	101%	15,613	98%	893	22%	140	141%	15,193	15,472	▲ 279	98%				
埼玉	彩のきずな	14,914	326	14,864	100%	15,064	99%	898	36%	409	80%	14,903	15,180	▲ 277	98%				
千葉	コシヒカリ	15,726	1,518	15,724	100%	15,586	101%	1,457	104%	6,718	23%	15,762	15,517	+ 245	102%				
千葉	ふさこがね	14,640	1,667	14,728	99%	14,594	100%	1,663	100%	2,885	58%	14,756	14,638	+ 118	101%				
千葉	ふさおとめ	14,712	1,433	14,673	100%	14,723	100%	1,457	98%	2,812	51%	14,919	14,766	+ 153	101%				
山梨	コシヒカリ	18,369	401	18,267	101%	18,095	102%	176	228%	342	117%	18,356	18,016	+ 340	102%				
長野	コシヒカリ	16,019	11,566	16,130	99%	16,009	100%	2,514	460%	9,552	121%	16,050	16,084	▲ 34	100%				
長野	あきたこまち	15,405	344	15,365	100%	15,223	101%	325	106%	773	45%	15,331	15,256	+ 75	100%				
静岡	コシヒカリ	16,054	183	16,112	100%	15,953	101%	195	94%	146	125%	16,105	15,971	+ 134	101%				
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,054	14,951	+ 103	101%				
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,936	-	-				

注：本表の注意点は次々頁の脚注を参照

相対取引価格・数量（新潟から広島まで）

（単位：円/玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格		数量		参考								年産平均価格			
		元年産米 (元年12月)	元年産米 (元年12月)	価格				数量				元年産米 (出回り～ 元年12月)	30年産米 (出回り～ 元年8月)	価格差	対前年比		
				元年産米 (元年11月)	対前月比	30年産米 (30年12月)	対前年比	元年産米 (元年11月)	対前月比	30年産米 (30年12月)	対前年比						
①	②	③	①/③	④	①/④	⑤	②/⑤	⑥	②/⑥	⑦	⑧	⑦-⑧	⑦/⑧				
新潟	コシヒカリ（一般）	17,334	8,107	17,126	101%	17,021	102%	9,833	82%	33,843	24%	17,336	17,040	+ 296	102%		
新潟	コシヒカリ（魚沼）	20,782	1,708	20,971	99%	20,939	99%	803	213%	4,215	41%	20,934	21,127	▲ 193	99%		
新潟	コシヒカリ（佐渡）	17,919	2,735	17,932	100%	17,493	102%	578	473%	2,302	119%	17,894	17,514	+ 380	102%		
新潟	コシヒカリ（岩船）	17,948	1,848	17,962	100%	17,454	103%	395	468%	2,577	72%	17,884	17,455	+ 429	102%		
新潟	こしいぶき	15,213	4,942	14,850	102%	15,055	101%	4,326	114%	13,961	35%	15,065	15,097	▲ 32	100%		
富山	コシヒカリ	16,195	4,181	15,316	106%	15,978	101%	4,372	96%	8,938	47%	16,021	15,951	+ 70	100%		
富山	てんたかく	14,794	1,262	14,717	101%	14,715	101%	394	320%	406	311%	14,854	14,755	+ 99	101%		
石川	コシヒカリ	15,896	2,240	16,054	99%	15,841	100%	293	765%	1,811	124%	15,961	15,887	+ 74	100%		
石川	ゆめみづほ	14,746	370	14,812	100%	-	-	777	48%	-	-	14,762	14,651	+ 111	101%		
福井	コシヒカリ	16,178	3,744	16,237	100%	16,100	100%	1,419	264%	2,230	168%	16,203	16,144	+ 59	100%		
福井	ハナエチゼン	14,967	2,585	15,085	99%	14,966	100%	1,915	135%	986	262%	15,070	14,924	+ 146	101%		
福井	あきさかり	15,014	1,290	15,102	99%	-	-	291	443%	-	-	15,051	-	-	-		
岐阜	ハツシモ	15,186	670	15,643	97%	15,190	100%	740	91%	402	167%	15,405	15,331	+ 74	100%		
岐阜	コシヒカリ	16,419	424	16,236	101%	15,783	104%	669	63%	190	223%	16,154	15,948	+ 206	101%		
岐阜	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,564	-	-	-		
愛知	あいちのかおり	14,814	565	14,669	101%	14,529	102%	1,309	43%	1,225	46%	14,716	14,500	+ 216	101%		
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,347	-	-		
愛知	大地の風	-	-	14,673	-	14,637	-	115	-	109	-	14,720	14,691	+ 29	100%		
三重	コシヒカリ（一般）	15,502	1,342	15,555	100%	15,426	100%	546	246%	603	223%	15,563	15,393	+ 170	101%		
三重	コシヒカリ（伊賀）	15,888	748	15,948	100%	15,778	101%	378	198%	354	211%	15,923	15,881	+ 42	100%		
三重	キヌヒカリ	14,807	180	14,930	99%	-	-	136	132%	-	-	14,863	14,813	+ 50	100%		
滋賀	コシヒカリ	15,862	1,037	15,692	101%	15,587	102%	1,440	72%	1,853	56%	15,855	15,649	+ 206	101%		
滋賀	キヌヒカリ	14,928	791	14,997	100%	14,260	105%	1,284	62%	1,047	76%	14,942	14,762	+ 180	101%		
滋賀	みずかがみ	15,793	725	16,385	96%	-	-	252	288%	-	-	15,796	-	-	-		
京都	コシヒカリ	15,966	264	16,455	97%	15,770	101%	135	196%	609	43%	16,189	15,725	+ 464	103%		
京都	キヌヒカリ	-	-	15,141	-	-	-	107	-	-	-	15,305	14,936	+ 369	102%		
京都	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,547	-	-		
兵庫	コシヒカリ	16,150	764	16,228	100%	16,049	101%	1,094	70%	777	98%	16,181	16,010	+ 171	101%		
兵庫	ヒノヒカリ	14,923	219	14,696	102%	14,791	101%	533	41%	284	77%	14,755	14,798	▲ 43	100%		
兵庫	キヌヒカリ	14,972	533	14,829	101%	14,736	102%	420	127%	299	178%	14,844	14,842	+ 2	100%		
奈良	ヒノヒカリ	15,853	342	15,801	100%	15,550	102%	371	92%	528	65%	15,831	15,538	+ 293	102%		
鳥取	きぬむすめ	14,973	3,727	14,714	102%	14,486	103%	161	2315%	554	673%	14,853	14,683	+ 170	101%		
鳥取	コシヒカリ	15,728	3,738	15,281	103%	15,472	102%	405	923%	358	1044%	15,564	15,464	+ 100	101%		
鳥取	ひとめぼれ	14,897	1,821	14,684	101%	14,470	103%	324	562%	284	641%	14,765	14,495	+ 270	102%		
鳥根	コシヒカリ	16,591	393	15,841	105%	16,396	101%	513	77%	502	78%	15,757	15,738	+ 19	100%		
鳥根	きぬむすめ	15,242	128	14,418	106%	14,740	103%	1,164	11%	125	102%	14,554	14,824	▲ 270	98%		
鳥根	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,439	15,597	▲ 158	99%		
岡山	アケボノ	14,904	639	14,927	100%	14,962	100%	671	95%	151	423%	14,915	14,939	▲ 24	100%		
岡山	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,514	15,059	+ 455	103%		
岡山	ヒノヒカリ	15,551	113	15,389	101%	-	-	184	61%	-	-	15,511	15,276	+ 235	102%		
広島	コシヒカリ	15,365	892	15,446	99%	15,357	100%	1,354	66%	1,343	66%	15,744	15,423	+ 321	102%		
広島	あきさかり	14,470	267	14,621	99%	14,721	98%	1,092	24%	563	47%	14,719	14,500	+ 219	102%		
広島	あきろまん	14,808	426	14,742	100%	14,873	100%	332	128%	276	154%	14,789	14,373	+ 416	103%		

注：本表の注意点は次頁の脚注を参照

相対取引価格・数量（山口から鹿児島まで）

（単位：円/玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格		数量		参考									
		元年産米 (元年12月)	元年産米 (元年12月)	価格		数量		元年産米 (元年11月)		30年産米 (30年12月)		元年産米 (元年11月)		30年産米 (30年12月)	
				③	①/③	④	①/④	⑤	②/⑤	⑥	②/⑥	⑦	⑧	⑦-⑧	⑦/⑧
山口	コシヒカリ	15,485	619	15,566	99%	15,159	102%	429	144%	489	127%	15,517	15,266	+ 251	102%
山口	ひとめぼれ	14,548	567	14,589	100%	14,383	101%	280	203%	467	121%	14,564	14,404	+ 160	101%
山口	ヒノヒカリ	14,538	542	14,641	99%	14,327	101%	223	243%	439	123%	14,559	14,406	+ 153	101%
徳島	コシヒカリ	15,768	120	-	-	15,876	99%	-	-	240	50%	15,745	15,867	▲ 122	99%
徳島	キヌヒカリ	-	-	15,336	-	-	-	120	-	-	-	15,336	15,102	+ 234	102%
香川	コシヒカリ	15,280	528	15,322	100%	15,291	100%	432	122%	425	124%	15,287	15,259	+ 28	100%
香川	ヒノヒカリ	14,833	397	14,701	101%	14,840	100%	374	106%	579	69%	14,812	14,802	+ 10	100%
香川	おいでまい	15,379	314	15,423	100%	15,412	100%	193	163%	327	96%	15,391	15,382	+ 9	100%
愛媛	コシヒカリ	15,457	281	15,527	100%	15,456	100%	293	96%	293	96%	15,609	15,536	+ 73	100%
愛媛	ヒノヒカリ	-	-	15,065	-	15,141	-	105	-	133	-	15,022	15,190	▲ 168	99%
愛媛	あきたこまち	-	-	-	-	15,037	-	-	-	112	-	14,973	14,946	+ 27	100%
高知	コシヒカリ	-	-	-	-	15,009	-	-	-	2,477	-	-	15,171	-	-
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,358	-	-
福岡	夢つくし	16,186	1,316	16,196	100%	16,190	100%	864	152%	1,054	125%	16,314	16,267	+ 47	100%
福岡	ヒノヒカリ	15,502	775	15,381	101%	15,484	100%	1,174	66%	1,206	64%	15,463	15,448	+ 15	100%
福岡	元気つくし	15,880	3,662	16,091	99%	16,170	98%	936	391%	1,326	276%	16,016	16,093	▲ 77	100%
佐賀	夢しずく	14,838	207	-	-	14,449	103%	-	-	302	69%	14,976	14,430	+ 546	104%
佐賀	さがびより	-	-	-	-	15,237	-	-	-	819	-	-	15,027	-	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	-	14,219	-	-	-	108	-	-	14,236	-	-
長崎	にこまる	15,332	299	15,291	100%	15,802	97%	228	131%	286	105%	15,319	15,796	▲ 477	97%
長崎	ヒノヒカリ	15,034	205	14,992	100%	15,529	97%	151	136%	239	86%	15,026	15,476	▲ 450	97%
長崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,973	16,383	▲ 410	97%
熊本	ヒノヒカリ	15,337	524	15,296	100%	15,019	102%	175	299%	469	112%	15,213	15,147	+ 66	100%
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,264	14,891	+ 373	103%
熊本	コシヒカリ	-	-	15,791	-	15,617	-	287	-	265	-	15,767	15,719	+ 48	100%
大分	ヒノヒカリ	15,762	617	15,720	100%	16,021	98%	1,199	51%	920	67%	15,691	15,655	+ 36	100%
大分	ひとめぼれ	-	-	15,877	-	15,695	-	148	-	202	-	15,869	15,764	+ 105	101%
大分	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,904	-	-	-
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,042	15,458	+ 584	104%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	16,021	-	-	-	221	-	15,725	16,010	▲ 285	98%
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	16,275	-	-	-	189	-	-	-	16,039	16,092	▲ 53	100%
鹿児島	あきほなみ	-	-	16,153	-	-	-	117	-	-	-	16,211	16,929	▲ 718	96%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,670	16,307	+ 363	102%
全銘柄平均価格、合計数量		15,745	284,540	15,690	100%	15,696	100%	167,935	169%	247,712	115%	15,729	15,686	+ 43	100%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

3 価格に含む消費税は、令和元年9月以前は8%、10月以降は軽減税率の対象である米穀の品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。また、算定に当たっては、契約価格に運賃を含めない産地在姿の取引分も対象としている。

6 報告対象産地品種銘柄ごとの年産平均価格は、当該報告対象産地品種銘柄の出回りから当該月までの相対取引数量ウェイトで加重平均により算定している（30年産、元年産のいずれも速報値）。

7 全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定している。

8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 全銘柄平均価格、合計数量欄には公表していない産地品種銘柄分を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

2 スポット価格の状況（日本コメ市場株式会社）

○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

【令和元年度】

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg）

産地銘柄		令和元年 8月	9月	10月	11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
青森まっしぐら	取引会				14,000									
青森つがるロマン	随時				14,243									
秋田あきたこまち	随時		15,010	14,832	14,632	14,900	14,987							
	取引会		15,019		14,879									
福島天のつば	取引会						14,183							
茨城コシヒカリ	随時			14,500										
	取引会				14,550									
栃木コシヒカリ	随時					14,666	14,657							
栃木とちぎの星	取引会						13,950							
栃木あさひの夢	取引会				13,769									
千葉コシヒカリ	取引会	14,750					14,600							
千葉ふさおとめ	取引会	14,088	14,015											
千葉ふさこがね	取引会	14,024	13,950											
新潟コシヒカリ(一般)	随時		16,794				16,726							
	取引会		16,755		16,650		16,747							

【平成30年度】

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg）

産地銘柄		平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	令和元年 5月	6月	7月	8月
北海道ななつぼし	取引会						15,750		15,500					
北海道ゆめびりか	取引会		16,113											
北海道きらら397	随時						14,975							
青森つがるロマン	随時			14,000										
宮城ひとめぼれ	随時								14,850			15,121		
	取引会										15,030			
秋田あきたこまち	随時		14,693	14,638	15,072	15,140		15,102	14,792	15,147		17,060	18,122	
	取引会		14,690		15,055		15,200		14,816		15,475		18,245	
福島コシヒカリ(中通)	随時					14,660					14,782			
	取引会										14,885			
福島ひとめぼれ	取引会						14,550						14,800	
茨城コシヒカリ	随時		14,571	14,581	14,613		14,770				14,613		15,016	
	取引会	14,220	14,470						14,495		14,600		14,981	14,895
茨城あきたこまち	取引会		13,862											
栃木コシヒカリ	随時			14,260	14,619	14,800							15,083	
栃木あさひの夢	取引会				13,671									
群馬あさひの夢	取引会								13,920					
千葉コシヒカリ	取引会	14,226			14,985		14,914							
千葉ふさおとめ	取引会	13,700												
千葉ふさこがね	取引会				14,014								14,200	
新潟コシヒカリ(一般)	随時		16,493		17,649	17,893	18,234		18,930		20,047		19,237	
	取引会		16,500		17,607		18,620		18,950		20,350		19,500	17,268

出典：日本コメ市場株式会社HP

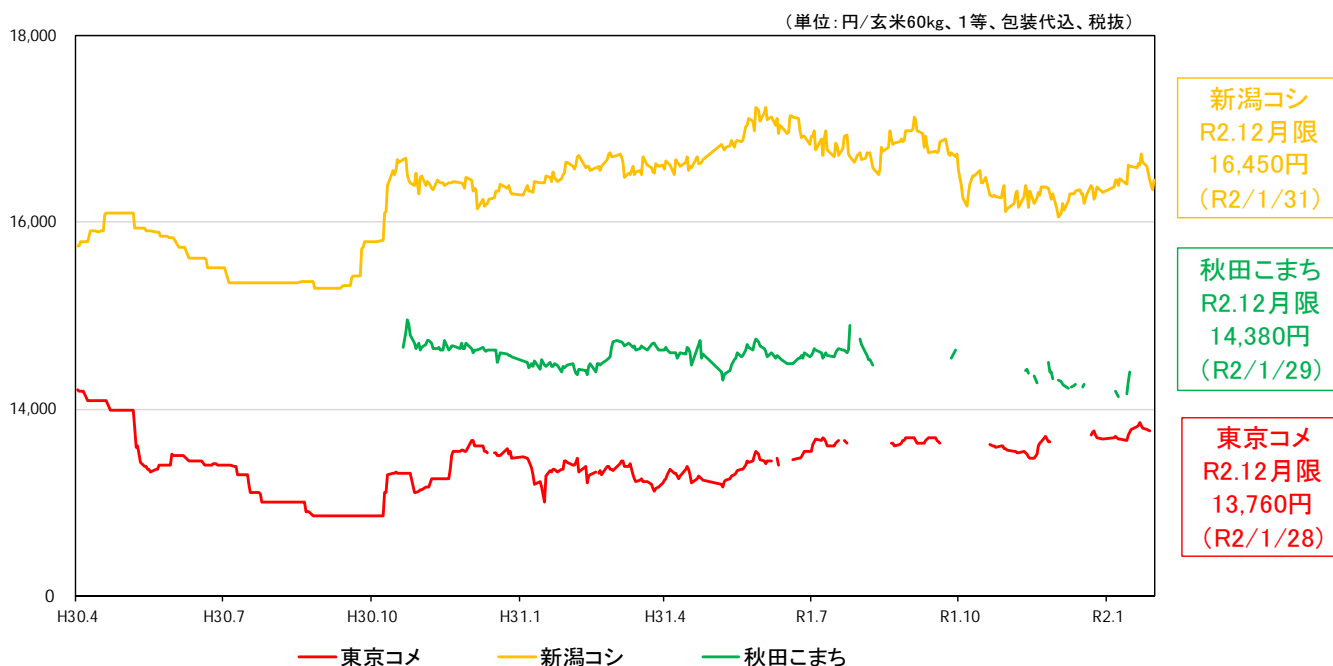
注1：日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

注2：日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

3 米の先物取引価格の推移

- 期先限月の終値（1日の最終約定値段）は、
東京コメが令和2年12月限13,760円（令和2年1月28日）、
新潟コシが令和2年12月限16,450円（令和2年1月31日）、
秋田こまちが令和2年12月限14,380円（令和2年1月29日） となっている。

価格の推移(期先限月の終値)



出典:大阪堂島商品取引所

注1:商品先物取引とは、将来の一定期日に一定の商品を売買することを約束して、その価格を現時点で決める取引。

注2:東京コメ、新潟コシは平成30年4月2日から、秋田こまちは平成30年10月22日から令和2年1月31日までの価格の推移である。

注3:東京コメは栃木・群馬あさひの夢、埼玉彩のかがやき、千葉ふさおとめ・ふさこがね、新潟コシは新潟県産コシヒカリ、秋田こまちは秋田県産あきたこまちを標準品とした取引価格。いずれも1等、消費税抜き、運賃及び包装代を含む。

注4:期先限月とは、現物受渡や売買取引の期限が、その時点から最も先となる月。

4 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和2年1月分)

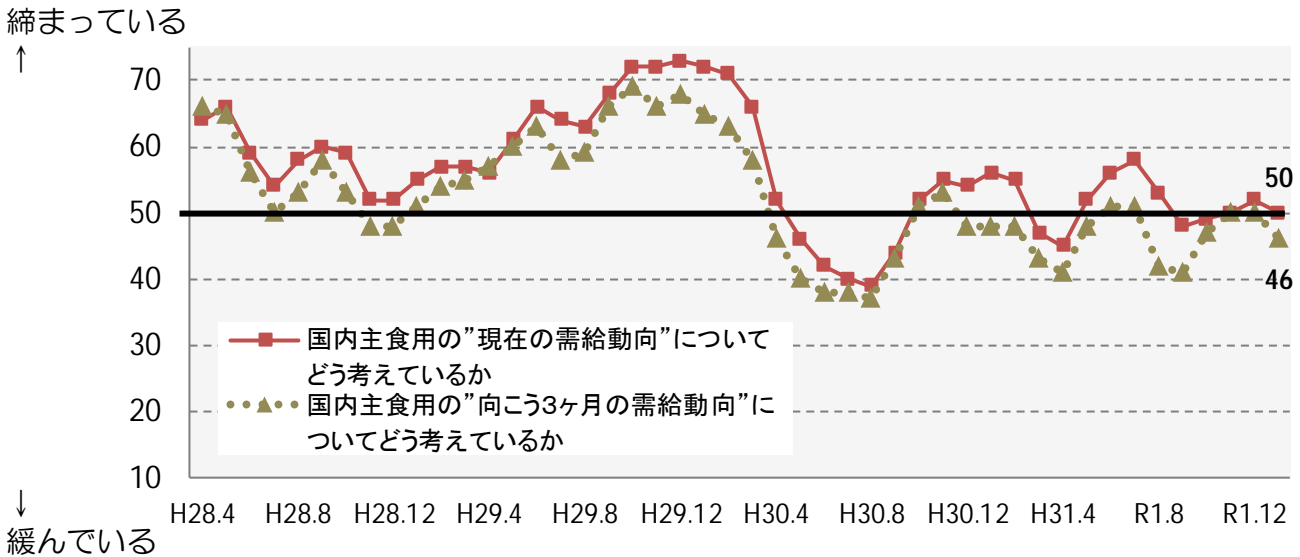
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(令和2年1月分)によると、主食用米の需給動向の現状判断は対前月比-2ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は-4ポイント。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減	-2	(今月の数値	50)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減	-4	(今月の数値	46)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。
 【<http://www.komenet.jp/>】
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の160客体
- 有効回答数: 122客体
 - 生産者…………… 7
 - 集出荷業者/団体…………… 21
 - 卸売業者(主に主食用米) …… 29
 - 小売業者/中食・外食業者 …… 49
 - その他…………… 16

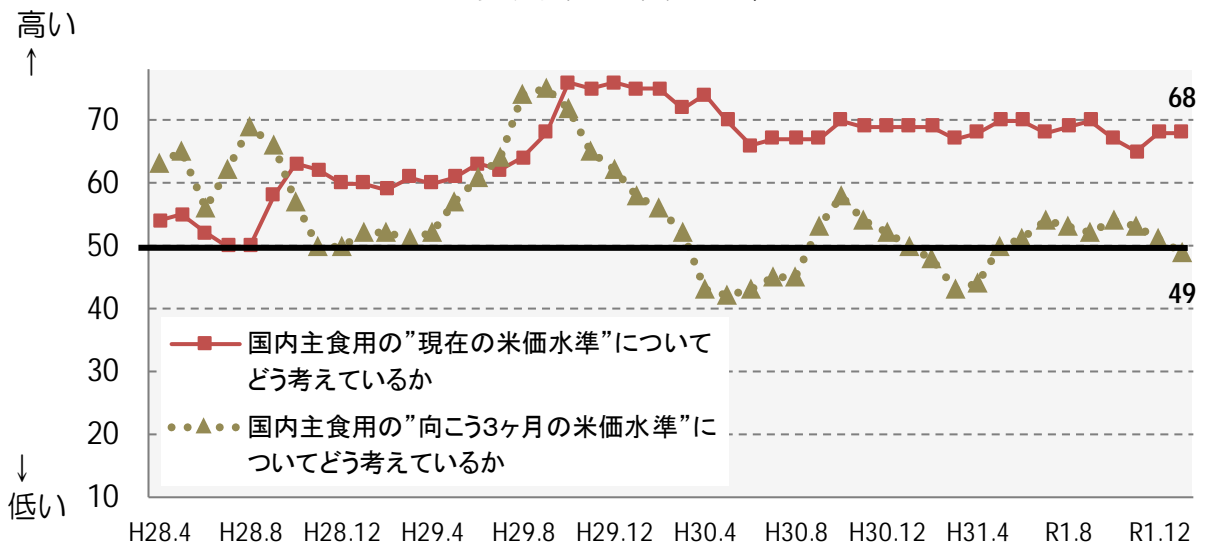
※「その他」は以下の業者です。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準の現状判断は対前月比 ±0ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は -2ポイント。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I 前月からの増減 ±0 (今月の数値 68)
 (イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月) 前月からの増減 -2 (今月の数値 49)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 令和元年産米の作付状況

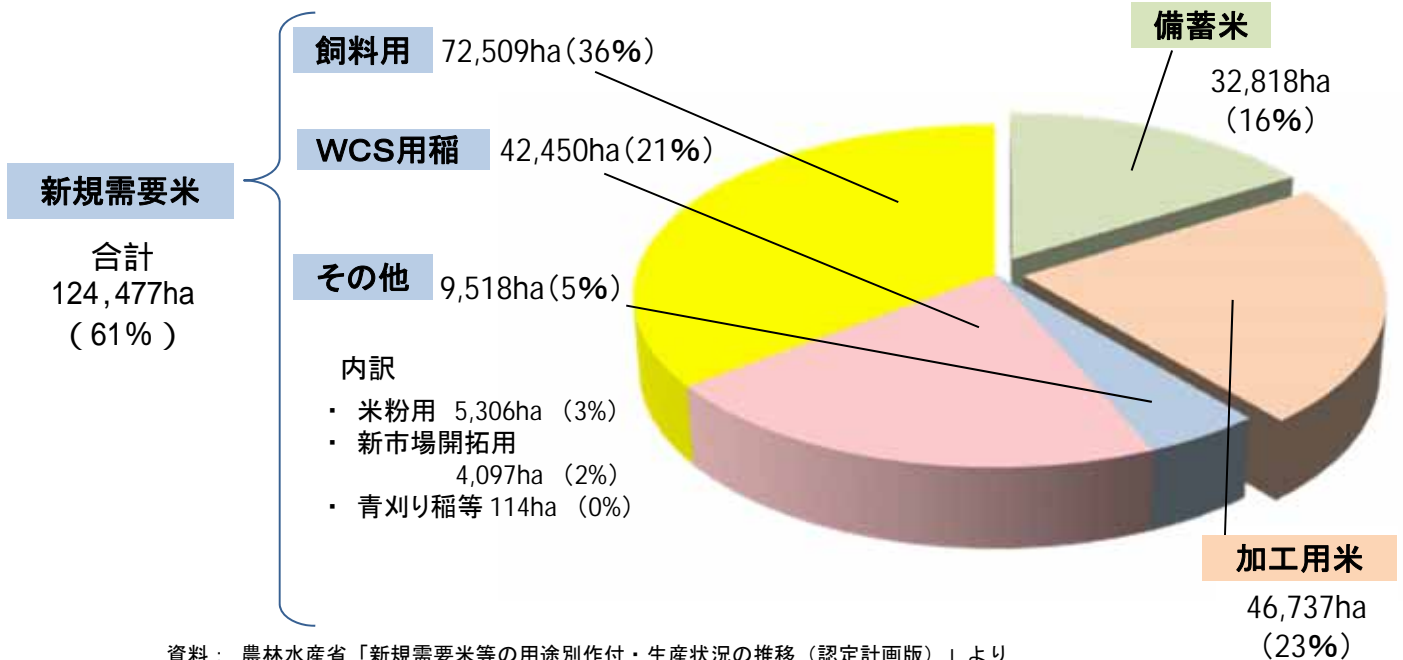
- 令和元年産米の作付面積は、主食用米が137.9万ha、主食用米以外が約20.4万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米12.4万ha、加工用米4.7万ha、備蓄米3.3万ha。

(1) 令和元年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	158.3	137.9	12.4	4.7	3.3
生産量（万トン）		727.0	43.4	25.7	18.5

※主食用米の生産量は、農林水産省「令和元年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月31日公表)」の収穫量である。それ以外の生産量は、計画生産量である。
 ※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない。

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移（認定計画版）」より
 注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。
 注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

		新規需要米（元年産）				
		飼料用米	米粉用米	新市場開拓用米	WCS用稲	青刈り用稲・わら専用稲
作付面積（ha）	124,477	72,509	5,306	4,097	42,450	114
計画生産量（ト）	433,907	383,443	27,975	22,488		

資料：農林水産省「新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移（認定計画版）」より
 注1：新規需要米の取組として認定を受けた令和元年10月15日現在の値。
 注2：「WCS用稲」及び「わら専用、青刈り用稲」については子実を採らない用途であるため生産量を取りまとめていない。
 注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成30米穀年度における使用量は、焼酎、包装もちの出荷量の減少等により、前年から微減の約96万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割。残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 米菓を中心に特定米穀及び輸入米粉調製品の使用量が増加。

(1) 30米穀年度（平成29年11月～30年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

<うるち米>

（単位：万玄米トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	11 (9)	9		4			24 (9)
米菓用	1	1		5	5	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	6					11
味噌用		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)		2		3	2		7
米穀粉用		1	3	1	2	1	8
その他用	1	2		1	1		4
合計	18	21	3	16	16	3	77

<もち米>

（単位：万玄米トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	2	3				1	7
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	6		1	1	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約9万トンを含んでいない。

注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゆう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）

米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計

加工用米・・・「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

(2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

＜うるち米＞ (単位：万玄米トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
	30	11 (9)	9		4			24 (9)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
	30	1	1		5	5	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
	29	5	5					11
	30	5	6					11
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
	29		1		2	7		10
	30		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
	29		2		3	2		8
	30		2		3	2		7
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
	29		1	2	1	2	1	8
	30		1	3	1	2	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
	30	1	2		1	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78
	30	18	21	3	16	16	3	77

＜もち米＞ (単位：万玄米トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
	30	2	3				1	7
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
	29	1	2		1	1	1	6
	30	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1						3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
	30	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
	29	1						1
	30	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
	29						1	2
	30						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19
	30	6	6		1	1	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しょうちゆう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万kl程度まで減少。
- 消費者の志向が量から質へと変化してきており、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の国内出荷量全体に占める割合は増加傾向で推移。
- また、輸出については、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向で推移。ただし、元年の輸出量は減少に転じており、今後の動向に注視が必要。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	対前年比 元/30年
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	465	94%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	96%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	96%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	100%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	97%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	92%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年で元年は概算値。

注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	対前年比 元/30年
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	97%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	108%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	124%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	54%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	100%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	92%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	105%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

(2) 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米、「酒造好適米」（山田錦、五百万石など）が使用されている。
- 近年、日本酒の出荷量は減少傾向であるものの、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒の割合が増加傾向にあるため、日本酒原料米の使用量は総じて堅調に推移。

日本酒原料米の使用状況

(千トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産
日本酒原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248	251	241	240
酒造好適米									(4)	(7)	(7)	(7)
加工用米	99	75	77	71	65	65	68	76	90	99	97	94
その他	86	89	74	72	77	71	79	95	105	94	93	88
その他	220	151	110	103	90	102	94	72	53	58	51	58

資料：農林水産省による推計値。

注：酒造好適米の（ ）書きは生産数量目標の枠外で生産された数量で内数。

(3) 酒造好適米の生産量

- 酒造好適米の生産量（農産物検査数量）については、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格の大幅下落等により、酒造好適米の生産へシフトしたこと等から、平成27年産において、需要を上回る生産量となった。
- 平成28年産以降は減少傾向にあるが、令和元年産は、前年産より作柄が良かったことから、生産量は前年産と同程度の約97千トンと見込まれる。

酒造好適米の生産量（農産物検査数量）の推移

(トン)

	10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	
											対30年産比
酒造好適米	99,448	74,854	76,788	75,813	90,185	108,797	106,618	102,400	95,856	96,708	100.9%
山田錦	24,639	22,853	21,399	23,081	29,812	39,528	37,257	38,431	33,916	34,503	101.7%
五百万石	33,282	23,169	24,186	20,602	22,596	27,078	26,030	20,564	21,203	19,324	91.1%
美山錦	11,304	7,487	7,016	6,426	7,786	7,838	7,513	7,018	6,408	6,604	103.1%
雄町	2,502	1,827	1,780	1,700	2,312	2,886	2,481	2,873	2,723	2,954	108.5%
その他	27,721	19,518	22,407	24,004	27,679	31,467	33,337	33,514	31,607	33,323	105.4%

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注：元年産は、令和元年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

(4) 酒造好適米の需要量

- 酒造好適米の需要量については、令和元年度の需要量調査によると、令和元年産は88～90千トン、令和2年産は87～89千トン程度の需要量が見込まれている。

(参考) 令和元年度 酒造好適米等の需要量調査の概要

- 日本酒の全酒造メーカー（1,430社）を対象として、令和元年7月に酒造好適米等の購入実績及び将来の購入見込数量を調査。763社から回答があり、回答率は数量ベースの回答率は約82～84%と推計される。

酒造好適米等の需要量調査結果

(トン)

	29年産	30年産		元年産		2年産	
			対29年産比		対29年産比		対29年産比
酒造好適米の需要量調査結果(実数)	77,719	72,905	93.8%	73,354	94.4%	73,013	93.9%
山田錦	32,148	28,682	89.2%	29,485	91.7%	29,044	90.3%
五百万石	16,191	15,365	94.9%	14,462	89.3%	14,403	89.0%
美山錦	5,058	4,734	93.6%	4,453	88.0%	4,406	87.1%
雄町	1,711	1,546	90.4%	1,560	91.2%	1,619	94.7%
その他	22,611	22,577	99.8%	23,395	103.5%	23,540	104.1%
酒造好適米の全体需要量(推計)	93～95千トン	87～89千トン		88～90千トン		87～89千トン	

資料：「令和元年度 酒造好適米等の需要量調査結果」（農林水産省）

注1：「酒造好適米の需要量調査結果(実数)」は、令和元年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量の積み上げの実数。

注2：「酒造好適米の全体需要量(推計)」は、令和元年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量が全体需要量の約82～84%と推計されるため、今回調査した各年産の需要量を当該割合で除することにより推計。

産地銘柄毎の需要量等の酒造好適米に関する詳細な情報は、以下URLの「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米等の需要量調査結果等」を参照ください。

URL：http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

4 飼料用米の需要量

- 畜産側の令和元年産に係る飼料用米の年間需要量は、約120万トン。
〔農林水産省生産局畜産部飼料課調べ〕
- ① 全農グループ飼料会社：約69万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量）
- ② (協)日本飼料工業会組合理工場：約50万トン（米の需要量見込み約88万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量）
- ③ 全国酪農業協同組合連合会：約1万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ④ 日本養鶏連：約4万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ⑤ 畜産農家：約2万トン〔44件〕（新規需要量、令和元年6月28日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	65	ホクレンくみあい飼料
東北	203	JA全農北日本くみあい飼料
関東	125	JA東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	25	JA東日本くみあい飼料
東海	35	〃
近畿・中国	32	JA西日本くみあい飼料
四国	25	〃
北九州	37	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	143	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	691	

- (※) 使用可能数量は、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) この他、MA米、備蓄米に対する需要が約13万トンある。
- (※) 畜種別の使用割合は、グループ内の飼料会社からの聞取りをもとに、採卵鶏約33%、豚約29%、ブロイラー約19%、肉用牛約13%、乳用牛約6%と推計。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合理工場の飼料用米需要量見込み（平成31年1月現在）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	21	
東北	153	
関東	115	
中部	51	
関西	58	
九州	97	
合計	495	

- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) この他、MA米、備蓄米に対する需要が約38万トンある。
- (※) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。
- (※) 畜種別の使用割合は、組合理の一部の工場からの聞取りをもとに、豚約35%、ブロイラー約32%、採卵鶏約30%、乳用牛約2%、肉用牛約1%と推計。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

〔(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。〕

問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」 TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	
合計	14.4	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、乳用牛約85%、肉用牛約15%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、採卵鶏約70%、ブロイラー約25%、その他約5%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の令和元年産飼料用米の新規需要量（令和元年6月28日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
岩手県	3	1,350	2	1,300
群馬県	2	450		
千葉県	5	6,930	3	500
山梨県	5	13		
長野県	4	277	1	3
石川県	1	9		
愛知県	3	320		
大阪府	2	15		
奈良県	5	1,610		
広島県	1	300		
香川県	4	110		
福岡県	2	1,250		
佐賀県	1	4		
長崎県	3	280	3	62
大分県	1	1,000		
宮崎県	2	2,450		
合計	44	16,368	9	1,865

(※) 供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載（現在とりまとめ中の都道府県もあり）。

(※) 追加の希望があれば随時更新。

(※) 畜種別の使用割合は都道府県の報告から、肉用牛5件1,568トン、乳用牛4件990トン、豚10件1,390トン、採卵鶏20件8,146トン、ブロイラー3件1,424トン、その他2件2,850トン。

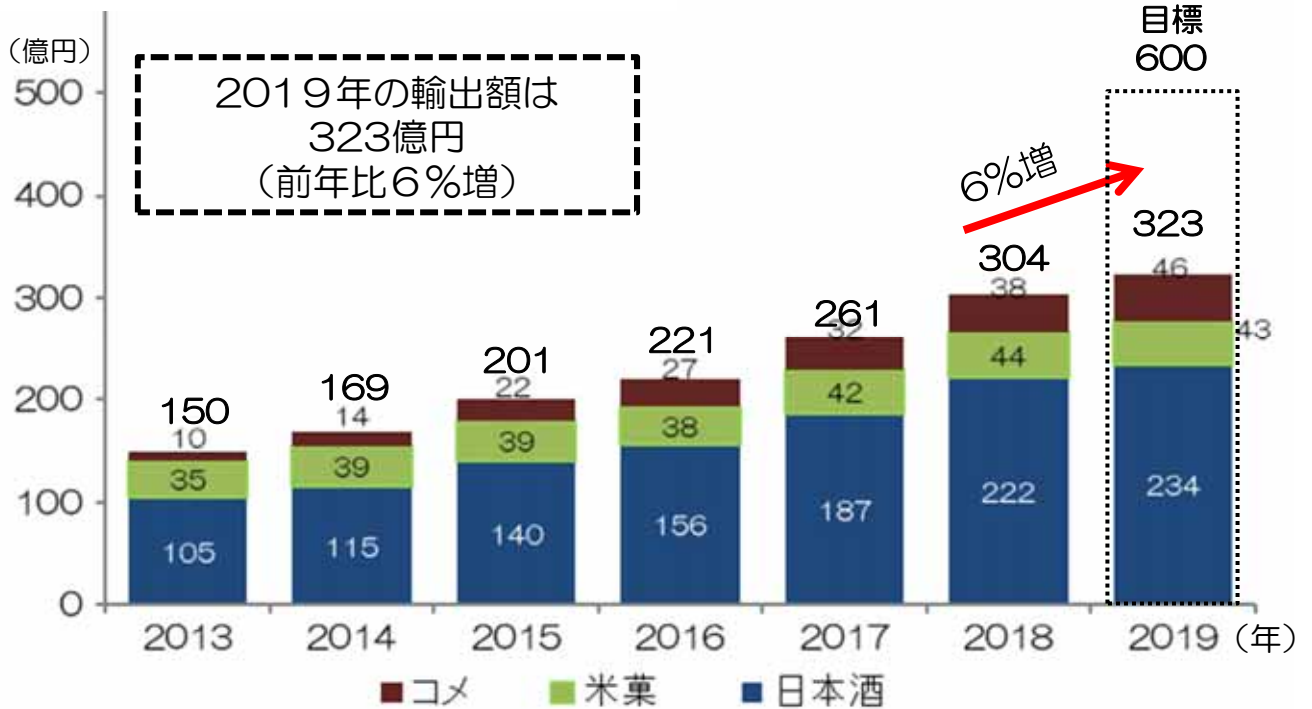
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額目標を2020年（令和2年）までに600億円とすることが決定。
- 2019年の輸出額は、323億円（前年比6%増）。
- 600億円目標は達成できなかったものの、コメ・コメ加工品は数量で10%増、金額で6%増と伸びており、特に香港、米国、中国等を中心に輸出は大幅に増加。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

品目名			2016年	2017年	2018年	2019年		(参考) 主な輸出先国
						数量(※)	金額	
コメ・コメ加工品		数量(※)	24,135トン	28,340トン	31,741トン	34,851トン	+10%	米国 香港 台湾 韓国 シンガポール 中国
		金額	221億円	261億円	304億円	323億円	+6%	
	コメ (援助米を除く)	数量	9,986トン	11,841トン	13,794トン	17,381トン	+26%	香港 シンガポール 台湾 米国 中国
		金額	27億円	32億円	38億円	46億円	+23%	
	米菓 (あられ・せんべい)	数量	3,567トン	3,849トン	4,053トン	4,033トン	±0%	台湾 米国 香港 シンガポール 韓国
		金額	38億円	42億円	44億円	43億円	-3%	
	日本酒 (清酒)	数量	19,737 キロリットル	23,482 キロリットル	25,747 キロリットル	24,928 キロリットル	-3%	米国 香港 中国 韓国 台湾 シンガポール
		金額	156億円	187億円	222億円	234億円	+5%	

資料：財務省「貿易統計」(政府による食料援助を除く。)

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール

主な取組（令和元年度）

米国のホテルレストランや飲食店オーナー、ディストリビューター等を招聘し、産地視察や輸出業者とのビジネスマッチングを実施。

【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国

主な取組（令和元年度）

北米で開催される展示会への出展及び現地小売店と連携したプロモーション・テスト販売を実施。

【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港

主な取組（令和元年度）

中国・北京において、一般消費者による日本酒の品評会（Sake-China）を開催。

輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 米政策改革の定着に向け、食料自給率・自給力の向上に資する飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化とともに、産地交付金により、地域の特色ある魅力的な産品による産地の創造を支援します。また、高収益作物の導入・定着を促進するため、水田農業高収益化推進助成を新設し、支援します。

水田活用の直接支払交付金(1)

【令和2年度予算概算決定額3,050億円】

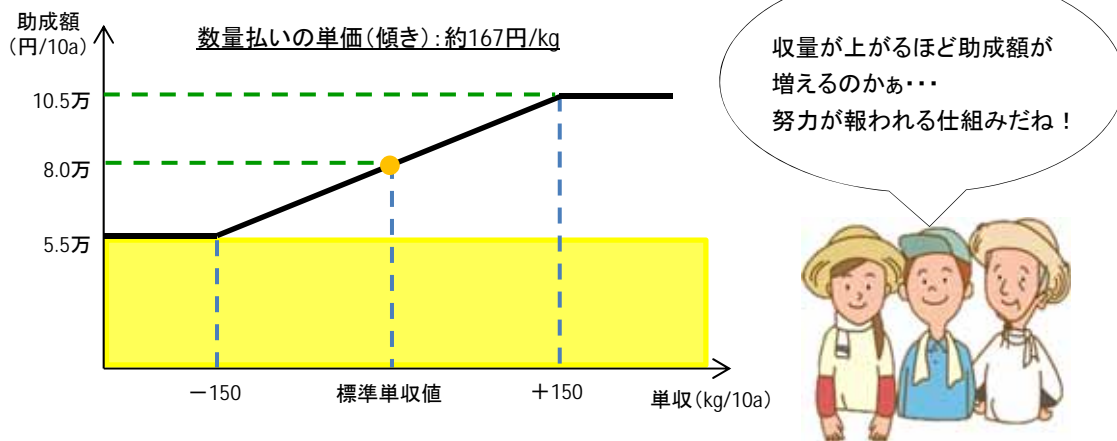
支援内容

① 戦略作物助成※1

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※2	35,000万円/10a
WCS用稲	80,000万円/10a
加工用米	20,000万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000円～105,000円/10a

※1 基幹作のみ対象 ※2 飼料用とうもろこしを含む

<飼料用米、米粉用米の収量と交付単価の関係(イメージ)>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- 標準単収値の各地域への適用に当たっては、地域農業再生協議会が当該地域に応じて定めている単収（地域の合理的な単収）を適用します。なお、地域の合理的な単収は当年産の作柄（作柄表示地帯別）に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{地域の合理的な単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

注：水田活用の直接支払交付金については、交付対象水田における対象作物の作付が対象です。

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

基本的運用

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容（交付対象作物・取組・単価等）を設定できます（一定割合以上は都道府県段階で助成内容を決定）。
- また、取組に応じた配分（下表参照）を都道府県に対して行います。

取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米の複数年契約 ※ 3年以上の契約	12,000円/10a
そば、なたねの作付け ※ 基幹作のみ	20,000円/10a
新市場開拓用米の作付け ※ 基幹作のみ	20,000円/10a

上記のほか、以下の取組について、拡大計画に基づき、年度当初に配分を行います。

- ① 転換作物拡大加算（15,000円/10a）
地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米が減少し、転換作物の面積が令和元年度より拡大した場合に、その面積に応じて配分。
- ② 高収益作物等拡大加算（30,000円/10a）
地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米が減少し、高収益作物等※の面積が令和元年度より拡大した場合に、その面積に応じて配分。

※ 高収益作物等：高収益作物（園芸作物等）、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

基本的運用

- 助成内容は以下のルールに即して設定します。

- ① 地域における水田農業経営の課題に対応し、収益力向上に資する取組に対する助成とすること
- ② 経営所得安定対策等における趣旨を損なうような助成としないこと（例：品位の低いもののみへの加算）
- ③ 主食用米、備蓄米、不作付地への助成は行わないこと
- ④ 地方農政局長等が特に必要と認めた場合を除き、所得増加に直接寄与しない作物（景観形成作物等）への助成は行わないこと 等

水田活用の直接支払交付金(3)

③ 水田農業高収益化推進助成

基本的運用

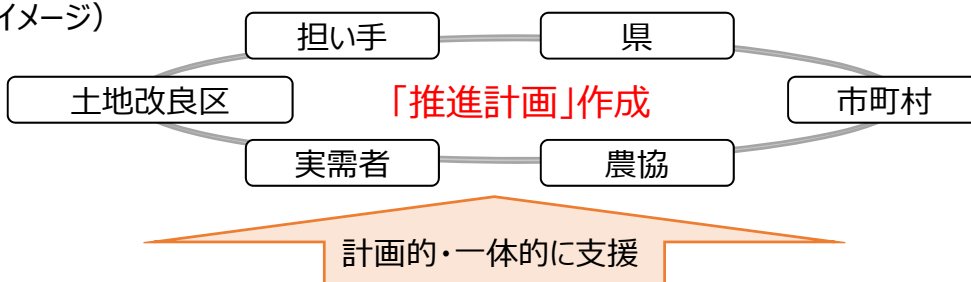
➤ 都道府県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき、国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組と併せて、水田での高収益作物への転換等を計画的かつ一体的に推進します。

➤ 「推進計画」に位置付けられた産地における以下の取組を支援します。

- ① 高収益作物定着促進支援(20,000円/10a×5年間)
高収益作物※1の新たな導入面積に応じて支援。(②とセット)
- ② 高収益作物畑地化支援(105,000円/10a)
高収益作物による畑地化の取組を支援※2。
- ③ 子実用とうもろこし支援(10,000円/10a)
子実用とうもろこしの作付面積に応じて支援。

※1 高収益作物:園芸作物等 ※2 その他の転作作物に係る畑地化も同様の単価で支援

(支援イメージ)



水田農業高収益化推進プロジェクトチーム(国)

生産基盤の整備

技術、機械・施設等の導入



高収益作物への転換

- ① 新たな導入面積に応じて支援
- ② 畑地化の取組を支援

水田農業高収益化推進計画

➤ 「水田農業高収益化推進計画」は、水田地域で高収益作物の導入・定着等を図るため、以下の内容を盛り込み、都道府県が策定するものです。

○都道府県・産地段階の推進体制・役割

○都道府県・産地ごとの推進品目の導入目標や目標達成に向けた取組

- ・栽培技術の習得や農地の条件整備に向けた取組
- ・活用予定の国の支援策や実施地区
- ・基盤整備事業等を活用している場合は、当該事業の「事業計画」とのリンク等

水田活用の直接支払交付金(4)

令和2年産における需要に応じた生産の推進策

【 令和元年度 】

【 令和2年度 】

①転換作物拡大加算 (1.0万円/10a)

①転換作物拡大加算 (1.5万円/10a)

・都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米が29年度以降の最小面積より更に減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を配分。

・地域の取組を直接反映し、麦、大豆等の作付拡大による水田フル活用を推進するため、
単位：都道府県→**地域農業再生協議会**
基準年：主食用米が減少し、転換作物の面積が
元年度より拡大
配分時期：拡大計画に基づき、年度当初に配分 (10月→4月)。

(新規)

②平成31年度緊急転換加算 (5千円/10a)

・都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米が30年度の面積より減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を配分。 (R1限り)

②飼料用米・米粉用米の複数年契約加算 (1.2万円/10a)

・より安定的な生産・供給にシフトするため、多収品種加算を見直して複数年契約加算を創設し、インセンティブ付与。 (加算見直し)

③飼料用米・米粉用米の多収品種加算 (1.2万円/10a)

・多収品種の取組面積に応じて産地交付金を配分。

③水田農業高収益化推進助成

高収益作物：2.0万円/10a×5年間
子実用とうもろこし：1.0万円/10a

・都道府県が策定する「水田農業高収益化推進計画」に基づき、高収益作物、子実用とうもろこしを導入する産地を支援。 (新規)

④高収益作物等拡大加算 (2.0万円/10a)

・地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米が30年度以降の最小面積より更に減少し、高収益作物等*の面積が更に拡大した場合に、その面積に応じて産地交付金を配分。

④高収益作物等拡大加算 (3.0万円/10a)

・高収益作物、新市場開拓用米、加工用米等への転換を後押しするため、
基準年：主食用米が減少し、高収益作物等の面積が元年度より拡大
配分時期：拡大計画に基づき、年度当初に配分 (10月→4月)。

(拡充)

※高収益作物 (園芸作物等)、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

⑤麦、大豆等の作付拡大に取り組む産地へ産地交付金をシフト

・転換作物の作付実績を踏まえ、R2年度の当初配分に反映。 (新規)

⑤産地交付金の県枠の設定

・当初配分の1割以上は、都道府県段階で支援内容を決定し、重点品目の単価を上乘せ。

⑥産地交付金の県枠の拡大

・当初配分に占める割合：1割以上→1.5割以上に拡大。 (運用見直し)

水田活用の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は34万7千件で、平成29年度の支払実績と比べて7万8千件減少。
- 支払面積は、戦略作物(基幹作物)全体では43万haと、平成29年度と比べて1万6千ha減少。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、2千ha減の9万6千ha
 - (イ) 大豆は、2千ha減の8万7千ha
 - (ウ) 飼料作物は、平成29年度からほぼ横ばいの7万2千ha
 - (エ) 新規需要米(WCS用稲、米粉用米、飼料用米)は、特に飼料用米が減少したことから、1万2千ha減の12万6千ha
 - (オ) 加工用米は、昨年度とほぼ横ばいの4万8千ha

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)			
	個人	法人	集落営農	
平成30年度	346,933	329,920	11,876	5,137
平成29年度	424,823	407,774	11,443	5,606
対前年度比較	▲ 77,890	▲ 77,854	433	▲ 469

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積 基幹作物

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	新市場 開拓用米
					平成30年度	96,491	86,664			72,195	126,465	42,071
平成29年度	98,173	88,638	72,424	138,621	42,340	5,271	91,009	48,684	446,540	26,155	727	—
対前年度比較	▲ 1,683	▲ 1,974	▲ 229	▲ 12,156	▲ 269	▲ 28	▲ 11,859	▲ 314	▲ 16,357	259	54	3,491

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、5千2百ha(前年度並)、2万8千トン(7百トン減)
526kg/10a
 - (イ) 飼料用米では、7万8千ha(1万2千ha減)、41万7千トン(7万3千トン減)
538kg/10a

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

(単位: ha、トン、kg/10a)

	米粉用米			飼料用米		
	面積	数量	単収	面積	数量	単収
平成30年度	5,234	27,540	526	77,512	417,037	538
平成29年度	5,257	28,272	538	89,238	489,687	549
対前年度比較	▲ 23	▲ 732	▲ 12	▲ 11,726	▲ 72,649	▲ 11

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。

面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。

数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算出。

数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【令和2年度予算概算決定額：2,163(1,998)億円(所要額)】

(1) 支援内容（数量払）（注：令和元年産の交付単価）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (パン・中華麺用品種:60kg当たり)	9,060円	8,560円	8,410円	8,350円	7,900円	7,400円	7,250円	7,190円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,760円	6,260円	6,110円	6,050円	5,600円	5,100円	4,950円	4,890円
二条大麦 (50kg当たり)	5,560円	5,140円	5,020円	4,970円	4,700円	4,280円	4,150円	4,100円
六条大麦 (50kg当たり)	6,040円	5,620円	5,490円	5,440円	5,010円	4,590円	4,470円	4,420円
はだか麦 (60kg当たり)	8,660円	8,160円	8,010円	7,920円	7,090円	6,590円	6,440円	6,360円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	10,020円	9,330円	8,650円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,970円		

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,590円	15,480円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,950円	9,210円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+62円	7,450円	▲62円

糖度:てん菜の重量に対するしょ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+64円	11,670円	▲64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

令和2年から4年産の 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）の 交付単価が変わります。

畑作物の直接支払交付金における令和2～4年産に適用する数量払の交付単価をお知らせします。近年の生産動向等を踏まえた統計データ等に基づき算定した改定後の交付単価は下表のとおりです。なお、今回の改定では、

- ① TPP11や日米貿易協定の発効により生じうる影響（麦・てん菜）
 - ② 消費税率改定による影響（全品目）
- を考慮して算定を行っています。

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハシ・中華麵用品種: 60kg当たり)	8,810円	8,310円	8,160円	8,100円	7,650円	7,150円	7,000円	6,940円
小麦 (上記品種以外: 60kg当たり)	6,510円	6,010円	5,860円	5,800円	5,350円	4,850円	4,700円	4,640円
二条大麦 (50kg当たり)	6,840円	6,420円	6,300円	6,250円	5,980円	5,560円	5,430円	5,380円
六条大麦 (50kg当たり)	5,970円	5,550円	5,420円	5,370円	4,940円	4,520円	4,400円	4,350円
はだか麦 (60kg当たり)	9,980円	9,480円	9,330円	9,240円	8,410円	7,910円	7,760円	7,680円

等級: 被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A～Dランク: たんぱく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	10,830円	10,140円	9,460円
特定加工用大豆(60kg当たり)	8,780円		

等級: 被害粒の割合や粒揃いの違いで区分

特定加工用: 豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	13,800円	11,690円

等級: 容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ きらきら銀河 キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	8,020円	7,280円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.6度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+62円	6,840円	▲62円

糖度: てん菜の重量に対するしょ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.7%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+64円	13,560円	▲64円

でん粉含有率: ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

※面積払の交付単価は、変更ありません。(20,000円/10a(そばは、13,000円/10a))

(2) 支援内容 (面積払 (営農継続支払))

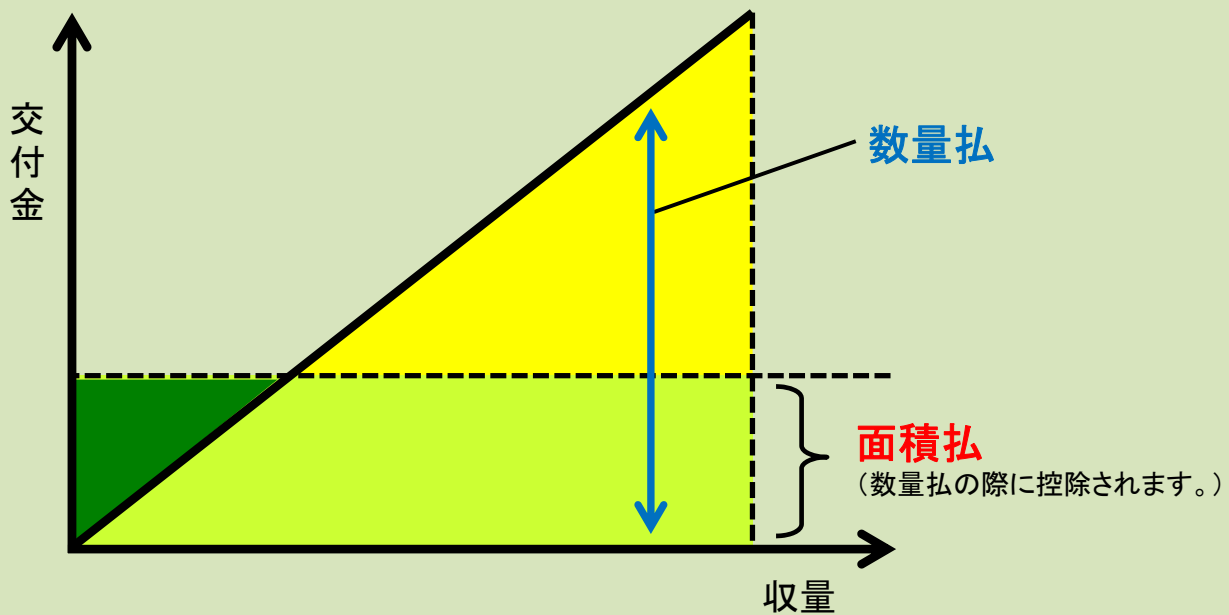
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10a当たり2万円
※「そば」は、10a当たり1万3千円

③ 数量払と面積払の関係



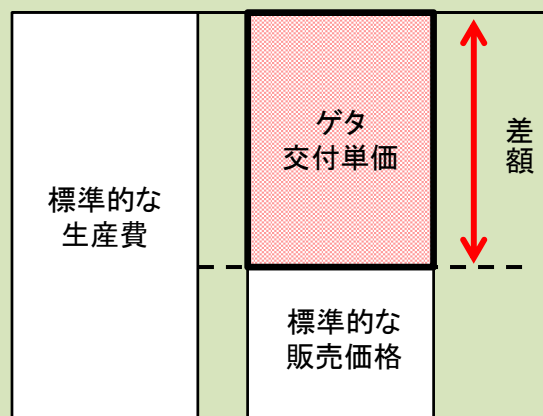
交付対象者

認定農業者、集落営農、
認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
※ビール用麦、黒大豆、種子用として
生産されるものなどは対象外
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ
※北海道産のみ

交付単価のイメージ



(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

【令和2年度予算概算決定額：645(740)億円(所要額)】

- 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）は、農家拠出を伴う経営に着目したセーフティネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません。）。

- ※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に実行されると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5か年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3か年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

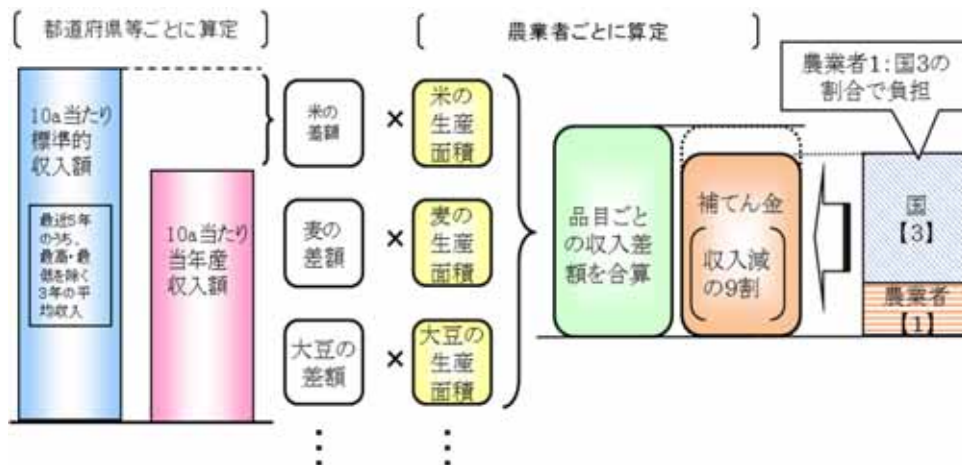
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の拠出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(4) 収入保険との関係

- 農業者は、収入保険かナラシ対策のどちらかを選択して加入することができます。

(参考) 平成30年産ナラシ対策の支払実績 (令和元年7月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)
全 国			98,957	19,771	68.92
北 海 道			18,640	12,418	51.74
東 北	青 森 県		4,472	97	0.68
	岩 手 県		3,005	41	0.11
北 海 道	宮 城 県		3,957	239	1.75
	秋 田 県		8,075	235	1.34
	山 形 県		7,362	53	0.28
関 東	福 島 県		4,561	27	0.12
	茨 城 県		2,736	52	0.07
	栃 木 県		5,008	125	0.11
	群 馬 県		893	6	0.00
	埼 玉 県		1,138	14	0.03
	千 葉 県		908	5	0.02
	東 京 都		2	—	—
	神 奈 川 県		108	1	0.00
	山 梨 県		119	8	0.01
	長 野 県		1,293	24	0.08
北 陸	静 岡 県		290	—	—
	新 潟 県		11,781	4,474	5.21
	富 山 県		1,445	156	0.68
	石 川 県		1,717	44	0.11
東 海	福 井 県		1,115	88	0.25
	岐 阜 県		612	95	0.50
	愛 知 県		550	136	1.21
近 畿	三 重 県		861	94	0.46
	滋 賀 県		2,096	359	1.41
	京 都 府		261	10	0.02
	大 阪 府		37	—	—
	兵 庫 県		972	184	0.31
	和 歌 山 県		79	4	0.00
中 国	和 歌 山 県		50	—	—
	鳥 取 県		303	34	0.06
	島 根 県		609	11	0.01
	岡 山 県		701	7	0.03
	広 島 県		431	4	0.00
	山 口 県		734	19	0.05
	徳 島 県		127	1	0.00
	香 川 県		542	4	0.00
	愛 媛 県		527	8	0.02
	高 知 県		178	2	0.01
九 州	福 岡 県		2,024	236	0.81
	佐 賀 県		1,518	193	0.47
	長 崎 県		631	14	0.02
	熊 本 県		3,007	105	0.57
	大 分 県		1,185	122	0.32
	宮 崎 県		1,448	9	0.03
沖 縄 県		769	13	0.02	
沖 縄 県		80	—	—	

(注1) 加入件数は、平成30年7月31日時点(岐阜県、京都府、兵庫県、鳥取県、岡山県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県及び鹿児島県は10月1日時点)の積立金納付者の件数である。

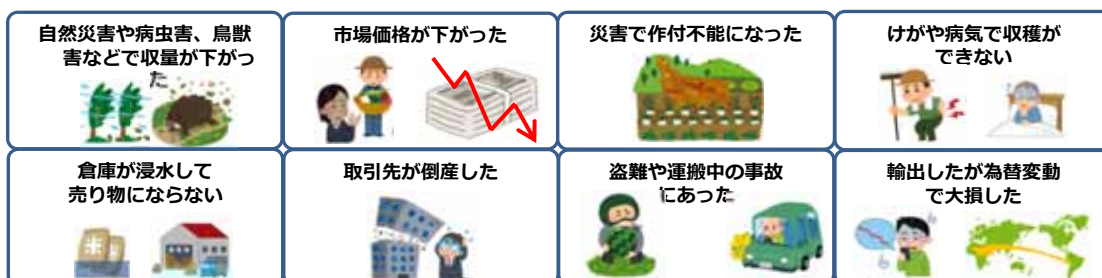
(注2) 支払件数及び補てん総額は、令和元年7月31日時点の数値である。

(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

(4) 収入保険

【令和2年度予算概算決定額:211(206)億円】

- 全ての農産物を対象に、自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない様々なリスクによる収入減少を補償します。



【加入できる方】

青色申告を行っている農業者（個人・法人）

- ※ 青色申告（簡易な方式を含む）の実績が1年分あれば加入できます。
- ※ 収入保険と、農業共済、ナラシ対策、野菜価格安定制度などの類似制度は、どちらかを選択して加入します。
- ※ ゲタ対策につきましては、同時に加入できます。

【対象収入】

農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体

- ※ 簡易な加工品（精米、もちなど）は含まれます。
- ※ 一部の補助金（畑作物の直接支払交付金等の数量払）は含まれます。
- ※ 肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は、マルキン等の対象なので除きます。

【補てんの仕組み】

- 保険期間の収入が基準収入の9割（5年以上の青色申告実績がある場合の補償限度額の上限）を下回った場合に、下回った額の9割を上限に補てんします。

- ※ 基準収入は、農業者ごとの過去5年間の平均収入（5中5）を基本とし、規模拡大など保険期間の営農計画も考慮して設定します。
- ※ 「掛捨ての保険方式」に「掛捨てとまらない積立方式」も組み合わせるかどうかは選択できます。補償限度額は基準収入の9～5割の中から選択できます。
- ※ 保険方式の支払率は9～5割、積立方式の支払率は9～1割の中から選択できます。

- 農業者は、保険料、積立金等を支払って加入します。（任意加入）

- ※ 保険料は掛捨てになります。保険料率は、1.08%（50%の国庫補助後）で、自動車保険と同様に、保険金の受取がない方は、保険料率が下がっていきます。
- ※ 積立金には、75%の国庫補助があります。これは自分のお金であり、補てんに使われたい限り、翌年に持ち越されます。
- ※ 税務申告上、保険料及び付加保険料（事務費）は、必要経費（個人）又は損金（法人）に計上します。積立金は、預け金として取り扱います。

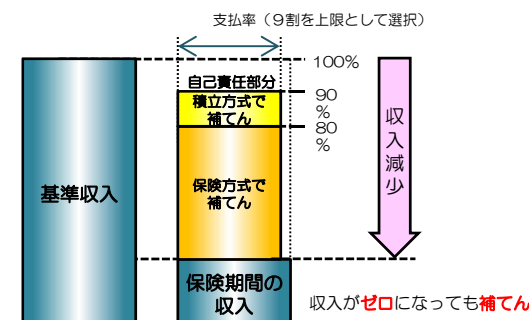
基本のタイプ

<基本のタイプの補てん方式>

（注）5年以上の青色申告実績がある者の場合

- 例えば、基準収入1,000万円の方の場合、保険料7.8万円、積立金22.5万円、付加保険料（事務費）2.2万円で、最大810万円の補てんが受けられます。

- このタイプは、保険期間の収入がゼロになったときは、810万円（積立金90万円、保険金720万円）の補てんが受けられます。



基準収入は、過去5年間の平均収入（5中5）を基本に規模拡大など、保険期間の営農計画も考慮して設定

令和2年1月からは、補償の下限を選択することで、最大約4割安い保険料で加入することができます。詳しくは次のページへ！



掛金の安いタイプをご紹介します！

補償の下限は、基準収入の50%、60%、70%から選択できます。

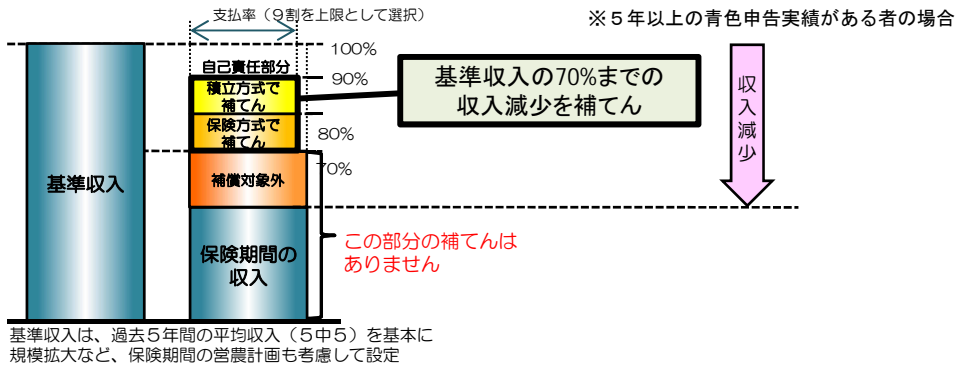
例えば、基準収入の70%を補償の下限として選択した場合

- これは、保険期間の収入が基準収入の9割を下回ったときに、基準収入の70%までの額の9割を上限に補てんを受けるタイプです。
- 例えば、基準収入が1,000万円の方の場合、保険料4.4万円、積立金22.5万円、付加保険料1.9万円で、保険期間の収入が700万円になったときは、最大180万円（積立金90万円、保険金90万円）の補てんが受けられます。ただし、700万円を下回った分の補てんはありません。

保険料は、基本のタイプに比べて約4割安くなります。

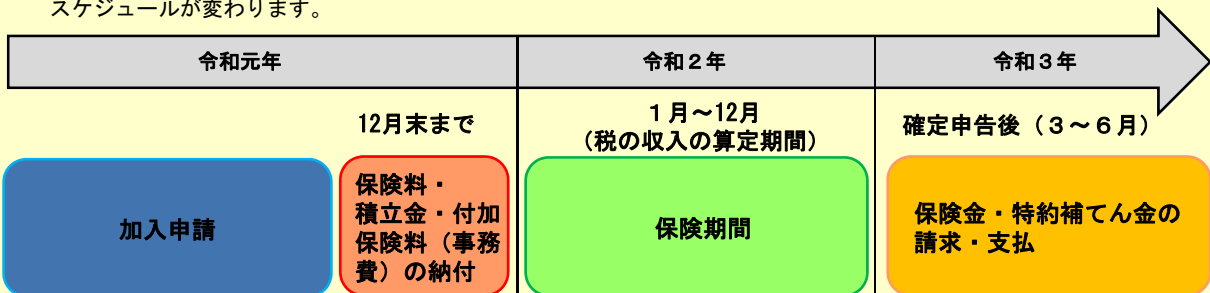
	保険料	積立金	付加保険料 (事務費)	補てん金
基本のタイプ	7.8万円	22.5万円	2.2万円	最大810万円
補償の下限70%	4.4万円	22.5万円	1.9万円	最大180万円

<基本収入の70%を補償の下限とした場合の補てん方式>



<加入・支払等手続のスケジュール>

- ※ 保険期間が令和2年1月～12月の場合のイメージです。
- ※ 保険期間は税の収入の算定期間と同じです。法人の保険期間は、事業年度の1年間です。事業年度の開始月によって、スケジュールが変わります。



※ 保険料・積立金は分割支払も可
(最終の納付期限は保険期間の8月末)

※ 保険期間中に災害等により資金が必要な場合は、つなぎ融資（無利子）



収入保険について、補償内容、シミュレーション（試算）など詳しいことは、最寄りの**農業共済組合**までお問い合わせください。

【収入保険に関する地域の相談窓口一覧】

<http://nosai-zenkokuren.or.jp/consultation.html> (全国農業共済組合連合会ホームページ)

※ 収入保険に関する詳しい情報は、全国農業共済組合連合会（NOSAI 全国連）のホームページでご覧になれます。

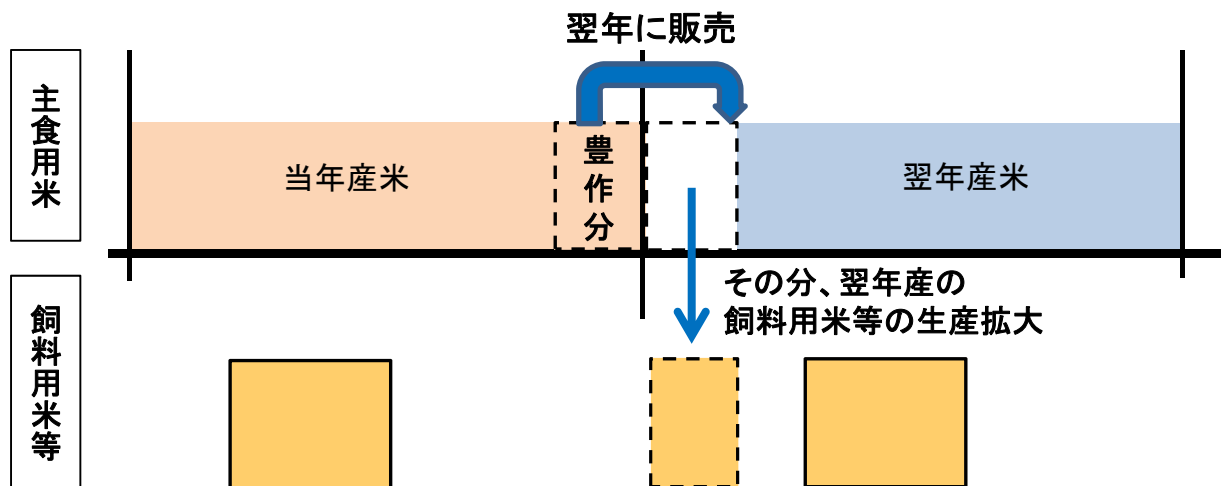
▶ 収入保険 NOSAI

🔍 検索

(5) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：令和2年度予算概算決定額50億円（前年度：50億円））
- 必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。（水田活用の直接支払交付金：令和2年度予算概算決定額 3,050億円（前年度：2,961億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

<対策のポイント>

生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援。

<政策目標>

生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現。

<事業の内容>

<事業イメージ>

全国事業

1. 業務用米等の安定取引拡大支援

産地と中食・外食事業者等との安定取引を拡大するため、民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援します。

産地

2. 周年供給・需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します（※）。

- 主食用米を翌年から翌々年以降に長期計画的に販売する取組（収穫前契約や複数年契約の場合は追加的に支援）
- 主食用米を輸出向けに販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- 主食用米を業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- 主食用米を非主食用へ販売する取組

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援します。

1. 業務用米等の安定取引拡大支援

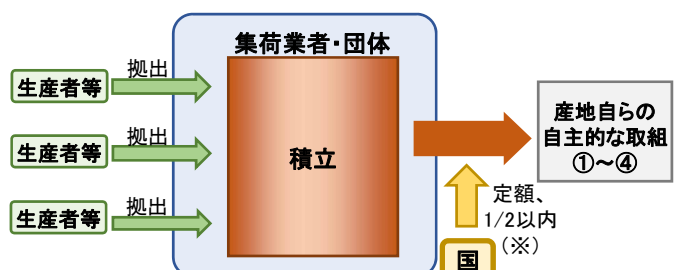
〔業務用米取引セミナー〕



〔展示商談会〕

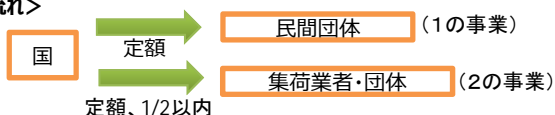


2. 周年供給・需要拡大支援



（※）値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

<事業の流れ>

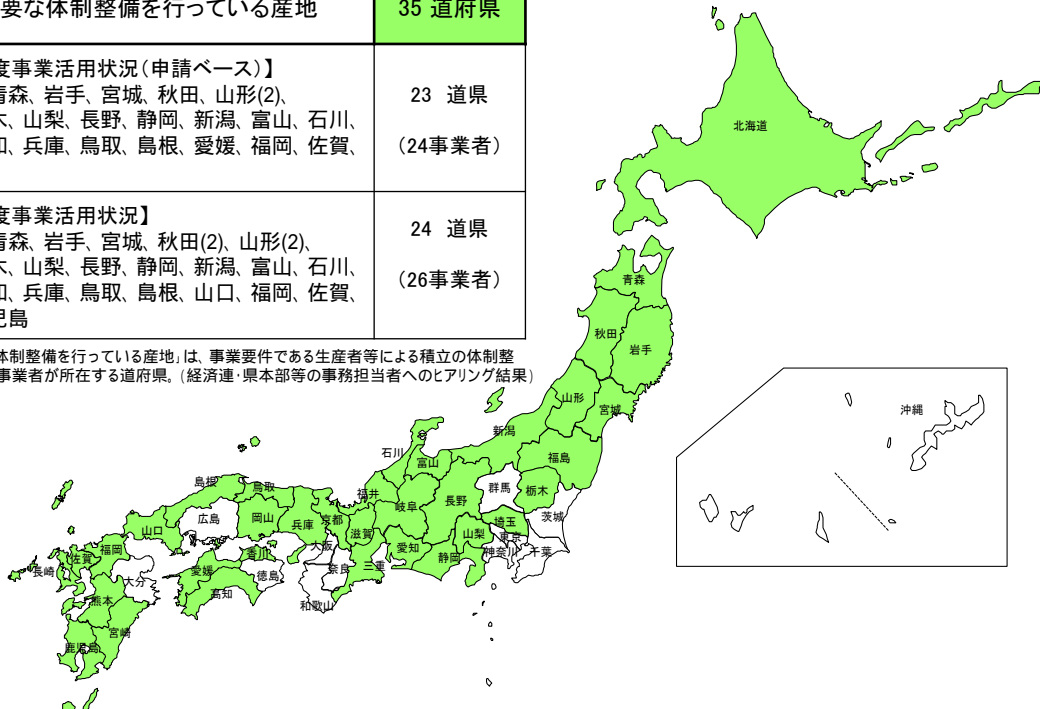


③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、35道府県の38事業者において行われている状況。
- 令和元年度は23道県（24事業者）が事業を活用（平成30年度は24道県（26事業者）が事業を活用）。
- 出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	35 道府県
【令和元年度事業活用状況(申請ベース)】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形(2)、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟、富山、石川、福井、愛知、兵庫、鳥取、島根、愛媛、福岡、佐賀、鹿児島	23 道県 (24事業者)
【平成30年度事業活用状況】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形(2)、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟、富山、石川、福井、愛知、兵庫、鳥取、島根、山口、福岡、佐賀、長崎、鹿児島	24 道県 (26事業者)

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による積立の体制整備等を行っている事業者が所在する道府県。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<ul style="list-style-type: none"> 【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディア及びイベントを活用した北海道産米のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	<ul style="list-style-type: none"> 【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディア及びイベントを活用した秋田県産米のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	<ul style="list-style-type: none"> 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬぎ」PRキャンペーンの開催 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディア及びイベントを活用した山形県産米のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディア及びイベントを活用した新潟県産米のPR ・ JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施 ・ インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握
石川	<ul style="list-style-type: none"> 【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディア及びイベントを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

(5) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（平成29年9月8日公表）

我が国のコメの消費量が毎年約10万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ このため、平成29年9月に「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」を立ち上げ、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

令和元年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

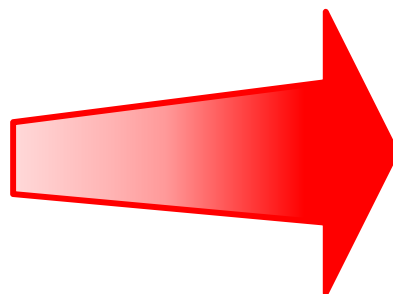
連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大



目標：10万トン^(※)

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

○ 本プロジェクトの参加状況

令和元年12月27日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 70事業者（目標数量合計 14万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1) 団体・法人 250産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 21 団体
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1 団体
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東、インド

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

○ 今後の取組方針

海外市場における日本産米の需要をより一層喚起し、輸出拡大に繋げるため、令和元年度補正予算に盛り込まれた輸出促進予算等を活用して戦略的輸出事業者による海外市場開拓を強力に推進します。

また、海外需要に応じた輸出用米の生産拡大を進めるため、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地の結びつけ・マッチングを進めるとともに、各県・地域が水田フル活用ビジョンの検討を進める中で、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との間で輸出用米の具体的な生産数量や品種等の調整が進むよう、関係者が一体となって輸出用米生産の取組を推進します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
農産企画課米穀輸出企画班 島本、菅島、鈴木
E-mail:kome_yusyutu@maff.go.jp
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-6069

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
穀物課 美保、山崎、木村、新井
E-mail:kome_santi@maff.go.jp
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。

また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画を公開しています。

「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

(農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL)

http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

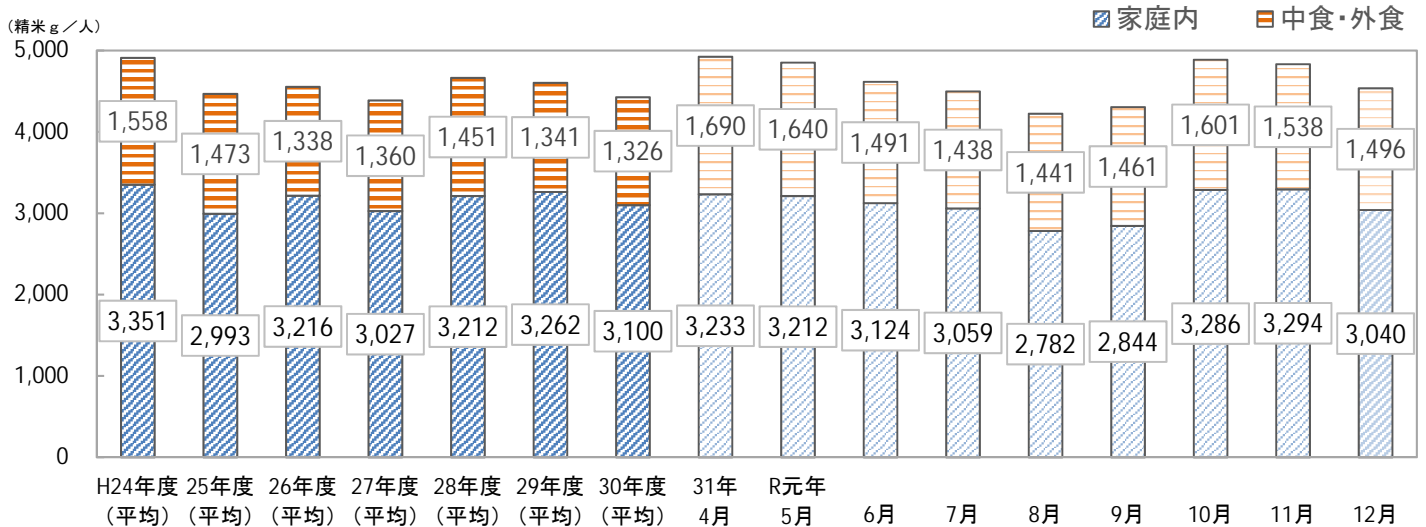
VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向調査」（令和元年12月分）によると、1人1カ月当たりの精米消費量は、前年同月比+3.0%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月比▲0.8%、中食・外食では+11.6%。

1人1カ月当たり精米消費量の推移



	精米消費量					内訳比率				前年同月比					
	合計	家庭内	中・外食	中食	外食	合計	家庭内	中・外食	中食	外食	合計	家庭内	中・外食	中食	外食
平成24年度	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲1.3	1.6	▲7.6	▲8.8	▲5.8
30年度	4,426	3,100	1,326	782	544	100.0	70.0	30.0	17.7	12.3	▲3.8	▲5.0	▲1.1	0.6	▲3.5
平成31年 4月	4,923	3,233	1,690	979	710	100.0	65.7	34.3	19.9	14.4	1.9	▲4.4	16.9	13.4	21.8
令和元年 5月	4,851	3,212	1,640	968	672	100.0	66.2	33.8	20.0	13.9	5.6	0.6	17.1	15.0	20.4
6月	4,615	3,124	1,491	866	624	100.0	67.7	32.3	18.8	13.5	1.1	▲2.6	9.6	5.4	16.0
7月	4,497	3,059	1,438	835	603	100.0	68.0	32.0	18.6	13.4	3.9	1.4	9.9	6.0	15.7
8月	4,223	2,782	1,441	822	619	100.0	65.9	34.1	19.5	14.7	0.9	▲4.5	13.1	11.7	15.1
9月	4,305	2,844	1,461	842	620	100.0	66.1	33.9	19.6	14.4	0.3	▲6.4	16.6	15.8	17.9
10月	4,887	3,286	1,601	960	641	100.0	67.2	32.8	19.6	13.1	10.3	5.3	22.1	22.0	22.3
11月	4,832	3,294	1,538	928	610	100.0	68.2	31.8	19.2	12.6	4.9	1.4	13.4	19.9	4.8
12月	4,536	3,040	1,496	856	640	100.0	67.0	33.0	18.9	14.1	3.0	▲0.8	11.6	7.4	17.9

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注1：令和元年12月分の有効調査世帯数は1,743世帯。

2：平成24～30年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

3：調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

4：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

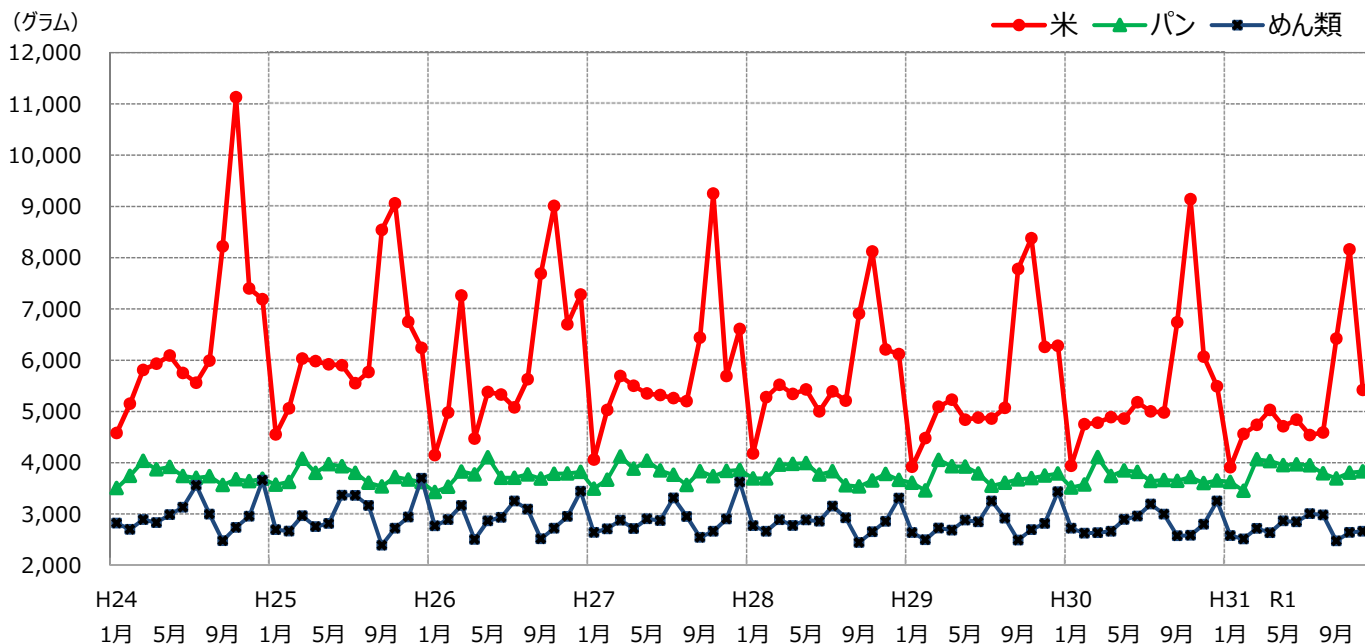
5：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

6：四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移 (家計調査)

- 総務省が公表している家計調査によると、令和元年11月の米の購入数量は、対前年同月比▲10.7%の5.4kg、パンは+6.3%の3.8kg、めん類は▲4.9%の2.7kg。

1世帯当たり1か月間の購入数量の推移



(グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	前年(同月)比	購入数量	前年(同月)比	購入数量	前年(同月)比
平成24年(累計)	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
25年(累計)	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
26年(累計)	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
27年(累計)	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
28年(累計)	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
29年(累計)	67,070	97.6%	44,829	99.4%	33,878	99.1%
30年(累計)	65,820	98.1%	44,534	99.3%	33,890	100.0%
平成31年 1月	3,910	99.2%	3,625	103.1%	2,577	94.7%
2月	4,560	96.0%	3,453	96.6%	2,513	95.7%
3月	4,740	99.2%	4,066	99.0%	2,720	103.3%
4月	5,030	102.9%	4,030	107.8%	2,635	98.9%
令和元年 5月	4,710	96.9%	3,953	102.7%	2,865	99.0%
6月	4,840	93.4%	3,969	103.9%	2,846	96.2%
7月	4,540	90.8%	3,949	108.4%	3,005	94.1%
8月	4,590	92.2%	3,792	103.5%	2,981	99.5%
9月	6,420	95.3%	3,693	101.3%	2,475	96.2%
10月	8,160	89.3%	3,806	102.3%	2,642	102.2%
11月	5,420	89.3%	3,830	106.3%	2,662	95.1%

資料：総務省「家計調査」家計収支編

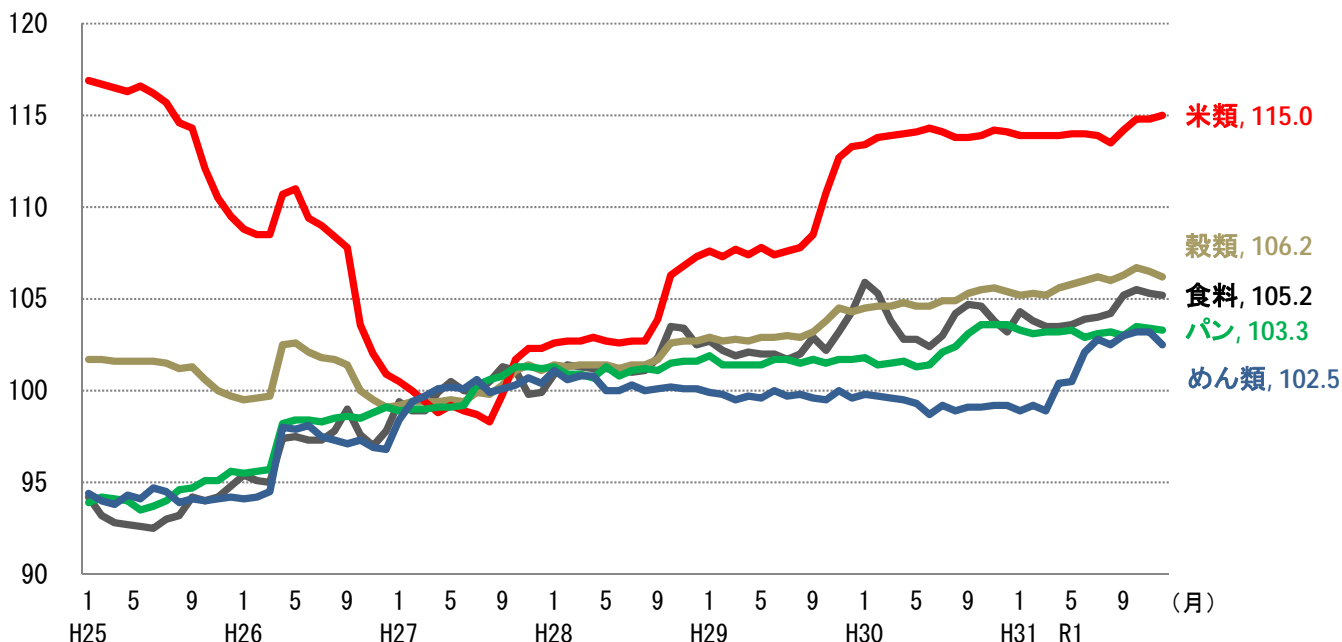
注1：二人以上の世帯の数値である。

注2：平成24～30年(累計)は年間の購入数量・対前年比、平成31年1月以降は月間の購入数量・対前年同月比である。

注3：米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- 総務省が公表している消費者物価指数によると、令和元年12月の米類の指数は対前月比 +0.2、対前年同月比 +0.7%の115.0ポイント。



(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類		
	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比		
平成25年 (平均)	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%	
26年 (平均)	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%	
27年 (平均)	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%	
28年 (平均)	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%	
29年 (平均)	102.4	0.7%	103.2	1.5%	108.8	4.8%	109.2	5.1%	101.6	0.4%	99.7	▲0.6%	
30年 (平均)	103.9	1.4%	104.9	1.7%	114.0	4.7%	114.6	5.0%	102.3	0.7%	99.3	▲0.5%	
令和元年 (平均)	104.3	0.5%	105.9	0.9%	114.2	0.2%	114.9	0.2%	103.2	0.9%	101.4	2.2%	
令和元年	1月	104.3	▲1.5%	105.2	0.7%	113.9	0.5%	114.7	0.5%	103.3	1.5%	98.9	▲0.8%
	2月	103.8	▲1.4%	105.3	0.7%	113.9	0.1%	114.7	0.1%	103.1	1.7%	99.2	▲0.5%
	3月	103.5	▲0.3%	105.2	0.5%	113.9	0.0%	114.6	0.0%	103.2	1.7%	98.9	▲0.7%
	4月	103.5	0.7%	105.6	0.8%	113.9	▲0.1%	114.6	▲0.1%	103.2	1.5%	100.4	0.9%
	5月	103.6	0.8%	105.8	1.1%	114.0	0.0%	114.7	0.0%	103.3	1.9%	100.5	1.2%
	6月	103.9	1.4%	106.0	1.3%	114.0	▲0.2%	114.7	▲0.2%	102.9	1.5%	102.1	3.4%
	7月	104.0	0.9%	106.2	1.2%	113.9	▲0.2%	114.5	▲0.2%	103.1	1.0%	102.8	3.6%
	8月	104.2	0.1%	106.0	1.0%	113.5	▲0.2%	114.3	▲0.2%	103.2	0.8%	102.5	3.7%
	9月	105.2	0.5%	106.3	0.9%	114.2	0.4%	114.9	0.4%	103.0	▲0.1%	103.0	4.0%
	10月	105.5	0.9%	106.7	1.2%	114.8	0.8%	115.5	0.8%	103.5	▲0.1%	103.2	4.1%
	11月	105.3	1.5%	106.5	0.9%	114.8	0.6%	115.5	0.6%	103.4	▲0.2%	103.2	4.0%
	12月	105.2	1.9%	106.2	0.8%	115.0	0.7%	115.8	0.7%	103.3	▲0.3%	102.5	3.3%

資料：総務省「消費者物価指数」平成27年基準、品目別価格指数（全国）

注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。

注2：穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。

注3：平成25年～令和元年のデータは年平均、平成31年1月以降は月次データである。

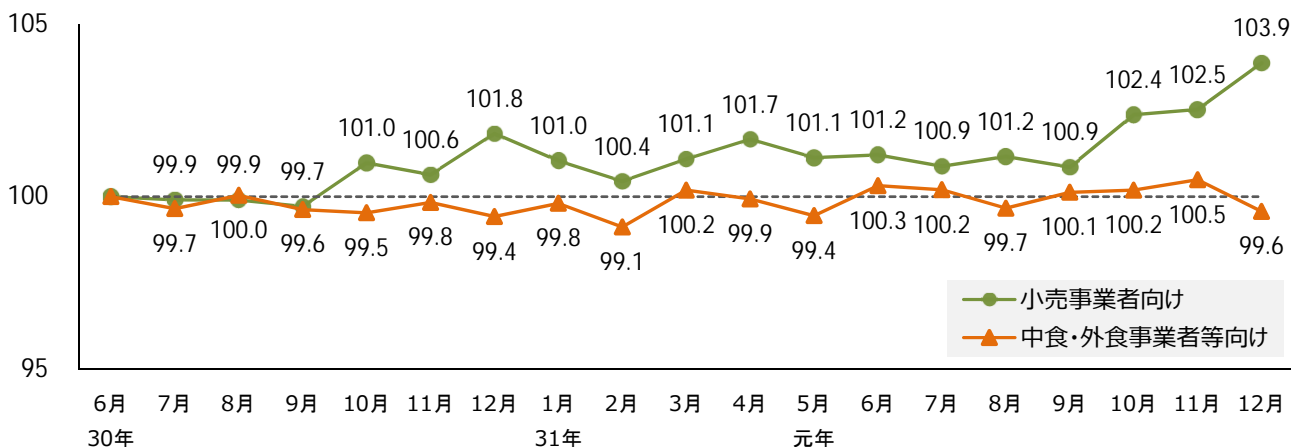
(5) 米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向

- 令和元年12月の販売数量(前年同月比)は、小売事業者向け102%、中食・外食事業者等向け99%。
- 平成30年6月を基準にした令和元年12月の販売価格の値動きは、小売事業者向け103.9、中食・外食事業者等向け99.6。
- 前年同月を基準にした令和元年12月の販売価格の値動きは、小売事業者向け101.9、中食・外食事業者等向け100.0。

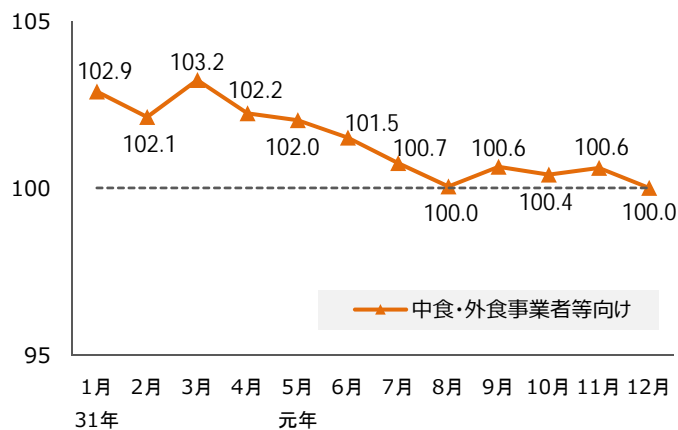
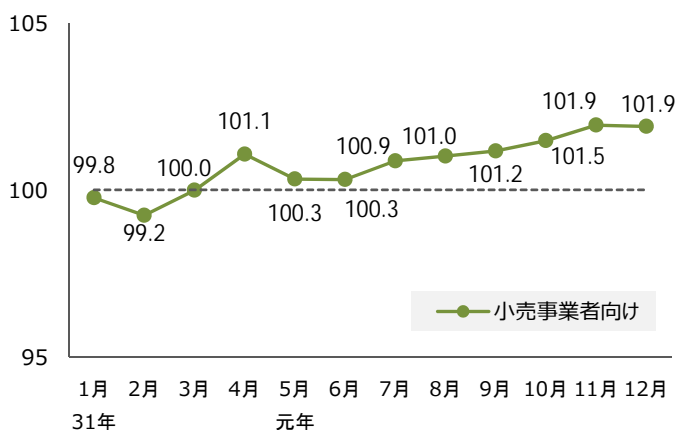
1 販売数量の動向（前年同月比）

	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
小売事業者向け	97%	98%	98%	101%	95%	95%	111%	98%	102%	100%	99%	102%	100%
中食・外食事業者等向け	98%	99%	96%	96%	96%	92%	99%	99%	95%	99%	97%	99%	97%

2 販売価格の動向（30年6月を基準にした値動き）



3 販売価格の動向（前年同月の価格を基準にした値動き）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者である。

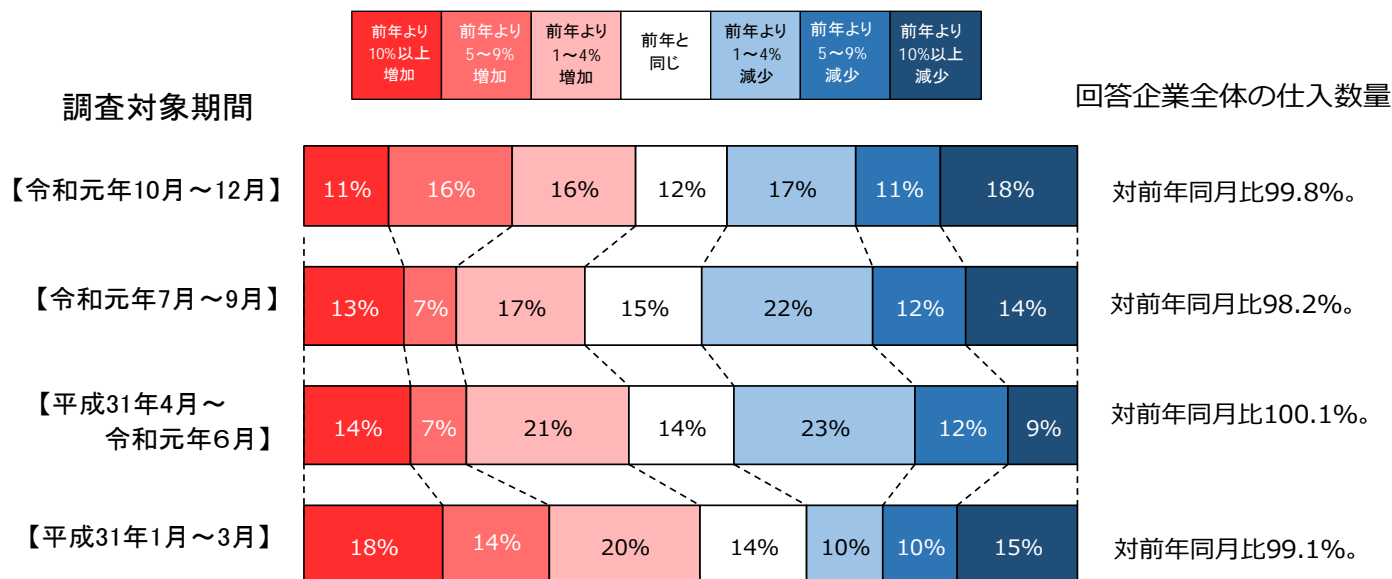
注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

注3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。

(6) 中食・外食事業者の米の仕入状況

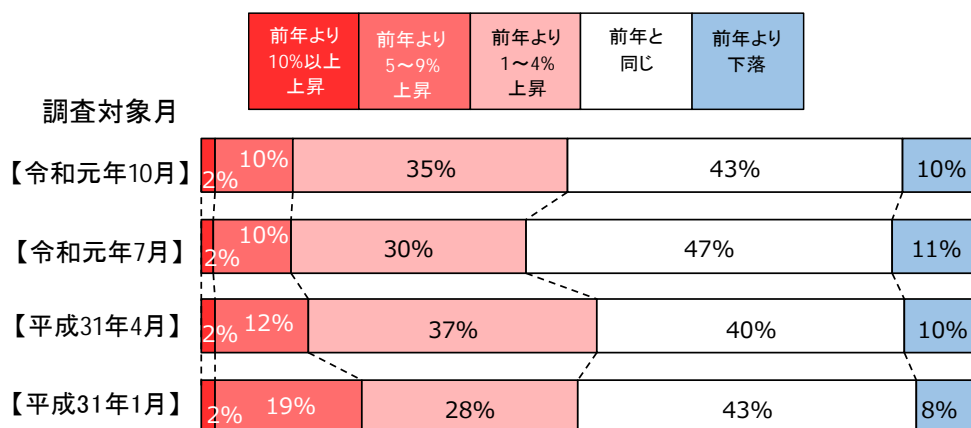
仕入数量の動向（令和元年10月～12月）（前年からの変動別企業数割合）

仕入数量の対前年同月の増減については、前年より「仕入数量が増加」「10%以上減少」と回答した企業割合は前回調査より増加。回答企業全体の仕入数量は対前年同月比99.8%となっている。



仕入価格の動向（令和元年10月）（前年からの変動別企業数割合）

前回調査（令和元年7月）に比べて、仕入価格の対前年比は「前年同月の仕入価格より上昇」と回答した事業者の割合が増加。



注 本調査項目では仕入れた米の年産については調査していないため、必ずしも30年産米の仕入価格を表したものではありません。

<参考：米の相対取引価格（年産平均）>

●29年産：15,595円（対前年比109%） ●30年産（元年8月末現在）：15,686円（対前年比101%）

<当データを利用する上での留意事項>

▶ 日本惣菜協会、日本べんとう振興協会、日本炊飯協会、日本弁当サービス協会、日本フードサービス協会の会員企業（合計387社）にご協力を頂き、令和元年10月から12月までの期間の米の仕入状況に関するアンケート調査を実施いたしました。

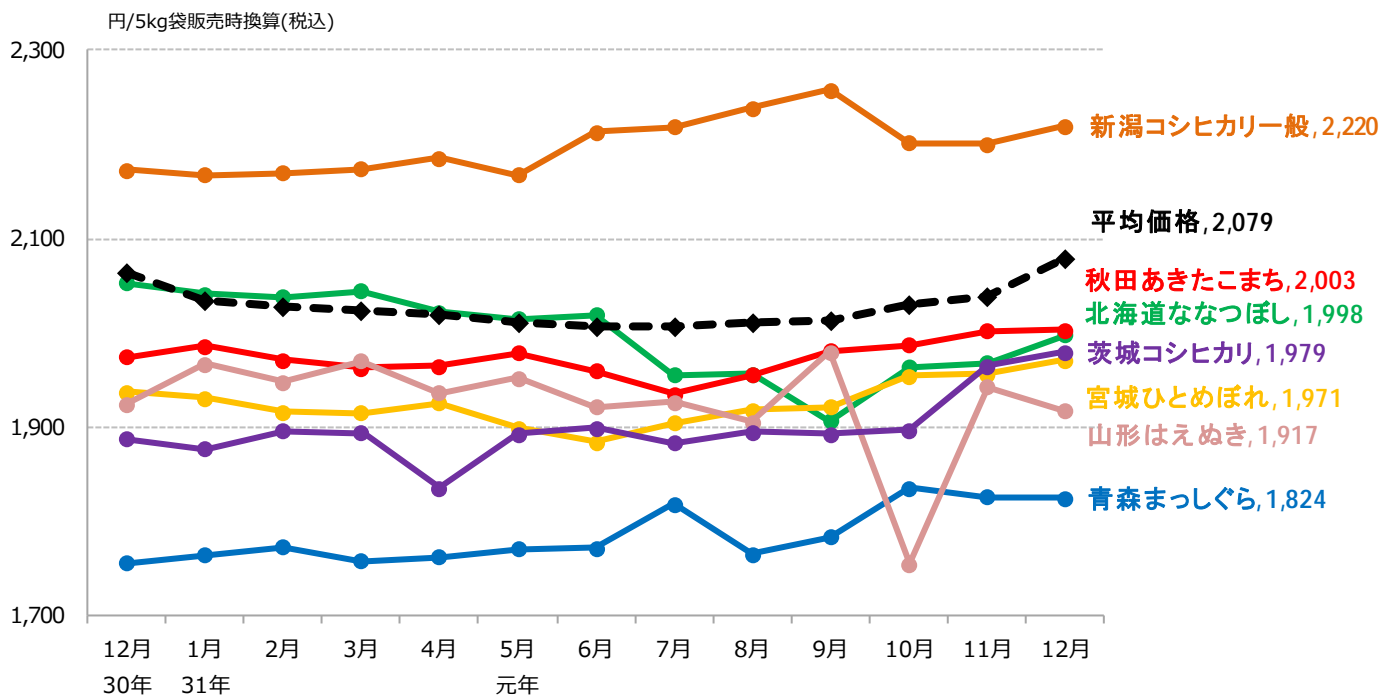
回答がありました119社の企業形態別の内訳は、中食事業者（32社）、外食事業者（7社）、中食・外食事業者に米飯等を提供する事業者（65社）、その他（15社）。

▶ ご協力いただいた企業は東京、大阪圏が多いため、今回取りまとめたデータは必ずしも全国の趨勢を示したものではありません。

本アンケート調査にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(7) 小売価格の推移 (POSデータ)

- 令和元年12月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月比+40円(+2.0%)、対前年同月比+16円の2,079円。



円/5kg袋販売時換算(税込)

	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	全POS取引 平均価格
平成30年 12月	2,053	1,755	1,937	1,974	1,924	1,887	2,173	2,063
平成31年 1月	2,041	1,764	1,931	1,986	1,967	1,876	2,168	2,035
2月	2,038	1,772	1,915	1,971	1,948	1,896	2,170	2,027
3月	2,044	1,757	1,915	1,963	1,970	1,894	2,174	2,024
4月	2,022	1,762	1,926	1,965	1,936	1,835	2,186	2,019
令和元年 5月	2,015	1,770	1,899	1,978	1,952	1,892	2,168	2,011
6月	2,019	1,771	1,884	1,959	1,921	1,899	2,213	2,006
7月	1,955	1,818	1,904	1,935	1,927	1,883	2,219	2,007
8月	1,956	1,765	1,918	1,955	1,905	1,894	2,239	2,010
9月	1,906	1,783	1,921	1,981	1,980	1,892	2,258	2,014
10月	1,963	1,835	1,954	1,987	1,754	1,897	2,202	2,031
11月	1,968	1,825	1,956	2,002	1,942	1,965	2,201	2,039
12月	1,998	1,824	1,971	2,003	1,917	1,979	2,220	2,079
前月比	+ 1.5%	▲ 0.1%	+ 0.8%	+ 0.0%	▲ 1.3%	+ 0.7%	+ 0.9%	+ 2.0%
前年同月比	▲ 2.7%	+ 3.9%	+ 1.8%	+ 1.5%	▲ 0.4%	+ 4.9%	+ 2.2%	+ 0.8%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,037店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注4：全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注5：価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ 輸入米（MA米、CPTPP・国別枠）の動向

1 MA米（一般、SBS）

（1） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計	（単位：千玄米トン）	
							うち一般輸入	うちSBS輸入 ※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度	365	264	56	74	8	767	655	100
平成30年度	359	316	69	15	8	767	701	59
令和元年度 (1月末現在)	180	208	55	0	3	446	402	44

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注：1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果
(平成31年度・令和元年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成31年4～6月分 (長期契約)	23,199	平成31年4～令和元年7月分	2,870
4月分 (月別契約)	322	令和元年8～11月分	3,153
令和元年5月分 (月別契約)	326	令和元年12～令和2年3月分	
6月分 (月別契約)	432		
7～9月分 (長期契約)	23,160		
7月分 (月別契約)	220		
8月分 (月別契約)	458		
9月分 (月別契約)	633		
10～12月分 (長期契約)	23,204		
10月分 (月別契約)	534		
11月分 (月別契約)	612		
12月分 (月別契約)	572		
令和2年1～3月分 (長期契約)			
1月分 (月別契約)			
2月分 (月別契約)			
3月分 (月別契約)			
小計	73,672	小計	6,023
合計		79,695	

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果（令和元年度）

（単位：実トン）

		アメリカ		タイ		中国		オーストラリア		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (令和元年9月27日)	一般米	5,252	276	40		80		260		501		6,409
	砕精米	2,200		200		100						2,500
	計	7,452	276	240		180		260		501		8,909
第2回 (令和元年10月30日)	一般米	4,944	140	761		280				941		7,066
	砕精米	1,800		700								2,500
	計	6,744	140	1,461		280				941		9,566
第3回 (令和元年11月22日)	一般米	5,023		1,132	126	420				297		6,998
	砕精米	2,200	100	200								2,500
	計	7,223	100	1,332	126	420				297		9,498
第4回 (令和元年12月20日)	一般米	2,442	340	1,344		200				230		4,556
	砕精米	2,000		300		200						2,500
	計	4,442	340	1,644		400				230		7,056
第5回 (令和2年1月22日)	一般米	4,333	360	288		100				1,058		6,139
	砕精米	2,116	100	500								2,716
	計	6,449	460	788		100				1,058		8,855
令和元年度計	一般米	21,994	1,116	3,565	126	1,080	0	260	0	3,027	0	31,168
	砕精米	10,316	200	1,900	0	300	0	0	0	0	0	12,716
	計	32,310	1,316	5,465	126	1,380	0	260	0	3,027	0	43,884
平成30年度計 (参考)	一般米	16,364	2,392	4,624	90	594	0	13,203	0	2,477	0	39,744
	砕精米	14,240	940	1,700	1,200	620	0	0	0	100	0	18,800
	計	30,604	3,332	6,324	1,290	1,214	0	13,203	0	2,577	0	58,544
平成29年度計 (参考)	一般米	45,841	2,976	3,506	90	1,580	0	27,863	0	2,007	0	83,863
	砕精米	8,966	1,000	2,012	360	660	0	2,839	0	300	0	16,137
	計	54,807	3,976	5,518	450	2,240	0	30,702	0	2,307	0	100,000
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	6,861	0	1,236	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	0	0	100	0	28,548
	計	52,138	4,300	5,787	496	2,396	0	6,861	0	1,336	0	73,314
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	1,285	0	959	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	0	0	150	0	16,452
	計	15,191	4,718	5,182	1,094	736	0	1,285	0	1,109	0	29,315
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	559	0	767	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	0	0	100	0	4,316
	計	662	3,142	5,272	324	780	0	559	0	867	0	11,606

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」

2 CPTPP・国別枠の見積合わせ結果（令和元年度）

（単位：実トン）

		オーストラリア	
		うるち	もち
第1回 (令和元年5月28・29日)	一般米	856	
	加工品・調製品		
	砕精米		
	計	856	
第2回 (令和元年7月23日)	一般米	803	
	加工品・調製品		
	砕精米	60	
	計	863	
第3回 (令和元年9月24・25日)	一般米	800	
	加工品・調製品		
	砕精米	40	
	計	840	
第4回 (令和元年11月26日)	一般米	300	
	加工品・調製品		
	砕精米	40	
	計	340	
第5回 (令和2年1月28日)	一般米	560	
	加工品・調製品		
	砕精米		
	計	560	
令和元年度計	一般米	3,319	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	140	0
	計	3,459	0
平成30年度計 (参考)	一般米	1,000	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	120	0
	計	1,120	0

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」

Ⅷ その他

(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 令和元年産水稲うるち玄米の令和元年12月31日現在の検査数量は、412万トン。
- 1等米比率は、73.1%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
29	13	244	1,463	3,268	3,851	4,062	4,163	4,279	4,409	4,764
30	21	297	1,446	3,328	3,782	3,962	4,075	4,199	4,325	4,656
参考：前年比	159%	122%	99%	102%	98%	98%	98%	98%	98%	98%
元		193	1,651	3,448	3,929	4,118				
参考：前年比		65%	114%	104%	104%	104%				

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

3 「農林水産大臣の定める様式及び農林水産大臣の定める期日」の告示に基づく報告を集計（公表）したものである。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28	4,928,745	4,110,565	668,746	67,438	81,995	83.4	13.6	1.4	1.7
29	4,763,550	3,919,530	676,990	74,247	92,784	82.3	14.2	1.6	1.9
30	4,655,749	3,737,664	732,043	84,232	101,811	80.3	15.7	1.8	2.2
元(注3)	4,117,525	3,010,119	921,117	126,469	59,820	73.1	22.4	3.1	1.5

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 30年産米までは、生産年の翌年10月31日現在（確定値）。

3 元年産米については、令和元年12月31日現在（速報値）。

(2) 令和元年産水陸稲の収穫量

(令和元年12月10日公表)

水稲の収穫量（主食用）は726万1,000t

調査結果の概要

- 1 令和元年産水稲の作付面積（子実用）は146万9,000haで、前年産に比べ1,000ha減少した。うち主食用作付見込面積は137万9,000haで、前年産に比べ7,000ha減少した。
- 2 全国の10a当たり収量は528kg（1.70mmのふるい目幅ベース。10a当たり平年収量533kg。）となり、前年産に比べ1kgの減少が見込まれる。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は776万2,000tで、前年産に比べ1万8,000tの減少が見込まれる。このうち、主食用の収穫量は726万1,000tで、前年産に比べ6万6,000tの減少が見込まれる。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の10a当たり収量は514kg（10a当たり平年収量519kg）となり、作況指数は99となる見込み。
- 5 令和元年産陸稲の作付面積（子実用）は702haで、10a当たり収量は228kg（10a当たり平均収量対比97%）となり、収穫量（子実用）は1,600tとなった。

令和元年産水稲の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10a当たり収量		収穫量（子実用）			参 考		
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対差	対比				対差	対比			
ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t		
全 国	1,469,000	△ 1,000	100	528	△ 1	7,762,000	△ 18,000	100	1,379,000	7,261,000	99
北 海 道	103,000	△ 1,000	99	571	76	588,100	73,300	114	97,000	553,900	104
東 北	382,000	2,900	101	586	22	2,239,000	102,000	105	344,600	2,015,000	104
北 陸	206,500	900	100	540	7	1,115,000	19,000	102	186,400	1,007,000	101
関東・東山	271,100	800	100	522	△ 17	1,414,000	△ 43,000	97	258,400	1,348,000	97
東 海	93,100	△ 300	100	491	△ 4	457,100	△ 5,300	99	90,500	444,800	98
近 畿	102,600	△ 500	100	503	1	516,400	△ 1,100	100	99,000	498,000	99
中 国	102,100	△ 1,600	98	503	△ 16	513,200	△ 24,600	95	99,400	499,800	97
四 国	48,300	△ 1,000	98	457	△ 16	220,700	△ 12,700	95	47,800	218,500	94
九 州	160,000	△ 400	100	435	△ 77	696,400	△ 124,900	85	155,100	674,300	86
沖 縄	677	△ 39	95	298	△ 9	2,020	△ 180	92	665	1,980	97

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

3 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。

4 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。

5 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm 以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成26年産	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
30	100.0	0.9	1.6	2.3	3.3	17.6	74.3
令和元年産(概数値)	100.0	0.7	1.4	1.9	2.8	15.3	77.9
平均 値	100.0	0.8	1.4	2.0	2.8	15.5	77.5
対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.2	0.4

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である（以下同じ。）。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下同じ。）。

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成26年産	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	536 8,435,000	532 8,368,000	524 8,249,000	513 8,081,000
27	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	531 7,986,000	527 7,922,000	519 7,810,000	509 7,651,000	494 7,435,000	413 6,213,000
28	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	544 8,042,000	540 7,986,000	534 7,889,000	524 7,752,000	511 7,559,000	435 6,434,000
29	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	534 7,822,000	529 7,752,000	521 7,634,000	510 7,470,000	494 7,243,000	409 5,984,000
30	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	529 7,780,000	524 7,710,000	516 7,586,000	504 7,407,000	486 7,150,000	393 5,781,000
令和元年産 (概数値)	10 a 当たり収量 収穫量(子実用)	kg t	528 7,762,000	524 7,708,000	517 7,599,000	507 7,452,000	492 7,234,000	411 6,047,000
	対前年比	%	100	100	100	101	101	105

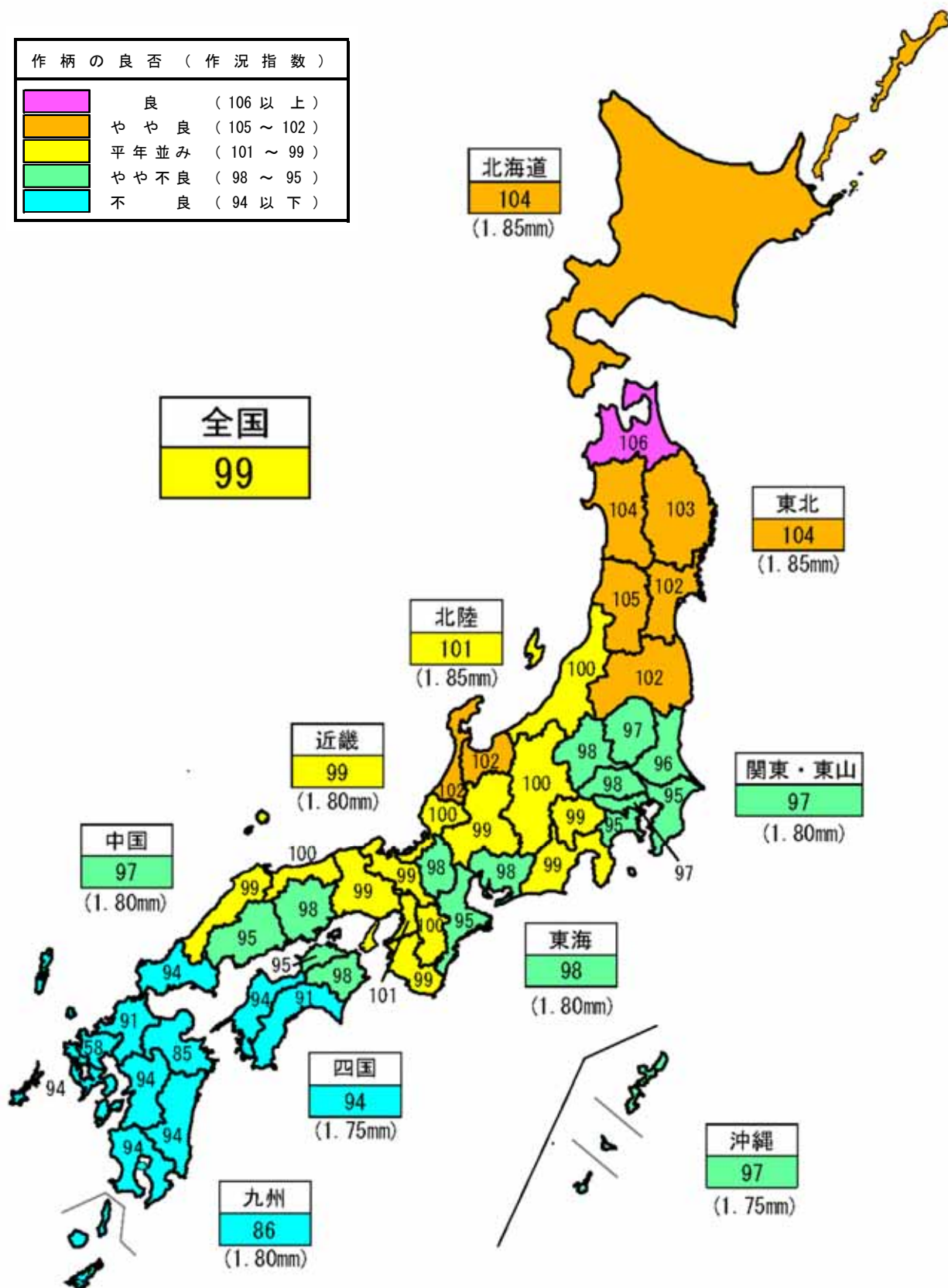
注：1 ふるい目幅別の10 a 当たり収量とは、10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである（以下同じ。）。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである（以下同じ。）。

「令和元年産水陸稲の収穫量」は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y5 】

全国農業地域・都道府県別作況指数 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
■	良（106以上）
■	やや良（105～102）
■	平年並み（101～99）
■	やや不良（98～95）
■	不良（94以下）



注：1 全国農業地域の作況指数の下に記載されている括弧内の数値は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。
 2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 都道府県	作付面積（子実用）				10 a 当たり 収 量 ②	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数 ①	前年産との比較				10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④
		対差	対比					
	ha	ha	%	kg	kg	kg		
全 国 (1)	1,469,000	△ 1,000	100	528	514	519	99	
北 海 道 (2)	103,000	△ 1,000	99	571	555	532	104	
青 森 (3)	45,000	800	102	627	612	575	106	
岩 手 (4)	50,500	200	100	554	538	522	103	
宮 城 (5)	68,400	1,000	101	551	531	522	102	
秋 田 (6)	87,800	100	100	600	577	554	104	
山 形 (7)	64,500	0	100	627	611	580	105	
福 島 (8)	65,800	900	101	560	540	529	102	
茨 城 (9)	68,300	△ 100	100	504	493	515	96	
栃 木 (10)	59,200	700	101	526	514	529	97	
群 馬 (11)	15,500	△ 100	99	486	470	482	98	
埼 玉 (12)	32,000	100	100	482	468	476	98	
千 葉 (13)	56,000	400	101	516	508	532	95	
東 京 (14)	129	△ 4	97	402	390	404	97	
神 奈 川 (15)	3,040	△ 40	99	470	454	478	95	
新 潟 (16)	119,200	1,000	101	542	530	528	100	
富 山 (17)	37,200	△ 100	100	553	540	528	102	
石 川 (18)	25,000	△ 100	100	532	515	506	102	
福 井 (19)	25,100	100	100	520	497	499	100	
山 梨 (20)	4,890	△ 10	100	541	526	533	99	
長 野 (21)	32,000	△ 200	99	620	609	607	100	
岐 阜 (22)	22,500	0	100	482	473	478	99	
静 岡 (23)	15,700	△ 100	99	517	507	513	99	
愛 知 (24)	27,500	△ 100	100	499	490	499	98	
三 重 (25)	27,300	△ 200	99	477	465	489	95	
滋 賀 (26)	31,700	0	100	509	498	506	98	
京 都 (27)	14,400	△ 100	99	505	495	501	99	
大 阪 (28)	4,850	△ 160	97	502	485	480	101	
兵 庫 (29)	36,800	△ 200	99	497	484	489	99	
奈 良 (30)	8,490	△ 90	99	515	502	500	100	
和 歌 山 (31)	6,360	△ 70	99	494	482	486	99	
鳥 取 (32)	12,700	△ 100	99	514	503	504	100	
島 根 (33)	17,300	△ 200	99	506	496	502	99	
岡 山 (34)	30,100	△ 100	100	517	503	514	98	
広 島 (35)	22,700	△ 700	97	499	487	515	95	
山 口 (36)	19,300	△ 500	97	474	461	492	94	
徳 島 (37)	11,300	△ 100	99	464	459	469	98	
早期栽培 (38)	4,340	△ 60	99	456	451	459	98	
普通栽培 (39)	6,940	△ 60	99	470	465	475	98	
香 川 (40)	12,000	△ 500	96	471	464	491	95	
愛 媛 (41)	13,600	△ 300	98	470	463	492	94	
高 知 (42)	11,400	△ 100	99	420	414	454	91	
早期栽培 (43)	6,440	△ 30	100	455	450	476	95	
普通栽培 (44)	4,980	△ 20	100	375	368	425	87	
福 岡 (45)	35,000	△ 300	99	454	433	477	91	
佐 賀 (46)	24,100	△ 200	99	298	291	503	58	
長 崎 (47)	11,400	△ 100	99	455	435	464	94	
熊 本 (48)	33,300	0	100	483	466	497	94	
大 分 (49)	20,600	△ 100	100	435	407	480	85	
宮 崎 (50)	16,100	0	100	465	451	482	94	
早期栽培 (51)	6,300	△ 110	98	459	450	470	96	
普通栽培 (52)	9,780	110	101	469	452	490	92	
鹿 児 島 (53)	19,500	300	102	454	440	468	94	
早期栽培 (54)	4,370	30	101	438	427	435	98	
普通栽培 (55)	15,200	400	103	458	444	478	93	
沖 縄 (56)	677	△ 39	95	298	296	306	97	
第一期稲 (57)	506	△ 21	96	331	330	359	92	
第二期稲 (58)	171	△ 18	90	200	196	159	123	

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

収穫量（子実用）			参 考		
実 数 ⑥＝①×②	前年産との比較		主 食 用 作付面積 ⑦	収 穫 量 （主食用） ⑧＝⑦×②	
	対差	対比			
t	t	%	ha	t	
7,762,000	△ 18,000	100	1,379,000	7,261,000	(1)
588,100	73,300	114	97,000	553,900	(2)
282,200	18,800	107	39,200	245,800	(3)
279,800	6,700	102	48,300	267,600	(4)
376,900	5,500	101	64,800	357,000	(5)
526,800	35,700	107	74,900	449,400	(6)
404,400	30,300	108	56,900	356,800	(7)
368,500	4,400	101	60,400	338,200	(8)
344,200	△ 14,200	96	66,400	334,700	(9)
311,400	△ 10,400	97	54,900	288,800	(10)
75,300	△ 3,600	95	13,600	66,100	(11)
154,200	△ 1,200	99	30,900	148,900	(12)
289,000	△ 12,400	96	53,700	277,100	(13)
519	△ 36	94	129	519	(14)
14,300	△ 900	94	3,040	14,300	(15)
646,100	18,500	103	106,800	578,900	(16)
205,700	△ 200	100	33,300	184,100	(17)
133,000	2,700	102	22,700	120,800	(18)
130,500	△ 2,000	98	23,600	122,700	(19)
26,500	△ 100	100	4,810	26,000	(20)
198,400	△ 600	100	30,900	191,600	(21)
108,500	900	101	21,400	103,100	(22)
81,200	1,300	102	15,600	80,700	(23)
137,200	△ 500	100	26,600	132,700	(24)
130,200	△ 7,000	95	26,900	128,300	(25)
161,400	△ 900	99	30,200	153,700	(26)
72,700	△ 100	100	13,800	69,700	(27)
24,300	△ 400	98	4,850	24,300	(28)
182,900	900	100	35,300	175,400	(29)
43,700	△ 400	99	8,450	43,500	(30)
31,400	△ 200	99	6,360	31,400	(31)
65,300	1,600	103	12,600	64,800	(32)
87,500	△ 4,200	95	16,900	85,500	(33)
155,600	△ 500	100	29,300	151,500	(34)
113,300	△ 9,600	92	22,200	110,800	(35)
91,500	△ 11,900	88	18,400	87,200	(36)
52,400	△ 1,200	98	11,000	51,000	(37)
19,800	△ 700	97	(38)
32,600	△ 600	98	(39)
56,500	△ 3,400	94	12,000	56,500	(40)
63,900	△ 5,300	92	13,500	63,500	(41)
47,900	△ 2,800	94	11,300	47,500	(42)
29,300	△ 800	97	(43)
18,700	△ 1,900	91	(44)
158,900	△ 24,000	87	34,500	156,600	(45)
71,800	△ 57,500	56	23,700	70,600	(46)
51,900	△ 5,500	90	11,300	51,400	(47)
160,800	△ 15,400	91	32,300	156,000	(48)
89,600	△ 14,100	86	20,400	88,700	(49)
74,900	△ 4,500	94	14,600	67,900	(50)
28,900	△ 1,600	95	(51)
45,900	△ 2,900	94	(52)
88,500	△ 3,900	96	18,300	83,100	(53)
19,100	△ 400	98	(54)
69,600	△ 2,900	96	(55)
2,020	△ 180	92	665	1,980	(56)
1,670	△ 250	87	(57)
342	60	121	(58)

4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された⑩10a当たり収量、④10a当たり年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊) 「資料編」の目次

I 契約・在庫情報	
(1) 平成29・30年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成30年7月末から令和元年6月末) (速報)	1
(2) 産地別事前契約数量(累計、うるち米、平成26～29年産)	9
(3) 平成29・30年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米)	11
II 米の価格情報	
(1) 米の相対取引価格の推移(通年平均価格)	25
(2) 業者間取引の状況	28
① 日本コメ市場(随時取引の結果)	
② 日本コメ市場・クリスタルライス(取引会の結果)	
③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
④ 米の現物市場の状況	
III 主食用米以外(輸出を含む)	
(1) 加工用米及び新規需要米等の生産状況	31
① 加工用米の生産量(平成17～令和元年産)	
② 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移(平成20～令和元年産)	
③ 令和元年産 都道府県別の生産状況	
(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、 配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	33
(3) 政府備蓄米の運営	34
備蓄米の買入入札の結果(落札実績)(平成23～令和元年産)	
(4) 商業用の米の輸出数量及び金額の推移	35
(5) 2019年の主な増加要因	36
(6) 米菓の輸出数量及び金額の推移	37
(7) 日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移	38
IV 消費動向	
(1) 米の消費動向(米穀機構による調査)	39
(2) 小売価格の推移(POSデータ、主な銘柄)	42
V その他	
(1) 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和2年1月分)	43
(2) 平成30年産水陸稲の収穫量	48
(3) 水稲作付面積及び収穫量等の年次別推移(全国)	52
(4) 水稲玄米のふり目幅別重量分布状況、 10a当たり収量及び収穫量(子実用)の年次別推移(全国)	52
(5) 年産・都道府県別主食用米の作付面積及び収穫量等の推移	55
(6) 麦・大豆の需要情報	57
① 令和2年産麦の産地別銘柄別入札結果	
② 令和元年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(7) 野菜等の需給情報	64
(8) 米の安定取引研究会報告書の概要	68

○「米に関するマンスリーレポート」を更にご活用いただくため、読み解き方などを解説した特集ページ「米に関するマンスリーレポート解説特集『ここが分からない！マンレポ』」を開設しました！

http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

○米に関する各種情報は「米に関するメールマガジン」でも毎月発信中！ご登録お待ちしております！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

「米の安定取引に向けた取組」へのお願い

—産地と実需の結び付きによる安定的な取引関係の構築—

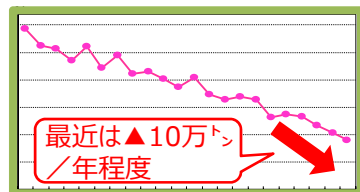
「需給・価格の安定」のために皆様へお願いしたい3つのこと

- 1 産地側から実需者側に直接販売するルート of 拡大
- 2 産地と実需者間での複数年契約等の事前契約の拡大
- 3 用途毎の品質や価格ニーズに対応するため、多収品種の導入等による生産コストの低減

米をめぐる現状

① 米の消費動向

- ・ 我が国の主食用米の消費量は、今後、毎年「約10万トン」程度減少すると見込まれる



② 中食・外食事業者からの声

- ・ 消費量が減少見込みの中、中食・外食向けの米の消費量は堅調に推移
- ・ 一方、中食・外食事業者からは希望する価格帯での調達が難しくなったとの声

米消費における中食・外食割合

H9 18.9%

H30 30.0%

③ 新たな需要の拡大

- ・ 米粉用や輸出用などの新たな需要が拡大する傾向



こうした状況の中で、今後とも米の需給及び価格の安定を図っていくためには、

- ① **産地側が実需者側のニーズを的確に把握**すること
- ② **産地側と実需者側がしっかりと結び付いた安定的な取引関係を構築**することが重要です。

上記3つの取組実施により、**全体での需給の均衡**と、**産地は「安定的な販路の確保」、実需者は「安定的な仕入れの確保」**が、それぞれ図られるものと考えられます。

農林水産省による取組支援

- 農林水産省としても、こうした取組を後押しするため、実需者と産地のマッチング支援や複数年契約の拡大、一般家庭用向け及び中食・外食向けの米の販売動向等の情報提供、各産地における多収性品種の導入等の取組の推進等に努めます。

実需者と産地のマッチングイベント「米マッチングフェア」への支援

米マッチングフェア 2019
2019年8月・9月 2020年1月・2月
東京2回・大阪2回

業務用途への安定取引に向けて

出展無料
大規模生産法人、農協等の皆様へ

産地：大規模生産法人、農協等
実需者：中食・外食、事業者等

業務用途に特化した米の商談会

「米に関するマンスリーレポート」での情報提供

○ 事前契約及び複数年契約数量

播種前時点での事前契約の状況を都道府県別に調査・公表

都道府県	令和元年産米 (平成31年3月末現在)		平成30年産米 (平成30年3月末現在)		対前年同月差	
	事前契約数量 ①	うち複数年契約 ②	事前契約数量 ③	うち複数年契約 ④	事前契約数量 ①-③	うち複数年契約 ②-④
北海道	153.7	153.7	133.6	133.6	20.0	20.0
青森	10.2	10.2	35.0	35.0	▲24.8	▲24.8

○ 中食・外食向けの米の仕入状況調査

中食・外食事業者に対して、米の仕入数量・価格の動向を調査・公表

仕入数量の動向（平成31年1～3月）

企業数割合	10%以上増加		5～9%増加		1～4%増加		前年同		1～4%減少		5～9%減少		10%以上減少	
	18%	14%	20%	14%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	15%			

生産コスト低減に向けた具体的な取組

省力栽培技術の導入

直播栽培（育苗・田植えを省略）

(実証例)
労働時間
18.4時間/10a → 13.8時間/10a
(移植) (直播)
費用(利子・地代は含まない)
103千円/10a → 93千円/10a
(移植) (直播)



スマート農業技術の活用

営農管理システムの導入等により、作業のムダを見つけて手順を改善
(実証例)
田植え作業時間
1.62時間/10a → 1.15時間/10a
(移植作業時間の削減)

密苗栽培

育苗箱数を減らせるため、資材費の低減が可能。
苗継ぎも少なく省力的
(実証例) 育苗箱数 15～18箱/10a → 5～6箱/10a



大規模経営に適合した品種

多収品種

単収
530kg/10a → 700kg/10a
(全国平均) (多収栽培で単収増)
生産費
16千円/60kg(全国平均)
→ 13千円/60kg(試算)

作期の異なる品種の組み合わせ

作期を分散することで、同じ人数で作付を拡大でき、機械稼働率も向上
作業が
1日当たりの作業量
→
作業ピークを分散
→
コシヒカリ 作業時期
→
コシヒカリ 作業時期

担い手への農地集積・集約等

- 今後10年間（2023年まで）で全農地面積の8割を担い手に集積
 - ・ 分散錯圖の解消
 - ・ 農地の大区画化、汎用化

生産資材費の低減

農業生産資材価格の引下げ

- 生産資材業界の再編や法規制等の見直し
- 生産資材価格や取引条件等の「見える化」

農業機械の低コスト仕様

- ・ 基本性能の絞り込み
 - ・ 耐久性の向上
- ⇒ 基本性能を絞った海外向けモデルの国内展開等
(標準モデル比2～3割の低価格化)



肥料コストの低減

- ・ 土壌診断に基づく施肥量の適正化(肥料の自家配合等)、精密可変施肥
 - ・ フレキシブルコンテナの利用(機械化による省力化等)
- ⇒ 土壌改良資材のフレコン利用(20kg袋比7%低価格化)



合理的な農薬使用

- ・ 発生予測による効果的かつ効率的防除
 - ・ 輪作体系や抵抗性品種の導入等の多様な手法を組み合わせた防除(IPM)
- ⇒ 化学農薬使用量抑制

未利用資源の活用

- ・ 鶏糞焼却灰等の利用
- ⇒ 従来品比7%低価格化



○ 問い合わせ先 農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班
代表：03-3502-8111（内線4975） 直通：03-6738-8973

やっぱりごはんでしょ！



MAFF
農林水産省



米の消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」では、

● **皆さんがごはんをもっと好きになる** ● **もっと食べたくなる** 情報をお届けします！

URL : <http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/gohan.html>



掲 載 内 容

企業等における企画・イベントに関する情報

掲載企業は
絶賛募集中！

米の消費拡大につながる

- ・ おかわり無料
- ・ 大盛り無料
- ・ 新製品の開発
- ・ 食育

を実施する企業等を紹介！

●主な掲載企業（五十音順）

大戸屋、株式会社 結わえる、高知食糧、ココス、ごはん処喜楽や、すき家、セブンイレブン、象印食堂、タイガー魔法瓶、太成食品、東洋ライス、鳥元、永谷園、ファミリーマート、ほっともっと、松のや・松乃家・チキン亭、やよい軒、ヤンマーアグリノベーション（株）、吉野家、和食カフェGOHANYA' GOHAN、SABAR PLUS（なんばCITY店、上野マルイ店）、SBIアラプロモ株式会社 など

“ごはん食”に関するお店情報

農林水産省 × 食ベログ

全国各地のごはん大盛り、おかわり無料のお店をご紹介します

農林水産省 × ぐるなび

地域ならではの“ごはん食”が食べられるお店をご紹介します

お米の栄養や、お米を使ったレシピに関する情報

掲載サイト（一部抜粋）

ごはん健康

- お米と健康
- ごはんを中心とした日本型食生活のススメ
- ごはん彩々（全米販）
- 3・1・2弁当箱法
- 早寝早起き朝ごはん全国協議会

ごはんレシピ等

- 和食文化推進協議会
- コメレシピ
- 妊婦さんのためのレシピ紹介
- 農林水産省の公式キッチン（クックパッド）
- お米を使った料理・朝ごはんネット
- 6月30日は夏越ごはん

SNSでも情報発信中！

Twitter/Facebook/Instagramでは、今話題のキャンペーン情報や、お店の取材記事などを紹介！



【 Twitterアカウント 】
@MAFF_GOHAN



【 Facebookアカウント 】
@MAFFGOHAN



【 instagramアカウント 】
@japaneseraiceisbest

目印はこのアイコン写真！



掲載情報のご紹介

障害者福祉施設として初のG-gapを取得 農福連携を進める「わたむきの里福祉会」のご紹介

滋賀県日野町にある社会福祉法人「わたむきの里福祉会」は、2019年12月31日に農産物の国際認証規格であるG-gapを障害者福祉施設として初めて取得しました。

G-gapはこれまで、農産物の輸出入に際しての国際的な判断基準に用いられてきましたが、今年開催の東京五輪・パラリンピックでは選手村で提供するための基準となりました。

わたむきの里福祉会は、「活躍する選手達に自分たちが作ったお米を食べてほしい」という思いから取得を目指し取組を進め、見事達成しました。

社会福祉法人「わたむきの里福祉会」・・・地域の離農者から農地を借り受け、7.5haで米の栽培のほか、販売を行っています。
また、日野町の特産物である日野菜の生産や加工にも取り組んでいます。

詳細はこちら

<http://www.wa-sato.jp/>



兵庫県加古川市立川西小学校で 政府備蓄米を使った実習が行われました。

兵庫県加古川市立川西小学校では、2019年12月17日に政府備蓄米を使用した実習「野菜いっぱい川西農園・収穫祭」を行いました。

政府備蓄米を食べた方からは「いつも食べているご飯とあまりかわらなくて美味しかった」との感想がありました。



ごはんが炊けました



カレーと一緒に食べました

この取組は、「学校給食用等政府備蓄米の交付制度※」を活用したものです。

※小学校・中学校等に対し「米の備蓄制度」をはじめ「ご飯食の重要性」を理解していただくために、学校給食などに使用する米の一部に対し、政府備蓄米を無償で交付する制度です。

詳細はこちら

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/bichikumai.html>

「お米の輸出動画」 配信中！

お米の新しい市場を開拓！ 「日本産米を世界へ」について

お米の輸出の可能性や農水省の輸出促進の取組について解説した動画を配信中！

「どうして今、お米を輸出するの？」「今、生産者や事業者の人はどんなことに取り組んでいるの？」という疑問にお答えします！

1. コメ輸出を取り巻く現状

国内消費量の減少、海外における日本食レストランの拡大、日本産米の輸出状況、中国向け輸出の指定施設の追加等コメ輸出に関する最近の動きを紹介。



「日本産米を世界へ」



3. 輸出産地及び輸出事業者へのインタビュー

現在輸出用の米を生産し、海外での販売に取り組む生産者に対するインタビュー、コメ・コメ加工品の輸出に取り組む事業者のインタビュー等を紹介。



「日本産米を世界へ！輸出への挑戦 生産者たちの声」



2. 輸出手続きに関する情報

コメ輸出に関する手続きの流れ、植物検疫、残留農薬基準、原発事故に係る輸入規制に関する注意点、各手続きに関する問い合わせ先を紹介。



「日本産米を世界へ」(①手続き一般編)



4. 日本産米の海外における需要情報

海外における日本産米の販売事例や求められている米等について、海外のレストランへのインタビューを紹介。



お米の新しい市場を開拓！【おむすび権米衛 in USA】日本産米おにぎりの普及に向けて



QRコードを掲載した動画以外についても、海外レストランでの取組事例や国内の事業者・生産者の取組事例等について、様々な動画を配信しています。

農林水産省HPまたはYouTubeで公開していますので、ぜひご覧下さい！

Youtubeから見る

Youtubeの検索バナーで「お米の輸出」と検索！

お米の輸出 × 🔍

(「日本産米を世界へ」 URLはこちら)

<https://www.youtube.com/watch?v=0w4t0XwHCm4>

農林水産省HPから見る

トップページの「キーワード」にある「米の輸出」をクリック！

(ホーム > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の輸出について)

The screenshot shows the Maff website's navigation menu at the top with categories like '会員・報道・広報', '政策情報', '統計情報', '中継・お問い合わせ', and '農林水産省について'. Below the menu is a search bar with 'キーワードから探す' selected. The main content area features a '注目情報' section with several news items. A callout box points to the 'キーワード' section, where '米の輸出' is highlighted with a red dashed circle. A QR code is visible on the right side of the page.

キーワードの「米の輸出」をクリックすると「米の輸出について」のページに移動します！

URL:http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

お問合せ先：農林水産省政策統括官付農産企画課
(TEL：03-6738-6069)